

Ⅲ 研究事業

研究事業の全体構想

東洋文庫は、1924年、欧文貴重書1,100点余を含む欧文図書資料からなるモリソン（G. E. Morrison）コレクション、ならびに和漢の貴重古典籍からなる岩崎文庫を中核として、岩崎久彌氏によって、アジアの貴重図書資料に関する民間の研究図書館として創設された。その後90年以上にわたり、一貫してこれらの貴重図書資料を中核とする100万冊に及ぶアジア諸地域の現地語資料を継続的・系統的に収集し、それらのすべてを散逸させることなく保存・管理し、同時に広く世界の研究者ならびに市民に公開することを目的とした事業を進めてきた。

研究事業の長期的な目的は、これらのアジア研究に関する貴重図書資料を保存・管理・公開し、なおかつアジア現地語資料を収集・整理して、内外の研究者の利用に供するとともに、これらの資料に基づく広範なアジア研究を推進して、世界のアジア研究の進展に大きく貢献することに置かれている。このような研究事業を289名に及ぶ研究員を擁して推進する類似の民間の研究図書館は国内には存在せず、世界的に見ても稀有な存在であり、アジア研究の長い伝統を有する東洋文庫が世界的に高く評価される理由であると同時に、長年にわたって蓄積されてきた特色ある研究を継続的に推進することは、世界のアジア研究者が切望するところでもある。

研究事業の目的

東洋文庫は、この全体構想をさらに効果的に実現するために、これらの基本的な課題を推進する中で、2012年度以来、以下の点に一層重点を置いて、研究事業を推進してきた。

- (1) 2011年3月11日の東日本大震災の教訓を踏まえ、貴重資料に関する書誌的資料研究をより一層強化し、併せて貴重資料の修復・保管・複製化・電子化という連続した資料保存とその公開をより系統的かつ持続的に推進する。
- (2) 大きく変動するアジア＝世界情勢に対応する研究として、東洋文庫のすべての研究班の連携によって構成される「総合アジア圏域研究班」を設置し、主題研究・地域研究・資料研究を連結した「総合アジア圏域研究」を全アジア的視野から推進する研究体制を構築する。

- (3) 「総合アジア圏域研究」に伴う資料交流・人的交流・国際交流を一層推進し、電子化などによって研究成果を広く発信し、国際的な発信力を強化する。
- (4) 東洋文庫における資料研究・総合アジア圏域研究・国際交流・国際発信などの基本事業に不可欠な若手人材を育成する。

特に2016年度より、①アジア資料研究データベースの構築（試行期）、②資料調査・研究の推進と、それによる現地研究機関との共同研究の推進、③国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進、④研究成果の刊行・発信の強化、⑤若手研究者の育成、という5点の重点事業目標を設定して、研究班によるアジア現地研究・資料調査と収集を基礎に、研究データの保存・管理・公開を一体化した総合的アジア研究データベースの構築を推進すると共に、東洋文庫の刊行物ならびに各種講演会・講習会ならびにミュージアムによる経常的な公開展示などの取り組みを通して、広く内外にその研究成果を発信している。

資料調査・研究の推進と、それによる現地研究機関との共同研究の推進についていえば、系統的かつ継続的にアジアの各地域に関する現地の原語資料を収集し、それを現地の研究者・研究機関と共同して整理・編集して目録を作成し、世界の研究者の用に供している。特徴的な活動としては、中央アジア研究において、ロシア・サンクトペテルブルクのロシア科学アカデミー東洋写本研究所との協力関係・信頼関係のもと、中央アジア出土のウイグル文書の編集を共同で行い、20年間にわたり目録の編集を継続して行い、現在はこれをデータベース化してデータの充実に取り組みつつ内部公開し、外部公開のための協議を行っている。同様に、協力協定機関であるアメリカのハーバード・エンチン研究所や、台湾の中央研究院などとの間で長年にわたって調査協力・国際共同研究・資料交換・人材交流等を行っている。このような研究機関相互の信頼関係に基づいて長期間にわたって継続的に行われる研究活動は、個人や研究グループが短期的に実現できるものではなく、東洋文庫が研究図書館として実施するにふさわしい事業であるといえる。

アジア資料研究データベースの構築についていえば、①資料、②研究（分類・目録・索引など）、③成果、の三者を一体化した総合的アジア研究データベースの作成と、それによる研究データの保存管理、成果の公開発信を目的とするものである。具体的には、アジア各地域の原資料のデジタル化と分析・解読を基礎とし、これに関連する研究情報をメタデータとして付加し、多分野にわたる研究を横断的かつ通時的に検索することが可能な汎用性の高い総

合的研究データベース・システムを構築するべく取り組んでいる。これはアジアに関する基礎資料研究の長い伝統と蓄積を有する東洋文庫だからこそ可能であると同時に、学術団体としての東洋文庫の特徴を十分に体现しようものとする。

2018～2020年度の重点事業目標

東洋文庫の基本的な事業を継続的に推進するなかで、2018～2020年度において重点的に取り組む主要な事業項目を以下に掲げる。

- (1) アジア基礎資料研究の構築と、それによる現地研究機関との共同研究の新展開
- (2) 総合的アジア研究データベースの推進（開発期）
- (3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進
- (4) 研究成果の刊行・発信の強化
- (5) 若手研究者の育成

アジア基礎資料研究については、従来の研究班主体の調査研究体制を改め、研究部執行部の主導のもとアジアのすべての地域に跨がる資料の収集・保存・研究・公開が一体化した、東洋文庫の伝統と蓄積を継承・発展させる基礎資料研究の構築に重点を置く。特に、すべての研究班が参画する総合アジア圏域研究班において、アジア各地の資料に用いられた紙に対して新たに導入する精密顕微鏡による精密調査を行い、時代別・地域別の紙質分布データベースを構築することで、資料の研究・保存・公開の各方面に有効活用できる基礎データを蓄積し、東洋文庫の伝統であるアジア資料学をより深化・展開させることを目指す。また、総合的アジア研究データベースの構築は、2018～2020年度においてもっとも重点を置いている項目の一つであり、2015～2017年度の「アジア資料研究データベースの構築」を試行期、今期を開発期に位置づけ、データ収集、システム開発において完成の域に達することを目標としている。

特定奨励費による本研究事業は、基本的には、アジアに関する資料の収集・保存・研究・公開の一体化とそのための効果的な事業運営に特徴がある。具体的には、【資料の収集・保存】研究者による資料（国内外の専門書・和漢洋の古典籍）の収集、多言語に通じた司書による蔵書資料検索データベースの充実、専門家による和漢洋の古典籍の保存修復、【研究】研究者によるアジア基礎資料研究、研究者によって蓄積された研究データ（研究資源・研究成果）

の保存・活用、若手理系研究者との共同による総合アジア研究データベースの構築および他機関で作成された資料研究データベースとの連携、すべての研究班による総合アジア圏域研究国際シンポジウムの開催、ハーバード・エンチン研究所、ECAF（European Consortium for Asian Field Study）をはじめ協定機関との国際連携の強化、【公開】収集した書籍の蔵書・資料検索データベースによる公開、蓄積された研究データの総合的アジア研究データベースによる公開、定期刊行物・オンラインジャーナル・論叢等出版物・機関リポジトリ「ERNEST」（<https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/>）による研究成果の発信、内外の研究者による広く一般に向けた東洋学講座の開催、外国人研究者による特別講演会の開催、東洋文庫の蔵書に通暁した学芸員によるミュージアムの企画展示などに対し、研究員・司書・学芸員が一丸となって取り組むことで、アジア研究の総合的研究水準を高めると同時に、東洋学に携わる後進の育成と一般への普及に貢献することを目指す。

研究事業の効果

研究事業の効果について、2018～2020年度の重点研究事業である紙料調査を中心に述べる。

a. アジア基礎資料研究

東洋文庫が所蔵するアジア関連の図書・資料は洋書30万冊、和漢書70万冊にのぼり、書写・印刷時期は、洋書は15世紀、和漢書は8世紀を筆頭に、それぞれ現代に及び、書写・印刷地域は、アジアとヨーロッパを中心とした全世界にわたっており、しかも、そのすべてが原典である。このように広範かつアジアに集中した内外の図書・資料を保管・公開して世界のアジア研究者の用に供し、合わせて289名に及ぶ研究員がアジア資料研究に従事する研究図書館は世界に類を見ないといえる。これらの蔵書を維持・管理することは東洋文庫に課せられた使命であり、その記述資料を保存・修復するためには、資料の素材である紙質・紙料の分析が不可欠である。この紙料調査を東洋文庫所蔵資料とアジア諸地域の現地資料館との双方において進めることを、今年3年間の重点事業として計画している。

紙質調査の効果は、諸方面に期待できる。アジア各地の紙の製法・特徴を明らかにすることで、資料に用いられた紙の製造時期・地域が特定できるようになり、ヨーロッパに輸出されたアジアの紙が、印刷された後にアジアにもたらされるなど、紙という文化資源の国際流通の実態や、紙の流通を背景とした書籍流通による知的文化交流の実態が明らかとなる。例えば、古代か

ら楮、三椏で紙を漉いたアジアに比較して、ヨーロッパではリネンや羊皮紙が用いられ、紙文化の好対照をなしている。東洋文庫所蔵資料は時代的にも空間的にも、世界のアジア関連の書籍資料の全体をカバーしており、紙料の標本と紙質の標準を提示するにふさわしい研究を行う条件が整っている。

本研究項目は、全研究班が参画する総合アジア圏域研究によるアジア基礎資料研究において、東洋文庫をはじめ国内外の文献資料の研究・保存修復・公開（閲覧・展示）

を目的に紙質調査を行い、時代・地域と関連づけた紙質分析データのマトリックスを作成し、国際標準として国内外に発信することを目指している。

具体的な取り組みとしては、紙譜（紙の素材資料集）、15世紀のインクナブラ（西洋で作られた最初期の印刷物）やマニユスクリプト（特に西洋の古写本）をはじめとする古今東西の古典籍、紙関係の辞書・研究書・図録等を収集し、若手研究者の協力のもと精密顕微鏡によるサンプル調査を実施し、今後の長期的な調査のための土台づくりを進めている。

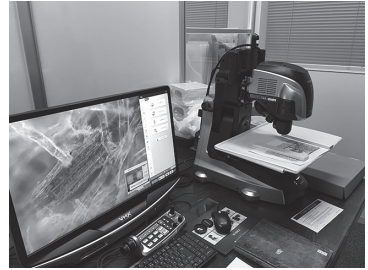
b. 資料収集・整理

資料収集においても、国内の資料館・図書館と連携し、アジア関連紙料の調査及び整理を進めることで、東洋文庫が作成する紙質分析データのマトリックスの一層の充実を図る。また海外の連携研究機関と協力して紙質調査を行い、東西比較に基づく国際的な紙料の分析・分類を行う。同時に、様々な素材・地域で書写・印刷された資料に対して最適の修復・保存方法を検討・実施する。

具体的な取り組みとしては、2018年度より、若手研究者を中心に、書誌学者・歴史学者・保存修復技術者・情報学専門家からなる紙質調査チームを結成し、資料の保存・修復の観点に立った調査が可能な体制を構築した。

c. 資料研究成果発信

文理融合型アジア資料科学研究シリーズとして、これまで開催してきた講習会・講演会・研究会をより幅広い時代・地域を対象に開催し、紙質そのものの歴史的特徴のみならず、同時代における文献・書物の格式と、用いられた紙との関係性を明らかにし、紙料に託された社会的役割を吟味する。また、東洋文庫所蔵資料の紙料をもとに作成された紙質分布データベースが、国際



精密顕微鏡によるインクナブラの調査風景

的な標準たり得るよう、国内外の資料館と連携して、より一層の充実を図ることも必要不可欠である。

具体的な取り組みとしては、紙質分布データベースによる研究成果発信を、より効果的に推進するため、2019年度に国内研究機関とのデータベース連携の検討を開始した。

d. 普及活動

紙料調査は単なる素材分析にとどまらず、紙の特徴から版本の刊行された時代・地域・文化的背景を特定することができる。その成果を、講習会や展示会等の普及活動を通して対外的に発信することで、紙料研究の重要性に対する認知度が高まり、紙とアジアの深いつながりに対する社会的な関心を喚起することができる。また、接写用デジタルカメラを使って資料の特徴を簡易的に捉えることもできるため、この方法を対外的に広めることで、アジア諸地域の歴史資料の収集・整理・保存修復に取り組む資料館や、それらを用いて研究する若手研究者の育成に大きく貢献することができる。

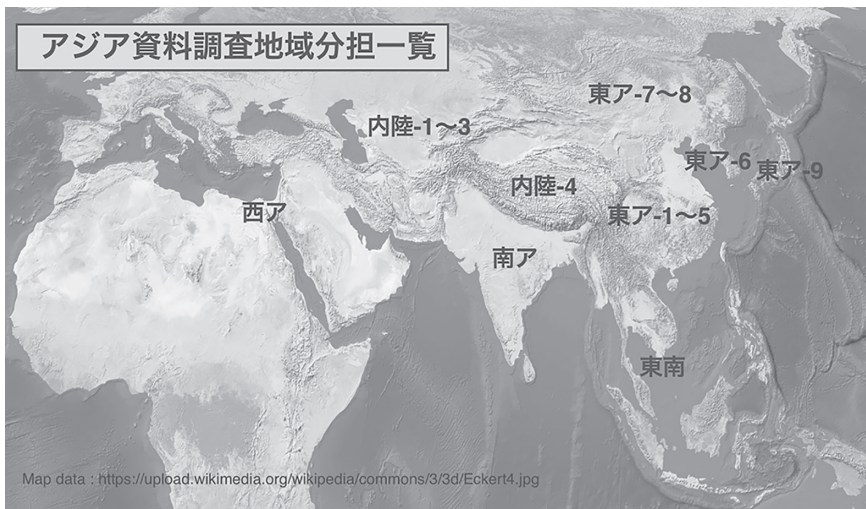
具体的な取り組みとしては、2018年度に紙質調査の一般への普及を目的に、国宝『毛詩』、13世紀刊行の高麗版大蔵経、18世紀のトルコで刊行された『世界の鏡』等の紙質調査を行い、その結果を東洋文庫ミュージアムで展示した。

最後に、2018年度より開始した「東洋文庫奨励研究員制度」は、若手研究者の育成および雇用促進のための体制を一層充実させるものであり、ひいては、東洋文庫の事業の安定的・継続的な実施を可能にし、かつ東洋学の伝統の継承と発展に大きく寄与するものである。その効果は東洋文庫の内部のみにとどまるものではなく、将来にわたって世界の研究者に裨益するとともに、アジアで育まれてきた人類の叡智を広く一般の方々に伝える公益性の高いものとなる。

1. アジア基礎資料研究

2018年度より、従来のアジア各地域の特徴に沿った研究班・研究グループ主体の調査研究を、研究部執行部の主導のもとに統括され、資料の収集・保存・公開・研究が一体化した、東洋文庫の学問的伝統と蓄積、および国内外の研究ネットワークを継承・発展させる研究体制に改編し、「紙料」調査を中心としてアジア諸地域を横断的に比較総合する「アジア基礎資料研究」に重点を置くこととした。具体的には、研究部執行部が統括する5つの重点事業

目標（p.43「2018～2020年度の重点事業目標」を参照）に基づき、西は北アフリカから東は日本までをカバーする全6研究部門13研究班が、20の基礎資料研究テーマ（p.48「アジア基礎資料研究のための6部門13研究班20テーマ」を参照）を設定して相互に連絡・連携を保ちながら、東洋文庫が収集・所蔵する一次資料の文献学的分析（解題・目録・訳注等の作成）と、それに基づく「紙料」研究を持続的に推進した。これらの研究班・研究グループの諸活動は「総合アジア圏域研究」のもとに連結することで、アジア諸地域の歴史と文化の地域連関と相互影響について、アジア全体を視野に入れた学際的共同研究を推進し、現代アジアの複合的・動態的な把握につとめ、その研究成果を、講演会・刊行物・オンラインジャーナル・研究データベース・ミュージアム展示など多様な方法で発信・公開・普及するべく取り組んだ。



本図は、次頁にあげる「アジア基礎資料研究のための6部門13研究班20テーマ」の「略号」によって、各研究テーマが分担する資料調査地域を示したものの。

アジア基礎資料研究のための6部門13研究班20テーマ

部門	研究班	アジア基礎資料研究テーマ	略号	
超域アジア	総合アジア圏域	アジア資料学の深化—保存・研究・普及のための文理融合型アジア資料学の展開と研究データベースの構築	—	
	現代中国	現代中国の総合的研究 (4)	—	
	現代イスラーム	近現代イスラーム地域の構造変動	—	
歴史文化研究	東アジア	前近代中国	中国古代地域史研究	東ア-1
			東アジアの古代・中世遺跡出土の遺構・遺物の考古学的研究	東ア-2
			中国社会経済・基層社会用語のデータベース化	東ア-3
			宋以後の法令分析を通じた中国前近代社会の構造解明	東ア-4
	近代中国	20世紀前半日本の中国調査研究機関に関する総合的研究	東ア-5	
	東北アジア	近世の朝鮮で作製された各種記録類についての基礎的・総合的研究	清代満洲語文書資料及び画像資料等のデータベース化に関する研究	東ア-7
			清代中国諸地域の構造分析：政治・社会経済・民族文化の史的展開	東ア-8
			岩崎文庫貴重書の書誌的研究 (4)	東ア-9
	内陸アジア	中央アジア	非漢字諸語出土古文書の研究	内陸-1
			近現代中央ユーラシアにおける出版メディアと政治・社会運動	内陸-2
			日本所在の敦煌・吐魯番文書の整理と研究	内陸-3
		チベット	チベット語資料の活用とチベット文化の複合的研究	内陸-4
	インド・東南アジア	インド	インド中世・近世における文書史料研究	南ア
		東南アジア	近世東南アジアをめぐる旅行記史料の研究	東南
	西アジア	西アジア	文書資料による比較制度研究	西ア
	資料	東アジア資料	東アジア現地資料の研究	—

A. 資料調査・研究テーマごとの研究体制

○超域アジア研究

〈超域アジア研究部門〉

総合アジア圏域研究班「アジア資料学の深化—保存・研究・普及のための
文理融合型アジア資料学の展開と研究データベースの構築」

総括	斯波義信 [○]
副総括	濱下武志 [○] 、平野健一郎 [○] 、會谷佳光 [○]
現代中国	青山瑠妙、中兼和津次、村田雄二郎、斯波義信 ^{○*}
現代イスラーム	粕谷 元、池田美佐子、吉村慎太郎、湯浅 剛
前近代中国	太田幸男、高久健二、斯波義信 ^{○*} 、山本英史
近代中国	内山雅生
東北アジア	六反田豊、石橋崇雄、細谷良夫、加藤直人、小沼孝博、 小長谷有紀
日本	深沢眞二
中央アジア	梅村 坦、小松久男、氣賀澤保規
チベット	吉水千鶴子
インド	小名康之
東南アジア	弘末雅士
西アジア	三浦 徹、高橋英海
東アジア資料	斯波義信 ^{○*} 、塚原東吾
紙料分析	江南和幸、徐 小潔
歴史地図	大澤顯浩、高橋公明
比較研究	L. グローブ
研究データベース共同研究	會谷佳光 ^{○*} 、相原佳之☆
(研究補助者)	太田啓子☆、小澤一郎☆
	([○] は専従者、* は重複、☆は若手研究者を示す。以下同じ)

現代中国研究班「現代中国の総合的研究 (4)」

総括 村田雄二郎*

副総括	青山瑠妙 *
資 料	斯波義信◎*、貴志俊彦、新村容子、城山智子、村上 衛、岡本隆司
政治・外交	青山瑠妙*、毛里和子、天児 慧、興梠一郎、唐 亮、平野 聡、徐 顕芬、森川裕二、松村史紀、平川幸子、神田豊隆、堀内賢志
経 済	中兼和津次*、巖 善平、丸川知雄、寶劔久俊、唐 成、峰 毅
国際関係・文化	村田雄二郎*、中村元哉、平野健一郎◎*、濱下武志◎*、田中明彦、川島 真、貴志俊彦*、砂山幸雄、高田幸男、古田和子、土田哲夫、尾形洋一、大澤 肇、内田知行、小浜正子、田中 仁、相原佳之☆*、加藤恵美、青山治世

現代イスラーム研究班「近現代イスラーム地域の構造変動」

総 括	粕谷 元 *
副総括	三浦 徹 *
アラブ	池田美佐子*、小杉 泰、鈴木恵美、松本 弘、堀井聡江
トルコ	粕谷 元*、大河原知樹、設楽國廣、秋葉 淳、佐々木紳
イラン	吉村慎太郎*、松永泰行、黒田 卓、鈴木 均、阿部尚史
中央アジア	湯浅 剛*、小松久男*、宇山智彦、長縄宣博、地田徹朗
日本・比較	三谷 博

○歴史文化研究

〈東アジア研究部門〉

前近代中国研究班

「中国古代地域史研究」

総 括	太田幸男 *
-----	--------

副総括 窪添慶文
飯尾秀幸、多田狷介、松丸道雄、藤田 忠、靱山 明、
塩沢裕仁、池田雄一、金子修一、川合 安、小嶋茂稔、
小寺 敦

「東アジアの古代・中世遺跡出土の遺構・遺物の考古学的研究」

総 括 高久健二*

副総括 妹尾達彦
清水信行、早乙女雅博、飯島武次、井上和人、小嶋芳孝、
金沢 陽、菅頭明日香

「中国社会経済・基層社会用語のデータベース化」

総 括 斯波義信◎*

副総括 渡辺紘良
梅原 郁、大澤正昭、徳永洋介、青木 敦、廣瀬紳一、
石川重雄、土肥祐子、濱島敦俊

「宋以後の法令分析を通じた中国前近代社会の構造解明」

総 括 山本英史*

副総括 鈴木立子
宋 代 大澤正昭*、青木 敦*、小川快之
元 代 鈴木立子*
明 代 鶴見尚弘*、岸本美緒、濱島敦俊*
明清代 山本英史*、寺田浩明、西 英昭、高遠拓児、奥山憲夫

近代中国研究班

「20世紀前半日本の中国調査研究機関に関する総合的研究」

総 括 内山雅生*
副総括 久保 亨
政 治 本庄比佐子、松重充浩、田中比呂志
経 済 久保 亨*、金丸裕一、弁納才一、富澤芳亜、吉澤誠一郎、
吉田建一郎
社 会 内山雅生*、高田幸男*、佐藤仁史、浅田進史、山本 真、
瀧下彩子◎

東北アジア研究班

「近世の朝鮮で作製された各種記録類についての基礎的・総合的研究」

総括 六反田豊*

副総括 吉田光男

糟谷憲一、井上和枝、須川英徳、武田幸男、森平雅彦、
山内弘一、山内民博

「清代満洲語文書資料及び画像資料等のデータベース化に関する研究」

総括 加藤直人*

副総括 中見立夫

満洲語・漢語文献

松村 潤、加藤直人*、細谷良夫*、楠木賢道、杉山清彦

満洲語・モンゴル語文献

中見立夫*、柳澤 明

「清代中国諸地域の構造分析：政治・社会経済・民族文化の史的展開」

総括 石橋崇雄*

副総括 C. A. ダニエルス

岸本美緒*、柳澤 明*、武内房司、鶴間和幸

日本研究班

「岩崎文庫貴重書の書誌的研究（4）」

総括 深沢眞二*

副総括 齋藤真麻理

石塚晴通、今西祐一郎、上野英二、大谷俊太、辻本裕成、
宮崎修多、柳田征司、和田恭幸

〈内陸アジア研究部門〉

中央アジア研究班

「非漢字諸語出土古文献の研究」

総括 梅村 坦*

副総括 松井 太

P. ツィーメ、林 俊雄、妹尾達彦*、小田壽典、橘堂晃一、
熊本 裕、森安孝夫、吉田 豊

「近現代中央ユーラシアにおける出版メディアと政治・社会運動」

総括 小松久男*

副総括 長縄宣博*

新免 康、堀川 徹、濱本真実、野田 仁

「日本所在の敦煌・吐魯番文書の整理と研究」

総括 氣賀澤保規*

副総括 片山章雄

妹尾達彦*、岡野 誠、関尾史郎、荒川正晴、石塚晴通*

チベット研究班

「チベット語資料の活用とチベット文化の複合的研究」

総括 吉水千鶴子*

副総括 星 泉

言語・チベット文学 星 泉*

近現代チベット社会 大川謙作

中央アジア出土チベット語文献 武内紹人

仏教・ボン教 御牧克己、宮崎展昌

密教・仏教美術 立川武蔵

仏教思想 川崎信定

歴史 山口瑞鳳

〈インド・東南アジア研究部門〉

インド研究班「インド中世・近世における文書史料研究」

総括 小名康之*

副総括 石川 寛

吉水清孝、水野善文、三田昌彦、太田信宏、萩田 博、
栗山保之

東南アジア研究班「近世東南アジアをめぐる旅行記史料の研究」

総括 弘末雅士*

副総括 嶋尾 稔

牧野元紀、坪井祐司、北川香子、飯島明子、山口元樹、
青山 亨、島田竜登、東條哲郎、工藤裕子

〈西アジア研究部門〉

西アジア研究班「文書資料による比較制度研究」

総括 三浦 徹*

副総括 近藤信彰

ヴェラム文書

佐藤健太郎、吉村武典、亀谷 学、原山隆広◎、三浦 徹*

オスマン帝国資料

林佳世子、永田雄三、秋葉 淳*、大河原知樹*、高松洋一

イラン資料 近藤信彰*、守川知子

中央アジア文書

堀川 徹*、磯貝健一、矢島洋一

○資料研究

〈資料研究部門〉

東アジア資料研究班「東アジア現地資料の研究」

総括 斯波義信◎*

副総括 相原佳之☆*

田仲一成

日本 浅野秀剛、片桐一男、吉田伸之

中国 上田 望、丘山 新、尾崎文昭、片山 剛、佐藤慎一、

戸倉英美、濱下武志◎*、馬場英子、末成道男、

藤井省三、邵 迎建、會谷佳光◎*

朝鮮 藤本幸夫

内陸アジア 森安孝夫*

梅原考古資料 山村義照◎

情報 廣瀬紳一

B. アジア基礎資料研究における重点活動方針

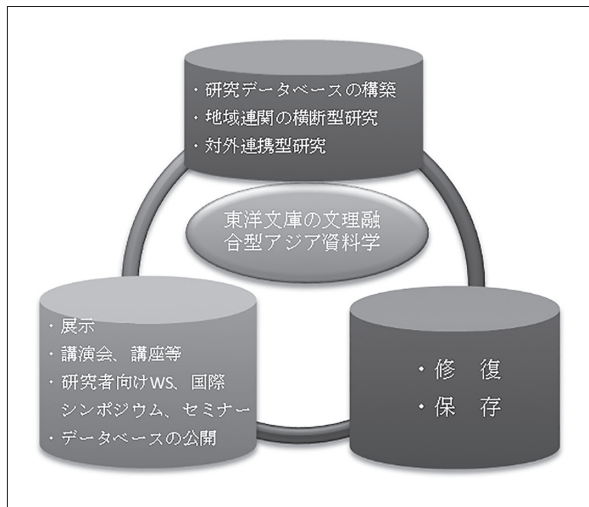
(1) アジア基礎資料研究の構築と、それによる現地研究機関との共同研究の新展開

担当：會谷佳光、相原佳之、小澤一郎、太田啓子

東洋文庫は、国内外を通じて、専門の保存修復室を持つ数少ない研究機関の一つである。資料の素材調査の目的とその意義は、東洋文庫における研究活動・閲覧公開・ミュージアム展示などのすべての局面において、日常的に調査を実施して、その成果を蓄積し保存修復に活用することで、東洋文庫が収集した古今東西の貴重資料を永く後世に伝承することにある。さらに、その成果を研究データベース化して広く発信することで、国内外のアジア関係資料を連携して保存修復・研究・伝承することに貢献することが可能となる。すなわち資料の素材調査と研究データベースによる成果発信は一体不可分であり、東洋文庫が研究図書館として取り組む特色ある研究活動の中心をなす課題であるといえる。

東洋文庫では、故藤枝晃京都大学名誉教授による敦煌出土文書の古写本研究を基礎に、藤枝氏の学問を継承する石塚晴通研究員と、理系研究者としての視点から精密顕微鏡による敦煌文書等の紙質分析で成果を上げてきた江南和幸研究員の指導のもと、2012年度以来、東洋文庫の蔵書を使った素材調査をアジア各地域の資料に対して実施する研究を行い、データの蓄積を進め、それらの成果を継続的に公開講座「アジア資料学研究シリーズ」などを通して明らかにしてきた。

とりわけ強調すべき点は事業遂行のための実施体制の確立である。今回の事業計画の中核をなす紙質研究は、研究者個人の経験と熟練に依拠し、国・地域・言語で分断された従来の書誌学の限界を克服するべく、すべての研究班・研究グループの参加の下にアジア各地域の紙料情報を系統的に調査収集し、東洋文庫所蔵資料の科学的検討に基づいて相互に比較分析しつつ、古今東西のアジア関連資料の紙質に



つき東洋文庫から発信する総合的な国際的分析標準を作成し、地域文化の表象である紙をめぐる「知識」の交流史研究に資する点に重点を置いている。

以下、各研究班が取り組んだアジア基礎資料研究について報告する。

[研究実施概要]

資料のデジタル化公開等による電子図書館の機能を混在させた図書館のハイブリッド化が進む中、資料の現物（書籍・地図・絵画・考古遺物・陶器等）からしか読み取れない情報（紙・墨等の素材や生産された時代・地域等）を分析・研究・蓄積・公開していくことは、アジア・ヨーロッパの様々な時代・地域の資料を所蔵する東洋文庫だからこそ実現可能な研究課題である。

総合アジア圏域研究では、「紙質調査チーム」（下記のメンバー表を参照）が中心となって、紙譜（紙の素材資料集）、15世紀のインキュナブラ（西洋で作られた最初期の印刷物）やマニユスクリプト（特に西洋の古写本）をはじめとする古今東西の古典籍、紙関係の辞書・研究書・図録等を収集するとともに、新たにリースを開始した最新の精密顕微鏡を使用してサンプル調査を実施し、浙江図書館編『中国古籍修復紙譜』（国家図書館出版社、2017年）等の資料から約5,100件の紙質データを蓄積した。インキュナブラの調査方法については、紙質に限らず、印刷に使われたインクの調査を試み、160件のデータを収集した。また、浙江図書館古籍部と交流を行い、紙質データのデータベース化に関する意見交換を行った。このほか、蓄積したデータをもとに、研究データベース・システム開発担当の中村覚氏と打ち合わせを行い、画像データは国際規格 IIF（International Image Interoperability Framework）対応とし、紙質データとその分析結果を書誌情報（出版された年代・地域）とリンクさせることで、年代・地域による紙質分布データベースを構築し、将来的にはAIによる紙質分析も検討することとした。

役割	担当者（所属・職名）
総括・漢文大蔵経諸版の調査	會谷 佳光（研究部・主幹研究員）
研究データベース企画立案	相原 佳之（研究部・嘱託研究員）
研究データベース・システム開発	中村 覚（研究協力者、東京大学情報基盤センター学術情報研究部門・助教）
調査全般・技術指導	徐 小潔（東洋文庫・研究員）
満洲語文献の調査	多々良圭介（研究部・奨励研究員）
漢籍・洋書の調査	段 宇（研究協力者）

役割	担当者（所属・職名）
資料全般	水口 友紀（研究協力者、図書館・保存修復臨時職員）
ちりめん本等の調査	田村 彩子（研究協力者、図書館・保存修復臨時職員）
欧米・アジアの比較研究	L. グローブ（東洋文庫・研究員）
調査研究顧問	江南 和幸（東洋文庫・研究員）
	石塚 晴通（東洋文庫・研究員）

水口・田村は、資料保存の観点から、精密顕微鏡による紙質調査をより安全に推進するため、機器を用いた所蔵資料調査のガイドラインの作成に取り組んだ。また、モリソン文庫等の所蔵資料に対して、紙質の劣化やカビの発生等の兆候が見られないかを定点調査することで、保存・修復・デジタル公開という東洋文庫の基本事業により結びついた紙質調査に取り組むこととした。また、嘱託研究員の中村威也氏が渡欧に際し、イギリスの Victoria & Albert Museum 所蔵の江戸末期～明治の和紙について調査を実施し（8月23日）、今後の紙質調査においても同館の協力を得られることとなった。

古地図研究グループでは、これまで『大明地理之図』4軸（細谷良夫研究員寄贈、文化11年（1814）に模写されたもの）を手がかりとして、外部の古地図研究者等を招いて学際的な研究会を開催してきたが、山国神社（京都市右京区京北）所蔵の『大明地理之図』（延宝9年（1681）書写の原本をもとに元禄3年（1690）に模写されたもの）の存在が明らかとなり、10月5～6日にウィングス京都（京都市中京区）で開催された「京都山国展」にて本図の複製が展示されたのを機に参観・調査を行い、東洋文庫の細谷本と同系統の資料であることを確認した。11月16～17日、山国神社にて、本図の解説作成等に当たった天理大学国際学部教授の藤田明良氏等と打ち合わせを行い、2月12日には藤田教授を東洋文庫に招いて「山国郷の『大明地理之図』とその周辺」の題目で研究報告していただくとともに、画像データを共有するなど連携して比較研究を進めることを検討した。

京都大学大学院文学研究科教授の中砂明德氏より、京都大学大学院文学研究科図書館に『大明省図』2枚（今西春秋旧蔵、書写年不明）が所蔵されるとの情報を得たのを機として、3月11日、東洋文庫の大澤顯浩、高橋公明、濱下武志、中見立夫、村井章介、渡辺紘良各研究員、相原佳之嘱託研究員、多々良圭介奨励研究員、および天理大学の藤田明良教授の9名で閲覧調査を



京都大学における『大明省図』調査の様子

行った。本図は、東洋文庫や山国神社所蔵の『大明地理之図』とは別系統のもので推定されるものの、近世日本における東アジア認識を研究するために格好の資料であることを確認した。また、今後の紙質調査実施を念頭に、接写用デジタルカメラでサンプル的に撮影した。

現代中国研究では、東洋文庫近代中国研究委員会編『明治以降日本人の中国旅行記（解題）』（東洋文庫、

1980年）の続補として、東洋文庫が所蔵する日本人中国旅行記（1950～1980年代）を再点検し、文献目録と解題の作成を継続した（2020年度にWEB公開の予定）。経済グループでは、愛知大学名古屋校舎で開催された中国経済経営学会の場で、毛沢東時代の経済制度と政策に関する研究成果を報告し、参加者と討論を行った（2020年度は過去数年にわたって報告・議論されてきた論文をまとめ、2021年に名古屋大学出版会から出版の予定）。

現代イスラーム研究では、中東・中央アジアの歴史的に重要な諸法令を翻訳し、順次データベース化してWEB公開する作業の一環として、トルコグループでは粕谷元編『トルコにおける議会制の展開』（東洋文庫、2007年）所収のオスマン帝国憲法（1876年）・トルコ共和国憲法（1924年）、八尾師誠・池田美佐子・粕谷元編『全訳 イラン・エジプト・トルコ議会内規』（東洋文庫、2014年）所収のトルコ大国民議会内規（1927年）を必要に応じて改訳するとともに、これらに注釈と解題を付す作業を進めた。その結果、オスマン帝国憲法（1876年）とトルコ共和国憲法（1924年）の翻訳を完成させた（2020年度前半に公開の予定）。イラングループでは、イラン憲法（1906年基本法と1907年補則）の翻訳および注釈を付す作業を行い、全条の下訳を終了した。アラブグループでは、エジプト憲法（1923年）の翻訳および注釈を付す作業を行い、全条の下訳を終了した。これらの作業のために、グループ別の訳文検討会（イラングループ2回、アラブグループ6回）を開催した。「シャリーアと近代：オスマン民法典研究会」（代表：大河原知樹研究員）は研究会を6回開催し、オスマン民法典（メジェッレ）のアラビア語版の日本語翻訳・検討を行うとともに、語彙集の作成を進めた。

東アジア研究では、前近代中国・近代中国・東北アジア・日本の4研究班

を組織し、分担してアジア基礎資料研究に取り組んだ。

前近代中国研究班では、中国古代史研究の深化のため、文献史料の精密な理解と新出史料の利用の双方が必要であることから、原則、月2回研究会を開催して、東洋文庫所蔵の豊富な中国地方志資料および東洋文庫のインターネット環境を活用し、文献史料として『水経注疏』巻10濁漳水篇の精読を進めるとともに、新出史料として『張家山漢簡』津関令・『岳麓書院藏秦簡』亡律の講読と研究を進めた。また、長期に滞在する外国人研究者、張鵬飛氏（広東省警察大学院文学部写作研究室主任）を受け入れ、研究会等を通じて学術交流を行った（【東ア-1】）。なお、略号については、p.48「アジア基礎資料研究のための6部門13研究班20テーマ」を参照。以下同）。

韓国中部・南部地域における原三国～三国時代の出土資料調査を行った。具体的には、慶尚南道昌寧郡校洞古墳群・咸安郡末伊山古墳群、慶尚北道高靈郡池山洞古墳群出土の加耶関係資料、仁川市黔丹遺跡、忠清北道清州市松節洞遺跡・五松遺跡出土の馬韓・百濟関係資料等を調査した。また、末伊山古墳群と校洞古墳群については、発掘調査現場の視察も行った。これらに関連して、原三国～三国時代の発掘調査報告書を収集した。韓国現地資料調査において、忠北大学校史学科・博物館、東亜大学校考古美術史学科・博物館、国立清州博物館、国立加耶文化財研究所、東亜細亜文化財研究院、大東文化財研究院の協力を得た。このうち、東亜細亜文化財研究院とは国際シンポジウムの開催等、共同研究を進めていくことで合意した。今後も協力機関を増やして国際交流を強化する（【東ア-2】）。

明代の日用類書『新刻天下四民便覧三台万用正宗』巻21商旅門のほぼ9割の訳注作業を終えた。さらに同書巻26医学門のほぼ3分の1の訳注作業を終え、動植物・鉱物由来の217項目の葉の一覧表を作成した。同書巻39僧道門もほぼ3分の1の訳注作業を終えた。また、大澤正昭研究員は東洋文庫リポジトリ「ERNEST」に公開中の『明代日用類書研究論文・著作目録稿』（https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=6514、2019年1月）に対して補訂を行い、中文版同目録稿（大澤正昭監修・杉浦廣子編）を『中国古代法律文献研究』第13輯（2019年12月）に掲載した（【東ア-3】）。2018年度に刊行した『中国近世法制史料読解ハンドブック』に続き、若手研究者の養成のためのプログラムとして、新たな研究啓蒙書の作成計画を立て、その準備のための報告会を3回にわたって実施した（【東ア-4】）。

近代中国研究班は、20世紀前半日本の中国調査研究機関に関する資料について、国内研究機関の所蔵資料の分析を進めた。なお、2020年1月より、中

国・台湾において新型コロナウイルスの感染が拡大したため、中国・台湾での共同研究・調査を実施することができなかった（【東ア-5】）。

東北アジア研究班では、戸籍関係資料と帳簿類など冊子体の各種公私記録類について、東京大学総合図書館所蔵資料を対象に書誌学的調査を行うとともに、吉田光男研究員を韓国に派遣して、韓国の研究者との情報交換や大学図書館等での文献調査を実施した。データベース化に向けて、既刊『日本所在朝鮮戸籍関係資料解題』（東洋文庫、2004年）および『日本所在近世朝鮮記録類解題』（東洋文庫、2009年）を編集した際の調査データ（電子データと手書きのノート類）の整理を行った（【東ア-6】）。東洋文庫所蔵の「鑲紅旗檔」、及び「鑲白旗檔」をはじめとする清朝満洲語文書資料に関する研究を進めるとともに、中国における当該研究の中心の一つである吉林師範大学満学研究院との間で「学術研究交流に関する覚書」を締結し、具体的な学術研究交流の準備を進めた。また、1980年代以降に所属研究員が実施した、中国東北部、新疆ウイグル自治区、モンゴル、そしてロシア極東をはじめとする調査の画像・映像資料等に対して整理・研究した成果の一部を、2020年度に刊行物の形で公開するべく、準備を進めた（【東ア-7】）。清代支配構造の基盤解明の一環として遼寧省で調査した『旗地則例』類の読解・検証作業を継続した。また東洋文庫所蔵の孤本、清代『壇廟祭祀節次』の検証作業を通じて生じた「天朝」としての正統性を主張する政策をめぐる新たな問題点の検証が次年度以降に残された。そのため、TBRL『清代諸領域の歴史的構造分析 1：清朝初期政治史研究（1）』、TBRL『清代諸領域の歴史的構造分析 2：清朝祭祀儀礼研究（1）『壇廟祭祀節次』』の出版計画を延期することとなった。また、東洋文庫ミュージアム「大清帝国展」の展示に協力した（【東ア-8】）。

日本研究班では、仮名草子を中心とした『岩崎文庫貴重書書誌解題X』の公刊に向けての準備作業を開始した。『岩崎文庫和漢書目録』に著録される「仮名草子」79点を確認し、岩崎文庫全体から「仮名草子」として取り上げるべき資料を検討・選択した（【東ア-9】）。

内陸アジア研究では、中央アジア・チベットの2研究班を組織し、分担してアジア基礎資料研究に取り組んだ。

中央アジア研究班では、東洋文庫が所有するサンクトペテルブルクのロシア科学アカデミー東洋写本研究所（Institute of Oriental Manuscripts 以下、IOM）所蔵古文獻のマイクロフィルムのカタログについて、2018年度末にIOM当局と開始した協議が2019年度初めに合意に達し、東洋文庫とIOMとの共同編集により3年計画で *Catalogue of the Uyghur and Chinese/Uyghur Manuscripts*

and Xylographs of the Serindia Collection in the IOM RAS (仮題) を出版することとなった。2019年度は第1巻として既発表の写本・木版資料のカタログ編集を行い、東洋文庫側が提供したデータをIOM側が統合して用意したイントロダクション・カタログ本体・ビブリオグラフィの原稿について修正・加筆を進めた。その他、吐魯番の未公開資料に関して、研究成果情報の収集に努めた（【内陸-1】）。近現代中央ユーラシア定期刊行物研究会を3回開催し、20世紀初頭の雑誌『シューラー』、『トルキスタン地方新聞』、『アーイナ』等に掲載されたテュルク語の論説を講読した。その成果は、日本語訳注という形で東洋文庫リポジトリ「ERNEST」に公開する予定である。本研究会のメンバーと以前から協力関係にある、ロシアのカザン連邦大学教授ディリャーラ・ウスマーノヴァ氏の来日を機会として、2月4日に講演会「極東・新疆へのテュルク・タートル系移住者による1920-40年代の教科書・教材の出版：比較評価」（Издание учебников и учебной литературы представителями тюрко-татарской эмиграции Дальнего Востока и Синьцзяна в 1920-1940-х гг.: сравнительная характеристика）を開催し、極東におけるタートル語定期刊行物についても検討がなされた（【内陸-2】）。

日本はかつて敦煌・吐魯番文書やその文物の研究で世界をリードしてきたが、今日では衰退傾向にある。この現状を変えて再び世界をリードしていくためには、共同研究を着実に進め、中堅・若手研究者を一人でも多く育て、研究成果を発表していくしかない。東洋文庫はこの分野で多くの文書研究の成果を上げているものの、戦前来、日本国内の諸機関や個人に所蔵されてきた多数の文書類について、その所蔵状況や内容の系統的把握と集約が十分でない点が課題として残っていた。近年、中国ではこの課題に着手し始めているが、本来これは日本側の研究者が責任を持ってなすべき仕事である。そこで、2019年度は、濱田徳海（1899～1958）旧蔵の敦煌関係文書、所謂「濱田徳海敦煌文書コレクション」の整理と考察を進め、『濱田徳海旧蔵敦煌文書コレクション目録』を刊行した（pp.73～74「(4)研究成果の刊行・発信の強化」を参照）。また、長年敦煌文書の研究に従事してきた土肥義和研究員（2020年3月14日逝去）が残された膨大な文書整理ノート（ダンボール10箱分）が2017年度に寄託された。これらは敦煌文書の研究に貴重な手がかりとなる調査ノートであり、その全容把握とデータベース化のために、部分的に整理を進めた。上記の研究活動の拠点として、内陸アジア古文献研究会を全3回開催した（【内陸-3】）。

チベット研究班では、チベットの歴史、言語、宗教（仏教・ボン教）、社会

に関する一次資料の基礎研究として、トゥカン著『西藏仏教宗義』、中央アジア出土チベット語文献、シャン・タンサクパ著『中観明句論註釈』を研究し、『西藏仏教宗義研究』第11巻、『中観明句論註釈』第3巻の刊行準備を行った（【内陸-4】）。

インド・東南アジア研究では、インド・東南アジアの2研究班を組織し、分担してアジア基礎資料研究に取り組んだ。

インド研究班では、12～16世紀北インドのヒンドゥー王権の銅板文書を中心とした史料研究、近世ムガル帝国の史料目録の作成の一環としての公文書の研究、南インド10～16世紀のヒンドゥー王権の公文書（碑文・銅板文書）を中心とした史料研究を継続した。また、各々の研究分野での近年の研究を中心とした文献目録の作成に取り組んだ。1月25日に研究会を開催し、栗山保之、太田信宏の両研究員が研究発表を行った（【南ア】）。

東南アジア研究班では、「近世東南アジアをめぐる旅行記史料の研究」テーマを推進するため、原則、月3回の研究会を開催した。年度の前半は、昨年度から講読してきた A. Hamilton, *A New Account of the East Indies*, vol. 1の東南アジアをめぐる記述を輪読した。17世紀終わりから18世紀に東南アジアに寄港したハミルトンが、現地人や港市に滞在したヨーロッパ人を含む他の外来系住民との交流を通して、いかなる東南アジア社会像を形成したかを検討した。後半は、17世紀の終わりにサファヴィー朝下のペルシアからシャムのアユタヤ朝に赴いたペルシア使節の航海記 *The Ship of Sulaiman* (tr. by John O'Kane) の Introduction と本文の Part I のペルシアを出発しインドに至るまでを輪読した。ペルシア人の航海記の記述の仕方、当時のインド洋海域世界の港市をめぐる記述を検討した。また前近代の東南アジア社会を検討するための重要な資料となる、東洋文庫所蔵の故仲田浩三氏収集の東南アジア島嶼部を中心とする碑文拓本と関係資料の整理を進めた。その目録『東南アジア島嶼部を中心とする碑文拓本と関係資料』を2020年度に出版するべく準備を進めた（【東南】）。

西アジア研究では、東洋文庫が2015年に購入したヴェラム文書（モロッコの皮紙契約文書）11点の校訂・研究（第2期）のため、月例研究会および集中研究会（弘前大学）を実施し、ヴェラム文書7点のアラビア語校訂テキストおよび英文解説を完成した（【西ア】）。

東アジア資料研究では、台湾の中央研究院歴史語言研究所との交流協定（2015～20年度）に基づき、同研究所から漢籍電子文献資料庫（データベース、約7億字）の提供を受けた。その対価として、東洋文庫所蔵貴重洋書、

10,000コマのデジタルデータを提供した。また、中国大陸の研究者1名を招聘し、データベースに関して研究交流を行った。

(2) 総合的アジア研究データベースの推進（開発期）

担当：會谷佳光、相原佳之

全研究班が参画する総合アジア圏域研究では、研究部執行部の研究データベース共同研究担当者が中心となって研究データベースの構築をより一層推進するため、11月21日、研究データベース会議を開催した。東洋文庫奨励研究員の多々良圭介氏が「メディカルレポートデータベース案」、東京大学情報基盤センター助教の中村覚氏が「画像共有のための国際規格 IIF とその研究活用」、東洋文庫嘱託研究員の相原佳之氏が「東洋文庫のデータベース構築の現状について」という題目でそれぞれ報告を行った後、日本学術振興会特別研究員 PD の井上弘樹氏（元東洋文庫研究部臨時職員）が飯島渉研究員とともに取り組んでいる感染症アーカイブズ (<https://aidh.jp/>) について報告を行い、質疑応答を行った。参加者は16名。東洋文庫所属の研究員に限定せず、研究班・研究グループの枠組みを超えて、広く研究者、特に若手研究者の参加を呼びかけた。

研究部の取り組む研究データベースは蔵書資料のデジタル化とは異なり、東洋文庫の研究員・研究班の長年にわたる資料調査・研究活動の研究成果（論文、著作、索引、訳注、図表など）およびその副産物として収集・作成された研究データ資源を、保存・管理・公開するためのデータベース・システムである。研究データベース会議を基盤に、研究データベース共同研究担当者が研究班・研究グループと協力して所蔵資料のデジタル撮影、およびメタデータ等の作成を進めると同時に、中村覚氏（前出）と協同してシステム開発に取り組んだ。

研究データベース全体のタイムスケジュールについては、下図で示したように、2015～2017年度の試行期を経て、2018～2020年度は、第2段階の「開発期」に位置づけ、研究データベース会議を基盤に研究データベースの開発を進め、共通のフォーマットに基づくプラットフォームを持ち、地域横断的かつ通時代的な汎用性の高い横断検索システムを完成させ、システム開発、およびデータ収集・整理に取り組み、2020年度までの公開を目指している。画像データについては IIF（International Image Interoperability Framework）を

研究データベース構築のための組織体制

研究部執行部、研究員、
外部理工系研究者、SE

研究データベース会議

総合アジア圏域研究班

研究データベース共同研究

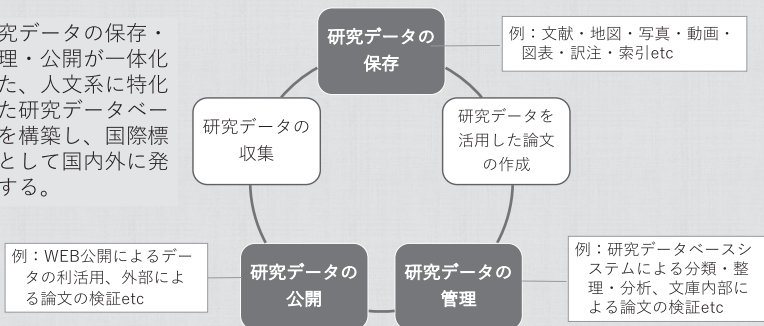
東洋文庫に所属する
研究者

東洋文庫に所属しない
研究者

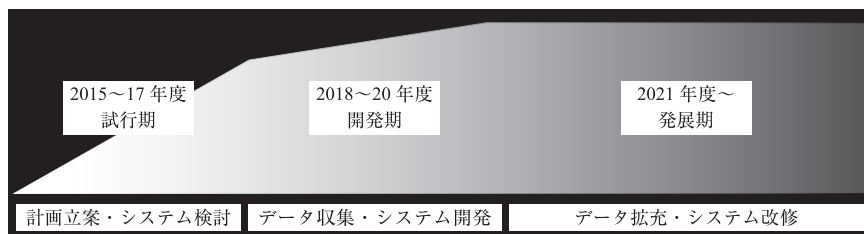
若手研究者の参画と育成

総合的アジア研究データベースのコンセプト

研究データの保存・
管理・公開が一体化
した、人文系に特化
した研究データベー
スを構築し、国際標
準として国内外に発
信する。



導入し、テキストデータについてはTEI (Text Encoding Initiative) を導入するなど、国際規格に準拠したものとすることで、国立情報学研究所 (NII)、アメリカのハーバード・エンチン研究所等、国内外の関係諸機関との連携も視野に入れている。2021年度以降は、第3段階の「発展期」に位置づけ、各研究データベースのデータの拡充、システムの改修に不断に取り組んでいく。



東洋文庫の刊行物のデジタル化公開をより一層推進するため、2018年9月、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」を新システム「JAIRO Cloud」に移行して以降、データの充実に努め (<https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/>)、『東洋文庫書報』のバックナンバー（論文273件）を追加するなど、3月末時点での論文等の登録件数は、2018年度より579件増加して、計4,496件に達した（うち非公開39件）。今後、研究員の研究成果やその副産物を保存管理するための受け皿としても活用していく。

2019年度東洋文庫リポジトリ「ERNEST」利用統計

年 月	検 索	閲 覧	ダウンロード
2019年4月	1,345	3,386	4,029
5月	1,639	4,924	6,605
6月	1,070	7,137	7,859
7月	958	4,275	6,493
8月	916	3,670	7,007
9月	1,659	7,055	10,461
10月	1,003	3,067	11,568
11月	950	3,202	5,411
12月	1,349	3,680	6,938
2020年1月	818	3,289	6,353
2月	769	2,497	4,737
3月	1,499	2,918	5,850
合 計	13,975	49,100	83,311

以下、各研究班が取り組んだ研究データベースについて報告する。

[研究実施概要]

現代イスラーム研究では、日本中東学会と連携して「日本における中東・イスラーム研究文献DB」のアップデートを継続し、1,300件の新文献を「イスラーム地域研究資料室サイト」に掲載し、データベース文献総件数は58,620件（3月末）となった。年間のアクセス数については、後掲の「2019年度研究データベース・アクセス数」を参照。

東アジア研究のうち**前近代中国研究班**では、中国古代史・歴史地理学の基本資料である『水経注図』（楊守敬・熊会貞撰、光緒31年（1905）宜都楊氏觀海堂刊本朱墨套印、全8冊）を全冊カラー撮影した。2020年度中に、地名・記述・位置情報を付与し、かつ345コマにのぼる画像を1枚に接合した画像データを用いて、中村覚氏（前出）の協力のもと、研究データベースとして公開・活用する予定である（【東ア-1】）。朝鮮半島における原三国時代～三国時代遺跡のデータベースの作成を継続した。とくに2019年度は新たに入手した松節洞遺跡と五松遺跡など馬韓・百済の集落および墳墓に関する資料について、マイクロソフト Access を利用してデータベース化に取り組んだ（【東ア-2】）。

「中国社会経済・基層社会用語のデータベース化」グループでは、前近代中国の歴史および転変の流れを、根本史料に即しつつも、表層と基層の史料を相関させて考察し、実態、実相を復元して学界に提供するため、中国史の史料学における基礎作業として、目下の作業の焦点を【基層の社会経済についての用語解の編纂とデータベース化】に置いている。今日、旧中国の伝統文化、経済史、社会史、法制史に関心を持つ研究者、読者は増大しているが、既存の辞書のほとんどは伝統漢学を読解する工具として編纂されており、世相の実態、真相についての知識を求める人々が、随時座右に参照できる用語解・術語解はこれまで存在しなかった。東洋文庫では開設以来《歴代正史食貨志訳註》と題する事業を継続させ、10種の《正史食貨志》本文の訓読と詳しい注釈を蓄積し、〈論叢シリーズ〉として2009年までに『宋史食貨志訳註』（一）～（六）・索引、計7冊（総頁数3,997頁）を公刊してきた。本研究はこの永年の蓄積に基礎を置きつつも、近年、史料学としてまた研究領域として開けてきた新しい分野の成果をも参照して、財政経済、社会文化、法制史、農業史、商業史の諸分野にわたる文献の訓読と注解を続行させ、その成果を逐次データベースとして公開しつつ、2023年に『増補改訂版 中国社会経済史用語解』（唐奨基金）を出版することを計画している。2019年度は『中国社

会経済史用語解』〈法制篇〉Iの約12,000語にわたる用語解説データの入力、及び第1レイヤ～第3レイヤの項目分類をほぼ完了し、研究データベース公開に向けて分類・解説文章の補訂等の追加作業を継続した。『新刻天下四民便覧三台万用正宗』巻21商旅門、及び東北大学・狩野文庫蔵『商賈指南』の語釈1,219項目を整理し、研究データベース公開に向けての補訂作業を継続した（【東ア-3】）。大島立子編『前近代中国の法と社会：成果と課題』（東洋文庫、2009年）所収の小川快之編「宋一清代法秩序民事法関係文献目録」について、現在までの関係文献の情報を増補し、これまでの目録情報と併せてデータベース化するための準備を継続した（【東ア-4】）。

近代中国研究班では、戦前期華中南における中国共産党の活動を分析した「日森虎雄研究所資料」772件について、画像データ化とExcelシート上での整理が完了し、公開に向けた準備を進めた（【東ア-5】）。

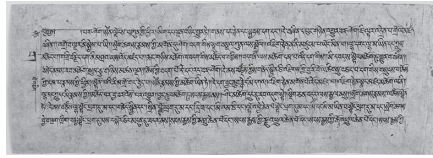
東北アジア研究班では、所属研究員が1980年代以降に実施した、中国東北部、新疆ウイグル自治区、モンゴル、ロシア極東等における調査の画像・映像資料等に対して整理・研究を行った。2019年度は、これら中国各地で集積した満族（清朝）関係の画像・映像データ、パンフレット、地図等の資料を、体系的に整理・研究して、データベース構築の準備作業を進めた（【東ア-7】）。C. A. ダニエルズ研究員が中国雲南省で収集して東洋文庫に寄贈した碑文資料162件について目録整理、碑文の翻字を進めるとともに、IIFによる画像公開とアノテーション機能による釈文の付加について検討を進めた（【東ア-8】）。

日本研究班は、『岩崎文庫貴重書書誌解題X』掲載予定の仮名草子のうち、東洋文庫・日本古典文学会編『菱川師宣絵本』（貴重書刊行会、1974年）にてモノクロで影印出版された岩崎文庫所蔵菱川師宣絵本等10件17冊について、研究データベースとして活用するためにカラーデジタル画像を撮影した（326コマ）。これらの画像は、今後、東洋文庫のデータベース上に公開する予定である（【東ア-9】）。

内陸アジア研究のうち中央アジア研究班では、*Catalogue of the Uyghur and Chinese/Uyghur Manuscripts and Xylographs of the Serindia Collection in the IOM RAS*（仮称）第1巻の編集作業に際して生じたデータ変更について、東洋文庫独自のデータベース「東洋文庫 Uyghur DB（非公開）」に反映する準備を整えた（【内陸-1】）。

チベット研究班は、東洋文庫所蔵河口慧海請来チベット語文献のデータベース化を推進した。①河口慧海請来写本大蔵経の宝積部2巻（全体の55～56巻、

計797コマ)のカラーデジタル画像を撮影した。これに2018年度に撮影した前4巻(全体の51~54巻)を加えて、『宝積部』全6巻の画像データベースに基づく研究データベースの構築が可能となった。さらに華嚴部全6巻中4巻(全体の45~48巻、計1,684コマ)のカラーデジタル画像を撮影した。②河口慧海請来チベット語蔵外文献写本の解読作業を進め、チベット語活字体テキストとして入力し、研究データベースの作成を行い、そのうち5点をTibetan E-Textsとして東洋文庫リポジトリ「ERNEST」に公開した(下記)【内陸-4】。



チベット写本大蔵経のデジタル画像

蔵外399：<http://doi.org/10.24739/00007268>

蔵外408：<http://doi.org/10.24739/00007270>

蔵外411：<http://doi.org/10.24739/00007271>

蔵外431：<http://doi.org/10.24739/00007272>

蔵外454：<http://doi.org/10.24739/00007274>

インド・東南アジア研究のうち東南アジア研究班では、既刊の『東洋文庫所蔵東南アジア関係欧文図書目録』・『モリソン2世文献目録』・『山本達郎博士寄贈書目録』をもとに、「東洋文庫所蔵東南アジア関係旅行記文献目録」をExcelで作成した(全597件)。目録に挙げられた文献は、近世のみならず近代も含まれる【東南】。

東アジア資料研究では、現地調査によって得られた写真・動画・文献資料の電子データ化、及びデータベース化とその公開を実施した。

(一) 写真

梅原考古資料26,000件につき、年次計画に従って、電子化、公開を実施しているが、2019年度は、前年度の縄文時代に引き続き、弥生時代の資料2,774件をデータベースに構成し、電子化して公開した(登録制、山村義照研究員担当)。

http://124.33.215.236/umeharayayoi/umejpyayoi_open_srchinput.php

梅原考古資料 日本 弥生時代之部 画像データベース

資料番号	品名	材質	形状	用途	出土地	発掘年	所有者	保存状態	備考	画像
1	土器	土	壺	炊器	奈良	1950	梅原考古資料	良好		1
2	土器	土	壺	炊器	奈良	1950	梅原考古資料	良好		2
3	土器	土	壺	炊器	奈良	1950	梅原考古資料	良好		3
4	土器	土	壺	炊器	奈良	1950	梅原考古資料	良好		4



梅原考古資料 日本 弥生時代之部 画像データベース

(二) 動画

登録制により、中国地方劇のDVDにつき、動画961件を公開した（田仲一成研究員蒐集）。

<http://122.216.204.236/dvdopen/dvdopen.php>

(3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進

担当：會谷佳光、相原佳之、太田啓子

前記(1)(2)の諸活動によって得られた最新の研究成果を、国際シンポジウム・ワークショップを開催して、広く国際的に発信することで、世界のアジア研究の進展に大きく貢献すべく取り組んだ。その一方で、アジア諸地域の現地研究機関・図書館との学术交流を積極的に推進することで、新たな分野の資料群を探索・収集し、研究図書館としての東洋文庫の一層の充実に取り組んだ。

国際シンポジウムの運営全般、および総合アジア圏域研究班の諸活動に携わって研究活動を補助する人材、および欧文による成果発信を強化するための人材を確保・育成すべく取り組んだ。

また、各研究班の主導により、下記の国際シンポジウム・ワークショップを開催した。

2019年度研究データベース・アクセス数

データベース名	2019年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2020年1月	2月	3月	計
中国経済史用語DB	10,280	10,624	10,834	11,297	10,834	10,915	11,584	11,188	11,576	11,492	10,742	11,378	132,744
宋会要輯稿食貨編 社会経済用語DB	14,964	15,473	15,976	16,615	15,986	16,083	17,027	16,388	16,953	16,923	15,814	16,787	194,989
梅原郁編「唐宋編 年語彙索引」DB	5,015	5,184	5,017	5,290	5,017	5,087	5,559	5,342	5,527	5,497	5,140	5,453	63,128
新版唐代墓誌所在 総合目録(増補版) DB	1,666	1,723	1,668	1,825	1,669	1,861	2,125	2,050	2,123	2,111	1,973	2,101	22,895
日本における中 東・イスラーム研 究文献DB	※2019年4月～2020年3月の期間統計												14,432
梅原考古資料 日本 縄文時代の 部	8,551	11,419	15,140	15,660	22,153	25,574	31,245	35,258	42,867	43,310	40,605	43,203	334,985
同 日本 弥生時代の 部	-	-	-	-	-	-	-	561	17,562	37,763	35,489	37,764	129,139

〔研究実施概要〕

総合アジア圏域研究では、現代イスラーム研究班の粕谷元研究員のコーディネートによって、12月14日、第8回総合アジア圏域研究国際シンポジウム“Structural Changes in the Modern Middle East: Revolution, Constitution, Parliament”を開催した。報告者として、海外留学中の若手研究者2名をはじめ、イラン・トルコ等から外国人研究者4名を招聘して、3つのセッション（1: Islam and Search for Democratization, 2: Islam and Politics, 3: Justice and Society）を設けて発表・コメントを行った。参加人数は、報告者・関係者含め延べ33人。また例年どおりオンラインジャーナル *Modern Asian Studies Review* / 新たなアジア研究に向けて vol. 11に国際シンポジウムの要旨等を掲載した (https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_open-search&index_id=1334)。



ハーバード・エンチン研究所と共催した国際シンポジウムの様子

1月18日・19日、ハーバード・エンチン研究所 (L. グローブ ハーバード・エンチン研究所日本代表、東洋文庫研究員) と東洋文庫 (濱下武志研究部長) の共催で、ハーバード・エンチン研究所の alumni でもある東京大学東洋文化研究所の大木康教授・慶應義塾大学の浅見雅一教授と共同して、国際シンポジウム“Books as Texts and as Objects: The Production, Circulation, and Collection of Knowledge in Asia and Europe”を開催した。プログラムは、基調報告、3つのセッション（1: Materiality of Books and Book Production, 2: Transmission of Ideas through the Circulation of Books, 3: Archives, Creation of Collections and Libraries）で構成した。また18日には、各報告内容に関連した資料計19点の展示を行い、19日のセッション終了後には、斯波義信文庫長が東洋文庫の草創期について講演した。参加人数は、18日が55名、19日が47名（報告者・関係者含む）。

上記シンポジウムの当日のプログラムについては、pp.105～108を参照。

2020年度開催予定の国際シンポジウムについて、コーディネートを担当する中央アジア研究班「非漢字諸語出土古文献の研究」・「日本所在の敦煌・吐魯番文書の整理と研究」両グループと協議を進めた。①ロシア科学アカデミー東洋写本研究所 (IOM) との間で IOM カタログ刊行のための共同編集出版の

協定が成立したこと、②2019年度に『濱田徳海旧蔵敦煌文書コレクション目録』が刊行されたことを受け、「内陸アジア古文書研究アーカイブの役割：敦煌・吐魯番出土古文書をめぐって」（仮）をテーマに、2～3のセッションを設けて、2日間にわたって開催する方針を定めた。

現代中国研究では、政治・外交グループが、9月9日に北京大学教授牛大勇氏を迎えて公開セミナー「1972年米中首脳会談から見る米中関係における日本問題の原点」を主催した。国際関係・文化グループは、11月30日・12月1日に華東師範大学との共催で、同大学歴史系会議室にて、第8回日中共同研究「中国当代史研究」ワークショップを開催し、1950～1980年代の中国政治・外交・経済・社会・文化・思想をテーマに5つのセッションを設けて報告・コメント・総合討論を行い、東洋文庫からは小野寺史郎研究員がコメントーターとして参加した。また、4月6日、カリフォルニア大学サンタバーバラ校の鄭小威氏、8月3日、香港樹仁大学の区志堅氏を招いて研究報告会を行い、今後東洋文庫の「遺産」を米国および香港に発信する基盤を整えた。

東アジア研究のうち**前近代中国研究班**では、「中国社会経済・基層社会用語のデータベース化」グループが、『増補改訂版 中国社会経済史用語解』（唐奨基金）の公刊される時期（2023年度）の前後を目処に、国際シンポジウムの開催について検討した。過去・現在の中国に対して強い関心が集まり、国際的に中国研究者が増大するなか、中国史、中国史料そのものへのアクセスが容易でないとされている。その理由の一つとして、中国語の習熟の困難さと、中国史では史的かつ制度的枠組みが複雑で独自であることが挙げられている。欧米では早くからシナ学の伝統が築かれたためか、中国史やその史料学についての理解や教育法に対する工夫が進んでいる。将来、中国本土、台湾、欧米の専門家を招き、日本で行われているような訓読法をベースにした読解力や、中国学の促進に資する若手研究者の訓練法をめぐって意見の交換がなされることを期待するが、本研究グループの〈用語解〉をめぐる努力も、そうした試みにおいては、有力な話題を提供できると考えている（【東ア-3】）。研究成果の一般への普及を目的に、「宋以後の法令分析を通じた中国前近代社会の構造解明」グループが前期東洋学講座「中国法制史料読解入門」を開催し（【東ア-4】）、「中国古代地域史研究」グループが後期東洋学講座「木簡・竹簡資料への誘い（いざない）」を開催した（【東ア-1】）。詳細については、pp.102～103を参照。

なお、**近代中国研究班**では、3月4日にシンポジウム「戦前期日本の華中・華南調査」の開催を予定していたが、日本国内で新型コロナウイルスの感染

が拡大したため、2020年の開催を取り止めた。各報告については、日本語と中国語のレジュメ作成を完了した（【東ア-5】）。

内陸アジア研究のうちチベット研究班では、2020年9月にチベット大蔵経とその研究史をテーマに国際ワークショップを開催することを検討した（【内陸-4】）。

インド・東南アジア研究のうち東南アジア研究班では、ジャカルタのインドネシア学術研究院を訪れ、近年のインドネシアにおける地域研究や歴史研究について情報収集し、将来の国際シンポジウムの開催の可能性を検討した（【東南】）。

(4) 研究成果の刊行・発信の強化

担当：中村威也、小澤一郎

資料調査・研究の検討過程や研究成果、および国際シンポジウム・ワークショップの内容を紙媒体・電子媒体によって発信する。特に国際シンポジウムはその速報性を重視して、開催年度にオンラインジャーナル *Modern Asian Studies Review*／新たなアジア研究に向けて (https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1052) で概要を発信し、翌年度以降に紙媒体で報告論文集を刊行する。また、従来の和文・欧文による発信を一層推進するとともに、新たに中国語による発信を加えることで、多言語による研究成果の国際発信力を強化し、資料交流・人的交流・国際交流に資すべく取り組んだ。

また、出版物の質的向上をはかるため、東洋学の知識と編集校閲技能を兼ね備えた人材を確保・育成し、かつ日本語論文を英訳するネイティブ・スピーカーの協力を得た。

これらの出版物ならびに電子ジャーナルは、日本・アジア・欧米を結ぶアジア研究の国際交流をさらに促進するものとなるよう。

〔研究実施概要〕

東アジア研究のうち近代中国研究班では、研究成果発表の場として『近代中国研究彙報』第42号を刊行した（【東ア-5】）。

内陸アジア研究のうち中央アジア研究班では、濱田徳海（1899～1958）旧蔵の敦煌文書コレクションの整理と考察を進め、『濱田徳海旧蔵敦煌文書コレ

クション目録』を刊行した。これは大蔵官僚であった濱田氏が戦中戦後にかけて私財を投じて購入した全180点余の敦煌文書コレクションであり、氏の没後一部は国立国会図書館に購入されたが、未購入に終わった残りの大部分が近年中国に流出することになった。東洋文庫は濱田氏の没後まもなく本コレクションの扱いと整理に関与した経緯もあって、残された目録データを整理し直し、報告書にまとめたものである。内容は、研究協力者の速水大氏の整理にかかわる目録部分と、「石塚晴通氏調査記録」、岩本篤志氏による「浜田徳海の敦煌写経の蒐集とそのコレクションの性格」からなる（【内陸-3】）。

インド・東南アジア研究のうち東南アジア研究班では、2015～17年度の研究テーマ「近現代東南アジア史料研究」と2018年度より進展中の「近世東南アジアをめぐる旅行記史料の研究」の研究成果をまとめ、HIROSUE Masashi ed., *A History of the Social Integration of Visitors, Migrants, and Colonizers in Southeast Asia: Role of Local Collaborators* (TBRL21) を刊行した（【東南】）。

西アジア研究では、ヴェラム文書研究（第2期、2016～19年）の成果として、MIURA Toru & SATO Kentaro eds., *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries, Part II* (TBRL22) を刊行した。ヴェラム文書7点（フェス）の校訂と解説のほか、英文論文3点（うち1本はライデン大学 Léon Buskens 教授の寄稿）によって構成され、不動産の売買・賃貸借・寄進に係わる法手続きと農園などの所有の実態を明らかにするものである。Part I の出版（2015年）後、モロッコ国立図書館におけるモロッコの研究者との合同研究集会の開催など、本資料についての国際的な関心の高まりに応える成果である（【西ア】）。

(5) 若手研究者の育成

担当：會谷佳光、相原佳之

東洋文庫では、若手研究者の育成にあたり、常に公益性を重視して、東洋文庫の内部にとどまらず、東洋学の伝統を継承・発展させていくことで、将来にわたって世界の研究者に裨益し、アジアで育まれてきた人類の叡智を広く一般の人々に還元することを目指している。そこで、下記の若手研究者の育成にかかわる取り組みを通して、若手研究者が自発的な研究活動等を行えるよう支援した。

〈科学研究費の応募資格を持たない者に対する支援〉

東洋文庫で研究補助等の業務に従事する若手研究者のうち科学研究費の応募資格を持たない者が、日本学術振興会の科学研究費助成事業（科学研究費補助金）「奨励研究」に申請して教育的・社会的意義を有する研究に取り組む場合、所属機関として「奨励研究」にかかわる諸手続・管理を承諾することで、その研究を積極的に支援する。

〈東洋文庫奨励研究員の任用〉

博士後期課程修了者については、公募・内部推薦を併用して選抜を行い、「東洋文庫奨励研究員」に任用して科学研究費の応募資格を与え、東洋文庫研究員に準ずる者として『東洋文庫年報』の「役職員名簿」にも掲載し、東洋文庫の資料を広範に利用できるようにするなど待遇面の向上を行うと同時に、研究班・研究グループのメンバーとして資料研究・アジア現地資料調査・国際会議に参加するなど実践的な研究指導を行うことで、研究者としての早期の自立を促すなど、若手研究者の育成・雇用促進を進める。

〈インターンシップ活動等の実施〉

研究者育成のためのインターンシップ活動として、ハーバード・エンチン研究所の研修プログラムへの参加や、若手研究発信支援プログラムによる英語論文の作成指導などを実施する。

〈東洋文庫諸事業への参画による実務経験の蓄積〉

奨励研究員経験者を、国際共同研究や国際シンポジウムなど東洋文庫の各種の公開学術活動に積極的に登用し、アジア各地における日本人研究者雇用のニーズに応える。並行して、若手研究者の参加に基づき東洋文庫の研究図書館としての機能を継承発展させる一方、『東洋学報』・『東洋文庫欧文紀要』等の学術誌の編集、資料収集・整理、および研究データベースの開発・発信等において、研究支援者として雇用して実務経験を積ませるなど、若手研究者の育成および雇用促進のための体制を一層充実させ、東洋文庫の事業の安定的・継続的な実施をはかる。

〈若手研究者の雇用と任期中および任期満了後の支援〉

奨励研究員等若手研究者のためのポストとして「嘱託研究員」を設定し、各部署の諸事業に参画しつつ、かつ東洋文庫の所蔵資料を活用して研究を行うことを支援している。2019年度には新たに「嘱託研究員規約」を施行し、嘱託研究員は所属長の許可を得た上で、本来の業務に影響を生じない範囲内で、個人または東洋文庫の研究班・研究グループの調査研究活動等、研究者としてのキャリアアップのために必要な諸活動を行うことができ、かつ文庫から科研費に申請する資格を与え（ただし文庫等での勤務時間外にみずから

主体的な研究を行うだけの十分なエフォートを確保できる場合に限る)、嘱託研究員の任期満了後も東洋文庫の専任研究員として在籍し、文庫の諸施設を利用可能とすること等を定めた。

上記の東洋文庫における若手研究者育成事業についてホームページ上で広く周知する準備を進めた。

[研究実施概要]

内外の若手研究者が国際的に活躍できるスキルを身につけることを支援するため、4月3日、外国人講師ポール・クラトスカ氏（シンガポール国立大学出版会編集長）を講師に迎え、「英文による成果発信支援セミナー」を開催し、若手研究者3名（内部1名、外部2名）の参加を得た。

総合アジア圏域研究では、若手研究者育成の一環として、3月11日に京都大学大学院文学研究科図書館で行った『大明省図』（今西春秋旧蔵、書写年不明）の閲覧・調査に当たり、奨励研究員の多々良圭介氏を派遣した。東洋文庫所蔵の『大明地理之図』（細谷良夫研究員寄贈、文化11年（1814）に模写されたもの）と比較検討させることで、近世日本における東アジア認識について理解するための機会とした。

現代中国研究では、助教・講師クラスの若手研究者との共同論文の作成を通じて、彼らの調査・研究意欲を高めるべく支援した。国際関係・文化グループでは、華東師範大学と、1950～1980年代の中国を対象とする「中国当代史研究ワークショップ」を上海で共催し、公募によって若手研究者に対して報告と交流の場を提供した。このほか、戦後日本人による中国旅行記（1950～1980年代）について、若手研究者を指導しながら目録・解題の作成を進めた。奨励研究員の関智英氏は、日本学術振興会特別研究員PDの採用期間中（2015～2017年度）より『東洋文庫蔵汪精衛政権駐日大使館文書目録』（2016年3月）、『「順天時報」社論・論説目録』（村田雄二郎監修、2017年3月。いずれも東洋文庫刊行）の編纂や、2018年度に奨励研究員に任用されて以降も、近代日中関係史の専門家として、国際関係・文化グループの研究會など研究班の活動に参加し続けてきたが、2020年4月より津田塾大学准教授として着任することが決まった。

現代イスラーム研究では、中東・中央アジアの歴史的法令の翻訳作業において、若手研究者が研究協力者として参加し、中心的な役割を果たすとともに、12月14日開催の国際シンポジウム“Structural Changes in the Modern Middle East: Revolution, Constitution, Parliament”でも報告者として参加した。

東アジア研究のうち、**前近代中国研究班**「中国古代地域史研究」グループの研究会では、若手研究者が参加者の過半を占める。研究員のほか、外国人研究者も加わる形で共同作業として読解・研究を進めることで、若手研究者の研究遂行能力の向上に取り組んだ（【東ア-1】）。韓国における現地資料調査およびデータベース作成に当たっては、専修大学大学院博士課程の韓国人留学生および修士課程の大学院生が研究協力者として参加した（【東ア-2】）。「中国社会経済・基層社会用語のデータベース化」グループの研究会の参加者は、時代別、主題別の分野に関する老練な専門研究者と、修士課程・博士課程・PDから現任の大学教員にわたる若手研究者とが相半ばし、若手研究者には研究報告を求めている。2019年度は、宮内勇弥氏（東京大学大学院修士課程）が「漢魏両晋における異民族への官爵授与」（6月14日）、酒井駿多氏（上智大学大学院博士課程）が「古代中世における異民族と動物説話」（7月12日）について報告を行い、班員と議論を重ねた。また、大川裕子氏（日本女子大学非常勤講師）は月例研究会で明清代の農書『沈氏農書』・『補農書』訳注について継続的に報告し、『上智史学』に順次その成果を公表してきたが、2020年4月より上智大学准教授として着任することが決まった（【東ア-3】）。

近年、首都圏の大学院で中国近世史を専門とする研究者が陸続として定年退職し、同じ地域や時代を専門とする者が必ずしもそのポストを継承できない日本の教育機関の現状においては、この分野の若手研究者の育成が危機に瀕しているといっても過言ではない。そのような状況にあって、2018年度刊行の『中国近世法制史料読解ハンドブック』は、指導者から直接指導を受けられない若手研究者に対し、東洋文庫研究員がこれまで培ってきた研究資源を開放し、この状況を改善する上で非常に意義深いものである。その全文を東洋文庫リポジトリ「ERNEST」で公開することで、紙媒体で発行する以上の発信力を持って、全国の若手研究者を裨益するものとなっている（https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1243）。6～7月に開催した前期東洋学講座「中国法制史料読解入門」は、まさに上記の刊行目的とその意義を外部に伝えるものとなった。その他、新たな研究啓蒙書の作成や、若手研究者に開かれた研究報告会を開催してインターカレッジ的な指導を可能にするための方策を模索した（【東ア-4】）。

東北アジア研究班では、奨励研究員の多々良圭介氏とともに、東洋文庫所蔵の清代文書資料ならびに他研究機関所蔵の文書資料における「紙質」に係わる研究、および中国海関の医学報告（medical reports）所載の記事をデータベース化する作業等に従事することにより、若手研究者が当該文書に関する

さまざまな知識と研究方法を習得できるよう努めた（【東ア-7】）。若手研究者育成の一環として、清代史研究のための満洲語講座を継続して実施した（【東ア-8】）。

内陸アジア研究のうち**中央アジア研究班**の近現代中央ユーラシア定期刊行物研究会のメンバーは若手研究者が中心であり、今後も参加を呼びかけていく（【内陸-2】）。2019年度に刊行した『濱田徳海旧蔵敦煌文書コレクション目録』の目録部分の整理に当たり、若手研究者の速水大氏が中心的な役割を果たした（【内陸-3】）。**チベット研究班**では、チベットの歴史、言語、宗教（仏教・ボン教）、社会に関する一次資料の基礎研究に当たり、若手研究者を指導しながら共同研究を行った。また若手研究者の宮崎展昌氏を客員研究員として新規採用した（2019年7月の採用当時一般財団法人人情情報学研究所研究員、10月に鶴見大学仏教文化研究所准教授に着任）（【内陸-4】）。

インド・東南アジア研究のうち**インド研究班**では、1月25日開催の研究会に外部から若手研究者の参加を受け入れた（【南ア】）。**東南アジア研究班**では、若手研究者の研究会への参加を積極的に促すとともに、彼らの研究構想を発表する場を設け、その成果の一端を *A History of the Social Integration of Visitors, Migrants, and Colonizers in Southeast Asia: Role of Local Collaborators* (TBRL21) に収録した。故仲田浩三氏旧蔵の古ジャワ語刻文拓本資料について、若手研究者がその目録化作業に取り組んだ。班所属の若手研究者山口元樹氏が2020年5月より京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科東南アジア地域研究専攻准教授として着任することが決まった（【東南】）。

西アジア研究では、国内の文書研究プロジェクト（京都外国語大学、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所など）と連携し、文書資料講読セミナーや研究ツールの提供（文書館案内、史料解題など）を進め、若手研究者の育成に寄与した（【西ア】）。

また、嘱託研究員、奨励研究員については、pp.113～114を参照。

C. 日本学術振興会科学研究費による調査研究

(1) 研究成果公開促進費（学術図書）

① 「明代江南戯曲研究」

[研究代表者：田仲 一成]

本書は、明代の経済的最先進地域である江南（江蘇・浙江・安徽）における村落、宗族、市場のそれぞれの祭祀の場面において、どのような種類の戯曲が重視されてきたか、またそれによって明代戯曲にはどのような階層分化が生じていたか、さらにそのような分化が江南の地方演劇の発展にどのような影響を及ぼしてきたか、を明らかにすることを目的としている。

本書は、三篇から成る。まず、第一篇では、明代江南において、演劇の場を構成している三つの場面の社会的構造を検討した。①社祭演劇の場、②宗族演劇の場、③市場地演劇の三場面につき、演劇成立の社会背景、歴史的沿革、社会的機能、戯曲の特徴を文献資料に基づき、分析した。次に第二篇においては、上記三場面に对应して演じられる戯曲の特徴を抽出した。①社祭演劇では、村落秩序の維持をはかるための忠孝節義の戯曲が、②宗族演劇では、冠婚葬祭の場では、婦女の守節を強調する戯曲が、賓客接待の場では、文人好みの唐代伝奇を敷衍した戯曲が、③市場地演劇では、武術を戦わず武戯や鬼神の世界を語る民間宗教戯曲などが好まれた。考察の対象とした戯曲は340種にのぼる。最後に第三篇では、上記三場面に共通に演じられてきた『琵琶記』、『荊釵記』、『白兔記』、『拜月亭記』、『殺狗記』、『西廂記』の6種の戯曲について、そのテキストの字句の上に、上演場所に対応した上記三場面の特徴が反映していることを論じた。考察の対象としたテキスト（版本）の種類は総計123種に達する。

以上の三篇を通じて、江南の郷村社会においては、村落祭祀、宗族祭祀、市場祭祀の三つの場面に对应して、それぞれ異なった指向をめざす戯曲が演じられていたことを明らかにした。

〔研究実施概要〕

田仲一成著『明代江南戯曲研究』1冊 汲古書院刊

②「対日協力者の政治構想—日中戦争とその前後—」

〔研究代表者：関 智英〕

近代中国史研究において、日中戦争期の中国人対日協力者に関する研究は、最も理解が立ち遅れていると言える。本書は、対日協力者の主体性、すなわち、協力者の政治思想・政治構想—自らの立場をどのように規定し、いかなる形で中国の将来を考えていたのか—に着目し、日中戦争とその前後にあって実際になされていた政治言説や活動を復元するものである。

本書刊行の目的は、日中戦争期の中国社会をより立体的に理解することである。対日協力者や占領地政権の存在が、実際には抗戦側の動向にも影響を与えていたことを考えれば、その主体性を理解すること無くして、日中戦争を総合的に理解することはできない。同時にこの試みは、近代の中国社会の実態に迫るものでもある。なぜならば占領地の協力者の動向からは、「抗戦」とはまた違う形で中国ナショナリズムの発露が垣間見えるためである。本書はそうした中国近現代の未発の可能性を探るものでもある。

さらに、日中戦争終結後の協力者の動向にも注目し、戦前・戦後の連続性をも明らかにした。これまで「日中国交正常化」への道程から描かれてきた戦後の日中関係史では埋もれてしまっていた、知られざる交流の存在も明らかにできたのである。

また、本書が扱った占領下で敵との協力を迫られる事態は、世界史上において普遍的に存在してきた。本書は中国史のみならず広く世界各地の占領地研究の発展にも資するものである。

[研究実施概要]

関 智英著『対日協力者の政治構想—日中戦争とその前後—』1冊 名古屋大学出版会刊

(2) 基盤研究 B

① 「戦前・戦中期における華中・華南調査と日本の中国認識」

[研究代表者：本庄比佐子] (2015年度採用、5ヶ年間・最終年度)

戦前・戦中期の中国において、日本の様々な研究調査機関が実施した調査活動資料は、戦後に至ると個別分散的にしか分析されてこなかった。本研究では、戦前・戦中期の中国での調査活動報告等を整理するとともに、その調査内容の実態を究明し、同時期の中国側資料や、近年の中国での研究成果などを比較検討し、当該時期における中国全体の政治・経済・社会文化、ならびに日中関係の特質を、歴史的総合的に考察する。特に、研究対象地域としては、従来の研究では個別にしか取り上げられてこなかった華中・華南地域を中心に、華北に関する研究成果も加えて、中国全土に関する日本の調査研究の全体像を明らかにする。

〔研究実施概要〕

2020年2月までに、過去4年間に収集した資料を分析（4～7月）、華南関係資料のデータベース作成に着手（8月）、収集資料の分析結果を共有・検討（9～11月）、再調査の必要な国内外の研究機関を選定（12～1月）、中国・台湾の研究機関の訪問・調査（2月）を行い、3月までに再調査結果と収集資料のとりまとめを行う予定であった。

2020年2月、中国・台湾の研究機関における資料調査を実施しようとしたところ、新型コロナウイルスの影響により外務省から渡航に関する注意喚起が発令され、予定していた資料調査を行うことができないと判明した。研究遂行上、この資料調査は不可欠であるため、少なくとも8月まで延期することとなった。

上記の理由により本研究課題は2020年度に繰り越しとなったため、2019年度の研究実施概要は次年度の年報において掲載する。

② 「寄進とワクフの国際共同比較研究：アジアから」

〔研究代表者：三浦 徹〕（2017年度採用、4ヶ年間・第3年度）

寄付・寄進という行為は、人類史上広くみられる現象であり、富の再配分や金融や福祉の役割を果たし、寄進財をめぐって国家から独立性をもつ社会組織が形成された。本研究では、イスラーム地域に広がるワクフという寄進制度を、ヨーロッパや東アジアを含め、地域や時代をこえて比較することによって、ワクフの特徴や変化を明らかにするとともに、世界史（人類史）における寄付・寄進の意味を討究する。

- 1) 国際的な研究者ネットワークにもとづく、世界大の比較研究。
- 2) ワクフ・寄進を「所有、契約、市場、公益」の観点（分析軸）から比較し、そのメカニズムのモデルを構築する。
- 3) 日本と中国の寄進をワクフと対照し、論点化することによって、日本から斬新な研究発信を行う。

〔研究実施概要〕

シンガポール国立大学アジア研究所との共催により、比較の視点からの国際研究集会として、Cross-cultural and Comparative Study of Donation, Endowment and Benefit を開催した（2020年2月12日～13日）。

4つの論点を提示したうえで（①死にそなえる：現世から来世へ 財の相

続・共有、②寄進の正当化・制度化：個人として、集団（家族）として、社会として、③機能・管理規範（理念）と実態、④変化と交流）、日本、中国、東南アジア、南アジア、中東・イスラーム、ヨーロッパ・キリスト教世界の6つの地域（文化）圏の地域間・文化間比較によって、通底する問題と相違点を明らかにすることを目的とした。

研究発表者は、日本（東洋文庫）側から5名（神野潔、杉山隆一、松原健太郎ほか）、ベルリン大学の寄進研究グループから3名（Zachary CHITWOODほか）、インドから1名、シンガポール国立大学から3名を得て、双方の代表者である三浦徹と Kenneth DEAN が基調報告および総括コメントを行った。現代のシンガポールにおける中国人の慈善同胞団体の活動の調査報告はヴィヴィッドな情報に富み、歴史研究にも示唆を与えるものであった。ヨーロッパの研究者にとって、日本、中国、東南アジアの現地研究者の発表を聞く機会は少なく、大きな刺激となった。

2月上旬から、シンガポールでは新型コロナウイルス感染防止のガイドラインが実施され、一般参加者の数は限られたが、それでも30名の参加者を得て、集中的な討論を行った。発表の一部は、*Journal of Endowment Studies* (Brill) に寄稿される。

2020年度は、この成果を踏まえた統括的な研究集会を東京（東洋文庫）で開催する。その準備として、諸地域の寄進と慈善に関する主要な資料（研究書）の収集を行った。

③「公論と暴力—革命の比較研究」

〔研究代表者：三谷 博〕（2019年度採用、5ヶ年間・初年度）

この研究は近代に起きた6つの革命を公論と暴力の関係に着目しつつ比較する。取り上げるのはイギリス・フランス・日本・中国・ロシア・中東の革命で、日本と外国の専門家が互いに緊密な議論を行い、最後は英文論文集を刊行する。革命では公論と暴力が同時に誕生するが、暴力が蔓延する条件を探るのが第1の問題である。また、革命の終わりには暴力が排除されるが、その後、公論が維持されて自由な体制が生まれるのか、公論まで排除されて専制体制が生ずるのか、その分岐要因の解明が第2の課題である。さらに、諸革命がどんな連鎖関係に立っていたのか、アジアなど後発革命の側から先行革命の利用の様子を明らかにする。

〔研究実施概要〕

2020年2月までに、顔合わせ会の準備と外国人研究協力者への依頼（5月）、顔合わせ会において年次進行と今年度の計画の打ち合わせ（6月）、外国人研究協力者の変更や獲得に努力（7～8月）、第1回研究会の準備（9～10月）、第1回研究会（仏・日）の開催（11月）、第1回研究会の成果公開を準備（12月）、第1回研究会の成果をWEBに公開（1月）、第2回研究会の準備と海外調査を行い（2月）、3月までに、第2回研究会（英・露）を行う予定であった。

2020年2月、新型コロナウイルスの影響により、所属する機関で不要不急の用務での出張・招聘を自粛する方針となったため、予定した研究分担者2名の海外調査、および3月に予定した研究会への研究分担者・研究協力者2名の招聘ができないことが判明した。そのため、調整の結果、当該者の海外渡航やワークショップ招聘は安全が確認されたあと、最大限9月まで延期する必要が生じた。

上記の理由により本研究課題は2020年度に繰り越しとなったため、2019年度の研究実施概要は次年度の年報において掲載する。

(3) 基盤研究C

①「12世紀アイユーブ朝における言論と伝達—書簡資料の利用による」

〔研究代表者：柳谷あゆみ〕（2017年度採用、3ヶ年間・最終年度）

本研究は12世紀のアイユーブ朝政権における、政権保有者と彼を支える知識人たちの言論と伝達に焦点をあてるものである。

具体的には、同時代の現存書簡をはじめとする（アラビア語で書かれた）資料に基づき、1) 書式と構造を明らかにし、2) 政権の存在と政策の正当性にかかわる議論と主張、3) 政権の成員の知的交流について、その特色と変遷を検討する。

後代のマムルーク朝期における文民官僚たちの手本とされたこれらの書簡の形式・内容を把握することで、アイユーブ朝期の知識人たちが、互いに交流を深め、現状に実際的に対応していく中で構築した理論と慣行の祖型を示し、中世イスラーム政治・社会史研究に有効な知見をもたらすことを目的とする。

[研究実施概要]

- a) アイユーブ朝期の書記カーディー・アルファーディルの現存書簡を収集・整理し、その内容と書式の分析を行った。収集・整理においては、ドバイの個人図書館で先行研究では未発見のコンヤの図書館所蔵の書簡写本を確認し、一部の複写を行った。またベイルートの AUB 図書館蔵のマイクロ資料について、著者死去の100年以内に筆写されており、同年代のモスル稿に次いで古いものであるとの認識を得た。約800通現存するといわれる彼の全書簡の収集完了には至らなかったが、7割程度は収集できた。
- b) 今年度は収集資料を基に書式の整理・分析を進め、スルターン名で発出されるスルターンニーヤと起筆者の名で出されるイフワーニーヤの双方について、書式が宛名人との関係性によって異なることを見出し、その内容を整理した。この結果、ほとんどが部分引用の形でしか残っていない書簡の宛名人と、差出人との関係性が明確になった。十字軍国家との外交関係においても、十字軍国家国王宛書簡の書式から敬称や祈願が省かれていることが確認された。これらの研究成果を第26回イスラーム初期史研究会にて「カーディー・アルファーディルの書簡群：その特色と用途」として報告した。また、この報告は、書簡の技法・内容の地域差・時代差を見出す試みとして、渡部良子氏による13～14世紀モンゴル支配期のペルシア語書簡に関する報告とともにを行い、報告後にそれぞれの特色の比較分析を行った。書簡集に求められる機能の差異により抜粋箇所が異なる点など、書簡による伝達・知的交流の実態を知るうえで有益な成果を得ることができた。
- c) アイユーブ朝の支配の正当性をめぐる主張については、カーディー・アルファーディルらによる書簡群と同時代のアイユーブ朝知識人による史料を用いて分析を進めた。このうち、バハー・アッディーン・イブン・シャッターードによる「サラディン伝」の内容分析を英文で発表予定である（査読通過）。

②「『大正新脩大藏経』編纂の実態に関する書誌学的研究：増上寺報恩蔵を通して」

[研究代表者：會谷 佳光] (2018年度採用、3ヶ年間・第2年度)

現在、冊子体、WEB上のテキスト・画像データベースで、国際的な仏典のスタンダードテキストとなっている『大正新脩大藏経』については、編纂時

の誤脱や衍文の多さが近年指摘されている。しかしながら、その底本や校本に用いられたテキスト、例えば増上寺の三大蔵経（高麗再彫本、宋思溪版、元普寧寺版）など、編纂時に実際に用いられたテキストを使って問題点の実証的な解明を行うことが非常に困難な状況にある。本研究の研究代表者は『大正蔵』の底本・校本として散見する「増上寺報恩蔵本」について、2010年より浄土宗寺院西蓮社にて書誌学的実地調査を重ねてきた。そこで、この西蓮社本と『大正蔵』とを校勘してテキストの異同等の状況を調査分析することで、『大正蔵』の編纂実態の一端を実証的に解明し、そこに内包される問題点を顕在化させることで、『大正蔵』をいかに活用すべきかを利用者へ提起し、国内外の仏教研究に貢献することを目指す。

[研究実施概要]

- a) 『大正蔵』の初版・再刊・普及版それぞれの編纂経緯を解明するため、初版販売開始時の『会則及内容見本』や正蔵55巻完成後に作成された『総目録 付会員名簿・刊行経過要略』及び『大正蔵』普及版18、20～38巻を購入するなど資料収集に努めた。
- b) 8月の京都出張では、大谷大学図書館にて、『大正蔵』の校合担当者に配布されたと思われる『校訂備忘録』『校合内規』、及び『大正蔵』の底本・校本に使われた刊本8点の書誌調査を行い、全文複写を行った。
- c) 再刊時に底本・校本の追加・変更がないかを調べるため、『昭和法宝総目録』第1巻『大正新脩大蔵経勘同目録』から抽出した初版時の底本・校本情報（2018年度着手）を、普及版の脚注に記載される底本・校本情報と比較し、そのデータを整理して「『大正蔵』底本・校本一覧データベース」を構築した。本データベースは、将来的に「SAT 大正新脩大蔵経テキストデータベース」と連携したものとすべく、東京大学情報基盤センター助教の中村覚氏、人文情報学研究所の永崎研宣主席研究員と打ち合わせを行った。
- d) 『大正新脩大蔵経勘同目録』と『大正蔵』各巻の脚注とを比較し、かつ各巻末に掲載される凡例「略符」の変遷を分析することで、『大正蔵』の編纂が3期に分けられること、なかでも第Ⅲ期に底本・校本の採録方針が変更され、脚注における底本・校本の記載方法に大きな変化が生じたことを明らかにした。この作業の過程で、『大正蔵』の初版、再刊、普及版の間には、従来から知られる再刊時の補訂以外にも大小様々な異同があり、例えば再刊の後期配本分に付された正誤表が普及版に取り込まれている部分

がある等、各版間に看過できないテキストの異同があることが明らかとなった。

- e) 西蓮社の協力を得て西蓮社本のスキャニング作業を実施し、52部8,720コマのデジタル画像を作成した。

③「三上次男考古・美術資料の研究とデータベースの作成」

[研究代表者：金沢 陽] (2018年度採用、4ヶ年間・第2年度)

故三上次男博士が、戦前戦後を通じてユーラシア大陸各地の踏査によって遺したフィールドノート（公益財団法人出光美術館蔵）を解析し、同氏の収集遺物（出光美術館および青山学院大学蔵）、および膨大な写真・図面・拓本等（出光美術館蔵）と、このフィールドノートの記載とを結びつけ、考古・美術史資料目録を作成する。そして東北アジア史・東西交渉史の貴重な資料としてデータベースを整備し、後進の研究者の利用に供することを目的とする。これは、同様の先駆的な成果としての東洋文庫『梅原考古資料目録』を意識し、最終的には研究者の閲覧可能な状況に仕上げることを目標とする。

[研究実施概要]

- a) 2019年度は、2018年度から継続して三上次男博士フィールドノートの文字データのデジタル化作業を中心に推進し、基本的書き起こしは9割が達成できたと思われる。また2018年度から新たに課題となった、同フィールドノート内の文字以外の遺跡・遺物・民俗資料等の実測図・スケッチのスキャニングに着手したが、スキャナー設置場所（青山学院大学相模原校舎）での作業に限られる制約から、進捗がはかばかしくない。デジタル化された文字データの内容確認・修訂と、実測図・スケッチのスキャニングが2020年度の課題である。
- b) フィールドノート記載内容の確認については、鹿児島県埋蔵文化財センターにおける窯業史関係の遺跡・遺物の再調査に加え、上海博物館（上海市）および北海道立埋蔵文化財センター（江別市）において、現地研究者の協力を得て調査を実施し、初期の目的を達成した。
- c) 一方、昨年度新たに見つかった、未開梱で目録化されていない青山学院大学史学科相模原校舎保管の三上博士収集資料の開梱・整理は、2019年1月より青山学院大学考古学研究室の助力を得て開始したが、予定されていた保管場所移動のため、2019年4月から2020年2月の間、通算10ヶ月にわた

り凍結され、かつ新型コロナウイルス対策のため、3月に計画された作業の中止を余儀なくされた。またその再開のめども立っていない。

④「西洋における知識革命の物質的基盤の解明—16～18世紀の西洋古典籍の紙分析から」

[研究代表者：徐 小潔] (2019年度採用、3ヶ年間・初年度)

本研究は、ヨーロッパ各地域の16～18世紀の古典籍を調査・分析対象とし、各地域で使用されていた印刷用紙を非破壊的な調査方法を用いて、紙の原材料を解明する。その地域間の差異を検証するうえで、中国を主とする同時代のアジアの紙との比較を行い、当時のヨーロッパで流通していた紙の生産地を明らかにする。同時に、東西貿易に関する史料をオランダやロンドンで収集し、紙質分析の結果とあわせて「紙」の流通ルートを検討する。上記の結果を整理することによって、出版文化が急速に発達した16世紀から、ヨーロッパにおける知識革命に「紙」という物質的基盤を提供した東西交流史の一端を究明する。

[研究実施概要]

2019年度は、二つの方向で研究計画を遂行し、国際シンポジウムなどで報告を行った。

- a) 一つは西洋典籍の調査・分析である。17世紀にヨーロッパ各地で出版された西洋古典—メンデス・ピントの『遍歴記』を中心に紙質の非破壊調査・分析を行った。その結果、ポルトガル、オランダ、ドイツで出版された書籍に使われていた印刷紙は藁が主な原料であったのに対し、イギリス、フランス、イタリア、スペインで出版されたものは主にリネンを原料とする紙が用いられていたことが判明した。今後はヨーロッパの出版文化の転換期である17世紀に出版された印刷書籍に使用された紙のさらなる分析を通して、このような違いが生じた原因を解明していく必要がある。上記内容は“The Scientific Analysis of Paper in Toyo Bunko Collection: Exploring a New Research Methods for Oriental Studies”という題で、国際シンポジウム“Books as Texts and as Objects: The Production, Circulation, and Collection of Knowledge in Asia and Europe” (Harvard-Yenching Institute and Toyo Bunko, January 18–19, 2020) で報告した。
- b) もう一つは和紙を中心に、研究分担者の江南和幸氏が「源氏物語、伝統と

未来 国文学科公開講座講演会」(於：実践女子大学、2019年12月14日)において、「紙は時代の目撃者」を報告した。古典籍の紙質調査の重要性や意義を述べたうえで、和紙とヨーロッパの関係、また紫式部が記述した「紙」について報告した。その内容は、『実践女子大学芸資資料研究所年報』(第39号、2020年3月)に掲載されている。

(4) 若手研究

① 「20世紀前半のインドネシアにおけるイスラーム運動とアラブ地域」

[研究代表者：山口 元樹] (2019年度採用、4ヶ年間・初年度)

本研究は、20世紀前半のインドネシア(当時のオランダ領東インド)におけるイスラーム運動とアラブ地域との関係について考察するものである。国民国家形成期のインドネシアのイスラームについて、この地域の固有の論理とイスラームの持つ広域性・普遍性の双方を踏まえた分析を試みる。

本研究が取り上げる事例は、インドネシアの伝統派イスラーム団体ナフダトゥル・ウラマーにおけるアラブ地域のイスラーム改革主義運動の影響とインドネシアのムスリムによるカイロへの留学の2つである。インドネシアのイスラーム運動とアラブ地域との関係について、思想の受容とヒトの移動によるネットワークの2点を明らかにしていく。

[研究実施概要]

- a) 研究は、20世紀前半のインドネシアにおけるイスラーム運動について、アラブ地域との関係に着目して考察するものである。具体的な研究内容としては、伝統派ムスリムとカイロへの留学という2つのトピックを取り上げる。それらのうち、2019年度は後者を中心に作業を進めた。
- b) 当該年度は研究に必要な資料を集めるために、2019年8月にオランダのライデンとハーグで調査を行った。ライデンではライデン大学図書館、ハーグでは国立公文書館で、カイロのインドネシア人留学生に関するオランダ植民地政庁の報告書、カイロで発行されていたアラビア語の定期刊行物(新聞・雑誌)、そしてインドネシア人留学生団体のパンフレットなどを調べた。この調査によって、カイロのインドネシア人留学生について、特にインドネシアからカイロへの移動の経路・手順やカイロでの学習・日常生活の実態に関して多くの情報を入手することが出来た。

- c) 上記の資料の分析に基づく研究成果の一部は、2020年1月の東南アジア学会中部例会と同年2月の公開シンポジウムで発表した。それらの中では、インドネシア人留学生とマラヤ（マレーシア・シンガポール）出身の留学生との関係やカイロのイスラーム運動との間のネットワークなどについて明らかにした。その後、それらの発表内容をもとに論文の執筆に取り掛かっている。また、2020年3月には本研究のテーマと関係する内容の英語論文が論文集に掲載された。この論文は、インドネシアで1920年代から1930年代に開かれた一連の東インド・イスラーム会議について分析する中で、アラブ地域との連動性についても論じている。

② 「20世紀初頭の西・南アジア境界域におけるアフガン人武器交易ネットワークの研究」

[研究代表者：小澤 一郎]（2019年度採用、3ヶ年間・初年度）

この研究では、西・南アジア境界域で20世紀初頭に盛行したアフガン人の武器交易を対象とし、以下の3つの課題に取り組む。1) ペルシア湾からユーラシア大陸内陸部まで広がるアフガン人の交易網について、海陸両域の交易網を結びつける観点からその全容を明らかにする。2) イラン・インド・アフガニスタンという三国家の狭間で海上・陸上交易の結節点となったペルシア湾北岸マクラーンの「フロンティア」性に注目しつつ、アフガン人による交易活動の具体相を解明する。3) 英領インドをはじめとする周辺諸国家による交易禁圧の過程を追うことで、近代国家の成立とフロンティアの周縁化・消滅、超地域的取引網の変容の過程を跡付ける。

[研究実施概要]

- a) 研究計画の初年度にあたる2019年度は、19世紀末から20世紀初頭までの西・南アジア境界域におけるアフガン人の武器交易の研究に必要とされる史資料の調査と収集を行った。具体的には、2019年8月から9月と2020年2月にイギリスにおいて史料調査を行い、大英図書館と国立公文書館で海軍資料と外務省資料に含まれる19世紀末から20世紀初頭までのペルシア湾における武器取引締関連文書を調査し、必要箇所を撮影した。
- b) 今回の調査により、イギリスのペルシア湾における武器取引規制に関する史料の全体像を把握することができた。しかし、取引に従事するアフガン人の活動を解明するには、彼らの居住地である北西辺境州や、活動の舞台

であるバルーチスタンにかかわるイギリス側史料の調査が必要であることも同時に判明した。

- c) また、アフガン人の活動の舞台であるバルーチスタンの西側を支配するイラン側の史資料については、イギリスにおける史料調査を優先させた関係で、日本およびイギリスで調査可能な刊行史料（定期刊行物・旅行記など）と議会議事録を調査したが、これらにはまとまった情報が含まれていないことも明らかになった。イランにおける文書調査の状況は決して安定しているとは言えず、また海外渡航も短中期的には難しい状況であるが、イランにおいても未刊行史料の調査を行う必要があると考えられる。
- d) 収集した史料に関する読解・検討も開始しており、アフガン人の武器交易の基礎的情報や、研究上重要と思われる論点の洗い出しが完了している。

D. 三菱財団研究助成による調査研究

(1) 人文科学研究助成

「モリソン・コレクションの学際的・総合的研究：近代東アジア史と「アジア文庫」形成の資料的分析」

〔研究代表者：斯波 義信〕（2019年10月採用、1ヶ年間）
※新型コロナウイルス感染拡大の影響により1年間期間延長

本研究は東洋文庫現有のモリソン文庫の資料学的・歴史学的な研究を通じて、モリソンのコレクション全体にわたるいっそう精緻な分析と周到な整理をめざすものである。モリソン文庫は24,000件余りに及ぶ、20世紀初頭の世界随一の欧文書コレクションで、そのうちモリソン自ら蒐集した6,000点余りのパンフレットは、二度と入手できない貴重なものである。本研究は従来おこなってきたパンフレット・コレクションの研究を継承しつつ、時事性の高いパンフレットとそれ以外の古書コレクションとの関連性に着目し、詳しく明らかにすることで、モリソンのコレクション全体の形成過程とそれを成り立たせた歴史過程を解明する。ひいては、モリソンと同時代の東アジアをめぐる知の体系や人々の事実認識のありようばかりでなく、現代における史実の再発見・再構成の方法をも見なおし、現代の日本に東洋文庫が存在することの、世界史上の意義をも明らかにしていきたい。

[研究実施概要]

本研究課題は研究活動を遂行中のため、研究期間終了後の『東洋文庫年報』において掲載する。

(2) 人文科学研究助成「社会的課題解決のための大型連携研究助成」

「20世紀後半の東アジアにおける風土病の制圧過程の検証と疫学的資料の整理・保存・公開」

[研究代表者：飯島 渉] (2019年10月採用、3ヶ年間・1年目)

20世紀の日本社会は、日本住血吸虫症、リンパ系フィラリア症、マラリアなどの感染症や回虫などを原因とする寄生虫症を制圧した。こうした感染症や寄生虫症（風土病ないしは地方病と呼ばれていた）の制圧の経緯は一様ではなかったが、対策のための調査研究にもとづく学知や経験の蓄積の上に、流行地域の住民が積極的に対策に参加し、それを学校保健などの制度や組織が支えたことが大きな特徴であった。また、こうした経験は、1960年代から1970年代に、台湾・韓国や中国に導入され、各地で風土病が制圧された。

本研究計画は、人文学（医療社会史）の研究者と医療・公衆衛生の研究者が共同して、風土病の制圧過程の検証と関連する資料の収集・整理・保全・公開を進め、領域横断的な研究基盤を構築することを目標とする。こうした研究基盤の確立を通じて、今日の医療協力や国際保健に対して効果的な活動を進めるための提言を行うことも可能となる。

[研究実施概要]

本研究課題は研究活動を遂行中のため、研究期間終了後の『東洋文庫年報』において掲載する。

E. 東洋文庫研究員・研究課題一覧

研究員名	研究課題
會谷 佳光	和刻本を中心とした仏典の書誌学的研究
相原 佳之	中国明清時代環境史
青木 敦	宋代の法と経済
青山 亨	古代ジャワ史・ジャワ文学研究

研究員名	研究課題
青山 治世	清代—近現代の中国外交史
青山 瑠妙	現代中国政治・外交の研究
秋葉 淳	オスマン帝国末期の社会および制度
浅田 進史	独中関係史
浅野 秀剛	日本版画美術の研究
阿部 尚史	イランにおけるムスリム家族史
天児 慧	現代中国の政治体制及び国際関係
新井 政美	トルコ近代史
荒川 正晴	中央アジア古代史
飯尾 秀幸	中国古代国家史
飯島 明子	東南アジア大陸部北部の歴史
飯島 武次	殷周時代の考古学研究
飯島 涉	医療社会史
池田美佐子	エジプト近現代史
池田 雄一	中国古代社会史
石川 寛	南アジア史
石川 重雄	中国巡礼社会史の研究
石塚 晴通	日本語の歴史的研究、古代漢字文献学
石橋 崇雄	清朝政治史
磯貝 健一	イスラーム期中央アジア古文書研究
井上 和枝	朝鮮時代郷村社会史研究・朝鮮女性史研究
井上 和人	東アジア古代都城制度の比較研究
今西祐一郎	源氏物語を中心とした平安時代文学の研究
林 載桓	中国政治、比較政治学
上田 望	中国長編小説
上野 英二	平安朝文学の研究
内田 知行	中華民国社会史
内山 雅生	近代中国華北農村経済史
梅原 郁	宋元時代の法制制度の研究
梅村 坦	ウイグル民族誌、内陸アジア史
宇山 智彦	中央アジア近代史・現代政治
江川ひかり	オスマン帝国社会経済史
江南 和幸	文化財科学、里山学

研究員名	研究課題
遠藤 光暁	中国語音韻史・方言学
大江 孝男	現代朝鮮語及び中期朝鮮語の研究
大川 謙作	現代中国およびチベット民族の歴史と社会
大河原知樹	19-20世紀シリアの社会史・政治史
大里 浩秋	清代末期の革命思想、日中関係史
大澤 顯浩	中国出版文化史、中国近世の地理書、中国地図学史
大澤 肇	近現代中国における学校教育史
大澤 正昭	中国近世社会史
太田 啓子	アラビア半島・紅海文化圏の歴史
太田 信宏	南インド近世史
太田 幸男	秦墓竹簡の研究
大谷 俊太	室町・江戸時代文学の研究
岡崎 礼奈	日本近代美術史
尾形 洋一	近現代中国政治外交史
岡野 誠	中国法史、敦煌・吐魯番文献
岡本 隆司	近現代中国外交史
丘山 新	中国仏教資料研究
小川 快之	中国宋代から清代の社会生活史・法制史
奥村 哲	中国近現代史
奥山 憲夫	明代制度史研究
尾崎 文昭	20-21世紀中国の文学
小澤 一郎	近現代西アジア軍事社会史
小田 壽典	古トルコ語仏教文献の研究
小名 康之	インド近世、ムガル政治史
小沼 孝博	内陸アジア史、17-20世紀の新疆研究
小野寺史郎	中国近現代史
粕谷 元	トルコ近現代史
糟谷 憲一	18-19世紀朝鮮政治史
片桐 一男	日蘭文化交渉史の研究
片山 章雄	中央アジア古代史
片山 剛	珠江デルタ農村社会史、近代中国土地調査事業史
加藤 恵美	在日韓国・朝鮮人社会の史的考察と国際比較—文化間関係の観点から

研究員名	研究課題
加藤 直人	清朝の民族統治政策・清代檔案史料の研究
金沢 陽	中国陶磁史研究
金子 修一	中国古代史
金丸 裕一	中国政治経済史・日中関係史
亀谷 学	初期イスラーム史
川井 伸一	中国企業研究
川合 安	六朝貴族制の研究
川崎 信定	チベット仏教の研究
川島 真	近代中国外交史
神田 豊隆	日本外交史、アジア国際関係史
菅頭明日香	考古遺物の化学的分析
貴志 俊彦	東アジアの通信メディアをめぐる比較史的研究
岸本 美緒	明清時代地方社会史
北川 香子	カンボジア史
北村 文夫	現代中東問題の研究
北本 朝展	デジタル・アーカイブ
橘堂 晃一	ウイグル仏教史の研究
金 鳳珍	東アジア国際関係史、比較思想
楠木 賢道	清代東北地域史、清代政治史
工藤 裕子	ジャワの華人系住民
久保 亨	中国近現代史
窪添 慶文	魏晋南北朝時代史
久保田 淳	日本古典文学、和歌文学史
熊本 裕	イラン語史の研究
栗山 保之	インド洋世界の交流史
L. グローブ	1930年代の社会調査から見たある華北の県政府の活動
黒田 卓	近現代イラン史
氣賀澤保規	隋唐政治社会文化史
巖 善平	中国の三農問題
高野 太輔	初期イスラーム史
興梠 一郎	現代中国論・中国現代史
小嶋 茂稔	中国古代史
小嶋 芳孝	渤海文化の考古学的研究

研究員名	研究課題
小杉 泰	現代イスラーム政治思想、現代イスラーム法学
小寺 敦	中国古代史
後藤 明	イスラーム社会と政治の研究
小長谷有紀	モンゴルおよび中央アジアに関する探検記録写真を用いた地域像の再構築
小浜 正子	東アジアジェンダー史、中国近現代社会史
小松 久男	中央アジア近代史
小南 一郎	中国芸能史研究
近藤 信彰	イラン史・ペルシア語文化圏史
齋藤真麻理	中世日本文学の研究
早乙女雅博	東アジア考古学の研究
坂田美奈子	複数の視点からみる北海道の創造
櫻井 徹	在留外国人のコミュニケーション誌の現況について
佐々木 紳	オスマン帝国近代史
佐藤健太郎	マグリブ・アンダルス史
佐藤 慎一	中国近代政治資料研究
佐藤 宏	農村経済社会の長期変動
佐藤 仁史	近現代江南農村社会史研究
澤江 史子	現代トルコ政治
塩沢 裕仁	中国古代歴史地理研究
設楽 國廣	オスマン帝国末期政治史
部 勇造	南アラビア古代史
篠木 由喜	博物館展示・教育論
篠崎 陽子	前近代中国文化史
斯波 義信	中国社会経済史
嶋尾 稔	ベトナム史
島田 竜登	東南アジア経済史、海域アジア史
清水 宏祐	セルジューク朝時代イランの研究
清水 信行	古代の日本・大陸交流史
志茂 碩敏	13・4世紀モンゴル政権中枢・中核の研究
徐 顕芬	東アジア国際関係、国際援助論、中国外交
徐 小潔	近代日中関係史、コディコロジー
邵 迎建	中国近現代文学

研究員名	研究課題
城山 智子	近代中国社会経済史
新免 康	中央アジア史
末成 道男	東アジア社会人類学
須川 英徳	高麗・朝鮮時代の商業
杉本 史子	近世・近代移行期日本政治史
杉山 清彦	大清帝国史
鈴木 恵美	近現代エジプト政治史
鈴木 董	オスマン帝国史、比較史・比較文化
鈴木 均	イランおよびアフガニスタンの地域研究
鈴木 博之	徽州民間祭祀の研究
鈴木 立子	元朝社会経済史
砂山 幸雄	現代中国思想・文化・政治体制
妹尾 達彦	中国古代・中世都市史
関 智英	中国人対日協力者の戦後一大陸残存者把握にむけての基礎的研究
関尾 史郎	敦煌・トルファン文書研究
曾田 三郎	中国近代政治・社会史
高久 健二	東アジア、楽浪期を中心とした中国・朝鮮半島の研究
高田 時雄	中国語史の研究
高田 幸男	長江下流域の地域社会・エリート・教育団体、近代東アジア教育文化交流史
高遠 拓児	清代における刑罰制度の研究
高橋 公明	東アジア海域史、東アジア国際関係史
高橋 英海	西洋古典学
高松 洋一	オスマン朝史、古文書学、アーカイブズ学
高村 武幸	中国秦漢社会史・行政制度史
高山 博	中世地中海における異文化交流
瀧下 彩子	近現代中国社会文化史
武内 紹人	古代チベット語の歴史言語学的研究
武内 房司	中国近代宗教社会史、近代中国・ベトナム関係史
竹越 孝	中国語学（中国語文法史）
武田 幸男	朝鮮古代・近世史
田島 俊雄	東アジアの経済発展

研究員名	研究課題
多田 狷介 多々良圭介	漢魏晋史 18世紀清代中国における名医の社会的条件—藤井文庫を中心
立川 武蔵	チベット密教教理の研究
田中 明彦	現代東アジア国際政治の研究
田中 一成	中国演劇史
田中 時彦	日本の政治的近代化の研究
田中 仁	中国政治史、20世紀中国政治
田中比呂志	近現代中国の社会統合の研究
C. A. ダニエルス	清代西南中国の歴史
地田 徹朗	ソ連史、中央アジア地域研究
R. チャード	東アジア文化史
P. ツィーメ	古ウイグル文献学
塚原 東吾	科学史・科学哲学、STS
辻本 裕成	中古・中世日本文学の研究
土田 哲夫	中国近現代史、国際関係史
坪井 祐司	マレーシア近代史
鶴間 和幸	秦漢史
鶴見 尚弘	明・清時代社会経済史
寺田 浩明	中国明清法制史
唐 成	現代中国金融の研究
唐 亮	現代中国政治史の研究
東條 哲郎	マレーシア近代社会経済史
徳永 洋介	中国近世史
戸倉 英美	中国古典文学資料研究
土肥 祐子	宋代海外貿易史
富澤 芳亜	中国近代経済史
鳥海 靖	日本近現代史
中兼和津次	現代中国経済・移行経済の研究
永田 雄三	オスマン帝国史
中谷 英明	インド仏教学
中塚 亮	中国古典長編小説、古典演劇
長縄 宣博	ロシア・ムスリムの近現代史

研究員名	研究課題
中見 立夫	清代モンゴル史・清代文書の史料的研究
中村 威也	中国古代地域社会／非漢族研究、中国史料学、コディコロ ジー
中村 元哉	中国近現代政治史・思想史
新村 容子	近代中国におけるアヘン問題
西 英昭	中国・台湾の近現代法制史
西尾 寛治	マレーシア・インドネシア近世史
野田 仁	中央アジア史研究
延廣 眞治	江戸・明治の文芸
萩田 博	ウルドゥー語学・文学の研究
馬場 英子	中国の説唱文学（語り物）
濱下 武志	中国近現代史
濱島 敦俊	中国近世社会経済史
濱本 真実	ロシア・ムスリム史
林 佳世子	オスマン朝期中東社会史
林 俊雄	中央ユーラシア史・草原考古学の研究
原 實	インド古代文学の研究
原山 隆広	アッバース朝末期政治史
平川 幸子	東アジア国際関係史、中国・台湾外交史
平勢 隆郎	中国考古資料研究
平野健一郎	近代東アジア国際関係論
平野 聡	中国党支配（国民党・共産党）の史的研究
弘末 雅士	インドネシア宗教社会史
廣瀬 紳一	漢字文化圏電子情報学の研究
深沢 眞二	連歌・俳諧の研究
藤井 昇三	近代中国政治外交史、日中関係史
藤井 省三	中国近現代文学
藤田 忠	中国古代政治・社会史
藤本 幸夫	朝鮮本研究
古田 和子	東アジア経済史
古屋 昭弘	中国語史
弁納 才一	近現代中国農村経済史
寶劔 久俊	現代中国の農村社会経済変動の研究

研究員名	研究課題
星 泉	チベット言語学
細谷 良夫	清朝政治史
堀井 聡江	イスラーム法・法制史
堀内 賢志	北東アジアの国際関係、ロシア政治
堀川 徹	中央アジア文書研究
本庄比佐子	近現代日中関係史
牧野 元紀	ベトナムのキリスト教
松井 太	中央アジア出土ウイグル語・モンゴル語文献の歴史学的研究
松重 充浩	近現代中国政治・社会史及び東北アジア地域史
松永 泰行	現代イランの政治・宗教及びシーア派研究
松丸 道雄	殷周金文の研究
松村 潤	東北アジア民族史
松村 史紀	国際関係論、東アジア国際政治史、中国政治外交史
松本 弘	イエメン地域研究、エジプト近代史、現代中東政治
丸川 知雄	中国の産業集積および日中経済関係
三浦 徹	イスラーム都市社会史
水野 善文	古典サンスクリット文学と中世ヒンディー文学
三田 昌彦	北インド中世史
三谷 博	明治維新と諸革命の比較研究
峰 毅	毛沢東時代の経済政策の再評価
御牧 克己	チベット宗義書の研究
宮崎 修多	近世近代漢詩文の研究
宮崎 展昌	大乘仏教、大乘經典の研究、漢訳およびチベット語訳大藏經研究
宮脇 淳子	アジア史
村井 章介	日本中世を中心とする東アジア文化交流史
村上 衛	近代中国社会経済史
村田雄二郎	中国近代史、中国地域研究
毛里 和子	現代中国政治・外交及び東アジア国際関係
本野 英一	清末明初中国の対日英米経済関係
榎山 明	中国古代法制史・辺境論・資料論
守川 知子	イラン・イスラーム史

研究員名	研究課題
森川 裕二	現代東アジアの経済ネットワーク
森平 雅彦	朝鮮中世・近世史
森安 孝夫	中央ユーラシア古代中世史、古代ウイグル文書の研究
矢島 洋一	中央アジア史
柳澤 明	清代外交史・民族関係史
柳田 征司	日本語の歴史的研究
柳谷あゆみ	中世アラブ政治史、イスラーム地域資料研究
矢吹 晋	近現代中国経済
山内 弘一	李朝史、朝鮮儒教研究
山内 民博	朝鮮後期郷村社会史研究
山口 瑞鳳	チベット学、仏教哲学
山口 元樹	インドネシア・イスラーム史
山村 義照	日本近現代史
山本 英史	17～19世紀中国社会構造の研究
山本 真	中国・台湾近現代農村社会史
山本 毅雄	デジタル人文学、デジタル・アーカイブ
湯浅 剛	中央アジア政治史
吉澤誠一郎	中国近代史
吉田建一郎	近現代中国経済史
吉田 伸之	日本近世都市社会史
吉田 光男	朝鮮近世史
吉田 豊	ソグド語及びソグド語文献の研究
吉水 清孝	古代から中世初期にかけてのインド思想史
吉水千鶴子	インド・チベット仏教思想史の研究
吉村慎太郎	イラン近現代史
吉村 武典	中世アラブ・イスラーム史、前近代エジプト社会
六反田 豊	朝鮮中世・近世史
和田 恭幸	日本近世出版文化史および通俗仏書の研究
渡辺 紘良	宋代社会史

(全289人)

2. 資料研究成果発信

アジア基礎資料研究による一次資料の解析と研究の成果は、和文および欧文の紀要・雑誌・叢書・電子ジャーナルとして継続的に刊行を行い、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」に登録して順次オンライン公開を進めた。これらの出版物ならびに電子ジャーナルは、日本・アジア・欧米を結ぶアジア研究の国際交流をさらに促進するものとなる。

A. 定期出版物刊行

1. 『東洋文庫和文紀要』（東洋学報）	第101巻 第1-4号	A 5 判 4 冊（刊行済）
▶ https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1320		
2. 『東洋文庫欧文紀要』 (<i>Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko</i>)	No.77	B 5 判 1 冊（刊行済）
▶ https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1344		
3. 『近代中国研究彙報』	第42号	A 5 判 1 冊（刊行済）
▶ https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1342		
4. 『東洋文庫書報』	第51号	A 5 判 1 冊（刊行済）
▶ https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1343		
5. <i>Modern Asian Studies Review</i> ／新たなアジア研究に向けて	Vol.11	オンラインジャーナル （公開）
▶ https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1334		
6. <i>Asian Research Trends New Series</i>	No.14	A 5 判 1 冊（刊行済）
▶ https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1338		

B. 論叢等出版 ※詳細は pp.73～74を参照

1. 『濱田徳海旧蔵敦煌文書コレクション目録』	B 5 判 1 冊（刊行済）
▶ https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1339	

2. <i>A History of the Social Integration of Visitors, Migrants and Colonizers in Southeast Asia: Role of Local Collaborators</i> (TBRL21)	B 5 判 1 冊 (刊行済)
▶ https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1340	
3. <i>The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries: Part II</i> (TBRL22)	B 5 判 1 冊 (刊行済)
▶ https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1341	
4. 2019年度総合アジア圏研究国際シンポジウム 要旨集	A 4 判 1 冊 (刊行済)

※▶は、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」の掲載アドレス。

C. 資料研究成果のオンライン公開

以下の研究部ホームページにおいて、順次資料研究成果のオンライン公開を行った。

▶ <http://www.toyo-bunko.or.jp/research/results.html>

3. 研究情報普及

A. 講演会

(1) 東洋学講座

近年の研究成果を一般に向けて広く普及するため、前期に前近代中国研究班「宋以後の法令分析を通じた中国前近代社会の構造解明」グループ、後期に前近代中国研究班「中国古代地域史研究」グループによる講座を実施した。

(前期) 共通テーマ「中国法制史料読解入門」

第572回 2019年6月10日(月)

「中国歴史公文書読解入門—『中国近世法制史料読解ハンドブック』出版に寄せて—」

東洋文庫研究員

慶應義塾大学名誉教授 山本 英史 氏

第573回 2019年6月19日（水）

「清代における家族生活と契約」

東洋文庫研究員

お茶の水女子大学名誉教授

岸本 美緒 氏

第574回 2019年7月5日（金）

「中華民国北洋政府期法院訴訟記録について」

東洋文庫研究員

九州大学教授

西 英昭 氏

（後期） 共通テーマ「木簡・竹簡資料への誘い（いざない）」

第575回 2019年11月6日（水）

「中国戦国時代の「非発掘簡」

東洋文庫研究員

東京大学東洋文化研究所教授

小寺 敦 氏

第576回 2019年11月13日（水）

「秦漢時代の法律文書」

東洋文庫研究員

東京学芸大学名誉教授

太田 幸男 氏

第577回 2019年11月20日（水）

「漢簡が伝える中国古代の裁判」

東洋文庫研究員

中央大学名誉教授

池田 雄一 氏

(2) 公開講座・公開研究会

東洋文庫の所蔵資料や研究活動・研究成果をテーマとして、国内外の当該分野の著名研究者を招いて実施した（以下、開催日順で記載）。

(現代中国研究班「国際関係・文化グループ」による公開研究会)

2019年4月6日(土)

「東洋文庫超域アジア部門現代中国研究班国際関係・文化グループ2019年度第1回研究会」

「書評—小野泰教『清末中国の士大夫像の形成』(東京大学出版会、2018年)」

報告者：東京女子大学教授 茂木 敏夫 氏
応 答：学習院大学准教授 小野 泰教 氏

(広島大学大学院より受け入れた外来研究員による講演会)

2019年9月18日(水)

「中国共産党の初期抗日統一戦線論について：章乃器の議論との関係から」
広島大学大学院教授 水羽 信男 氏

(協力協定機関フランス国立極東学院との共催による国際ワークショップ)

2019年10月27日(日)

国際ワークショップ「外語の熟達から世界の統制へ—近世の東アジアにおける対訳辞書と語彙集を考える」

開会の挨拶

東洋文庫研究員 平野健一郎 氏

「『羅葡日辞書』の翻訳と日本イエズス会教育」

大阪大学大学院准教授 岸本 恵実 氏

「日本イエズス会衰亡史と『日葡辞書』の編纂」

フランス国立極東学院教授
フランソワ・ラショー 氏

「ロシア使節レザーノフが編纂した露日辞典」

ノンフィクション作家 大島 幹雄 氏

総合討論

司会：東洋文庫研究員 牧野 元紀 氏

「中羅(伊)辞書の草稿に関する一考察」

フランス国立極東学院教授
ミケーラ・ブッソッティ 氏

「『花咲く中華文明の影に』—スペイン宣教師による中国語辞書の草稿を考える(17~18世紀を中心に)」

マドリード大学異文化・混血・マドリードグローバル
化研究所専任研究員

マリア・テレサ・ゴンザレス＝リナーヘ 氏

「英粵辞典・語彙集の歴史—文献学から見た19世紀標準広東語の構築」

東京大学大学院教授 吉川 雅之 氏

「フランスにおける満州語の研究（1789–1810）—「補助言語」の辞書編
纂法と文法の研究」

台湾中央研究院近代史研究所助研究員

モルテン・セデルブロム＝サーレラ 氏

総合討論 司会： フランソワ・ラショー 氏

閉会の挨拶 フランス国立極東学院学院長

クリストフ・マルケ 氏

(現代イスラーム研究班のコーディネートによる総合アジア圏域研究国際シン
ポジウム)

2019年12月14日（土）

《第8回総合アジア圏域研究国際シンポジウム》

Structural Changes in the Modern Middle East: Revolution, Constitution, Parlia-
ment

Organizer:

KASUYA Gen (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Nihon University)

Chair:

YUASA Takeshi (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Sophia University)

Opening Address

MIURA Toru (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Ochanomizu Universi-
ty)

Opening Remark

KASUYA Gen Introduction

Session 1: Islam and Search for Democratization

Fuat DÜNDAR (Associate Professor, TOBB ETÜ)

“Ottoman Parliamentary System and Minorities: Democratizing Conflicts?”

TOKUNAGA Yoshiaki (Ph.D. Student, The University of Tokyo)

“The Discussions on Suffrage in Iran during the Qajar-Pahlavi Transition Pe-
riod: The Establishment of the Article 1 of Act of Tir 22, 1306 (1927)”

YOSHIMURA Shintaro (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Hiroshima University)

“Comment and Discussion”

Session 2: Islam and Politics

Yakoob AHMED (Lecturer, Istanbul University)

“İlmiyye ve Siyaset, Challenges between Islam and Politics in the Discourse of the Ottoman Ulema”

SATO Tomonori (Ph.D. Student, The University of Tokyo)

“Nation-State, Freedom and Religion in Discussions of the 1923 Constitutional Committee: Reconsidering the Relationship between Religion and Politics in the Constitutional Kingdom of Egypt”

IKEDA Misako (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Nagoya University of Commerce and Business)

“Comment and Discussion”

Session 3: Justice and Society

TAKAIWA Nobutada (Lecturer, Hitotsubashi University)

“Changes of the Judicial System and the Law in the Modern Egypt: Through the Codification Process of the Waqf Law”

Qolamreza NASSR (Postdoctoral Researcher, Hiroshima University)

“Middle Class: The Weak Socio-Political Actor in Post-Revolution Iran”

SUZUKI Hitoshi (Research Fellow, Toyo Bunko; Senior Researcher, IDE-JET-RO)

“Comment and Discussion”

General Discussion

(協力協定機関ハーバード・エンチン研究所との共催による国際シンポジウム)

2020年1月18日(土)・19日(日)

The International Symposium, jointly sponsored by the Harvard-Yenching Institute and Toyo Bunko

Books as Texts and as Objects: The Production, Circulation, and Collection of Knowledge in Asia and Europe

Organizer:

Linda GROVE (Senior Consultant for Harvard Yenching, Resident in Tokyo)

HAMASHITA Takeshi (Research Department Head, Toyo Bunko)

Keynote Speech

Ann BLAIR (Carl H. Pforzheimer University Professor, Harvard University)

“Maxims of Book History from the Study of Early Modern Europe”

First Session: Materiality of Books and Book Production

Chair:

Linda GROVE

OKI Yasushi (Professor, East Asian Literature at Institute for Advanced Studies on Asia, The University of Tokyo)

“Spread of the Stitched Book Binding and its Background in China”

HSIUNG Hansun (Assistant Professor, Durham University)

“Squiggles: Media, Forgetting, and the Illegibility of the Past”

XU Xiaojie (Research Fellow, Toyo Bunko)

“The Scientific Analysis of Paper in Toyo Bunko Collection: Exploring a New Research Methods for Oriental studies”

AGATA Mari (Professor, Keio University)

“The Look of the Bible: A Cluster Analysis of the Printed Bibles Based on their Physical Features”

“Comment and Discussion”

Second Session: Transmission of Ideas through the Circulation of books (including East-West transmission and transmission within Asia)

Chair:

Ann BLAIR

NAM Nguyen (Fulbright University Vietnam)

“Beyond Phrenological and Physiological Stories of Sexual Intercourse: Textual Reproductions within and across National Borders through the Case of Creative and Sexual Science in East Asia”

NII Yoko (Postdoctoral JSPS Research Fellow)

“Chinese History books in European Historiography”

Devin FITZGERALD (Curator of Rare Books and History of Printing, UCLA Library Special Collections)

“Reading the Collected Institutions of the Ming in Early Modern Europe”

“Comment and Discussion”

Third Session: Archives, Creation of Collections and Libraries

Chair:

ASAMI Masakazu (Professor, Keio University)

Peter KORNICKI (Emeritus Professor of Japanese Studies, Cambridge University)

“The Perry Expedition and Japanese Books in America”

SASAKI Takahiro (Chair, The Keio Institute of Oriental Classics)

“Books Across Borders: Doing Research at the Shidō Bunko”

SHIROYAMA Tomoko (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Graduate School of Economics, The University of Tokyo)

“East Asia in Transition: Views from the George Morrison Pamphlet Collection”

“Comment and Discussion”

Special Lecture

SHIBA Yoshinobu (Executive Librarian, Toyo Bunko)

“Why an Archival Center was necessary for the Study of Oriental History in Japan?”

Roundtable Discussion with Speakers

Chair:

HAMASHITA Takeshi

(総合アジア圏域研究班「地図研究グループ」による研究報告会)

2020年2月12日(水)

「山国郷の『大明地理之図』とその周辺」

天理大学教授

藤田 明良 氏

(3) 特別講演会

東洋文庫研究員、研究班の主催によって、主として来日中の著名な外国人研究者を招いて実施した(以下、開催日順で記載)。

(若手研究者育成のためのセミナー)

2019年4月3日(水)

「英文による成果発信支援セミナー」〔英語・通訳なし〕

シンガポール国立大学出版会編集長

Paul H. KRATOSKA 氏

(現代中国研究班「国際関係・文化グループ」による公開研究会での講演会)
2019年4月6日(土)

「東洋文庫超域アジア部門現代中国研究班国際関係・文化グループ2019年度
第1回研究会」

「法政大学—権利的概念和話語」〔中国語・通訳なし〕

報告者：University of California, Santa Barbara, Associate Professor

鄭 小威 氏

コメント：東洋文庫研究員

村田雄二郎 氏

(斯波義信研究員のコーディネート、2018年度受入の外国人客員研究員による
講演会)

2019年6月30日(日)

「重野安繹と初期の静嘉堂一岩崎弥之助の見識に触れて」〔日本語〕

関西大学教授

陶 徳民 氏

(現代中国研究班「政治・外交グループ」による講演会)

2019年9月9日(月)

「1972年米中首脳会談から見る米中関係における日本問題の原点」〔中国語・
通訳あり〕

北京大学教授

牛 大勇 氏

(濱下武志研究員のコーディネートによる講演会)

2019年10月21日(月)

講演会「中国海関史研究」〔中国語・逐語通訳なし〕

「中国海関総務課税務司与総税務司岸本広吉(1937-45)」

上海交通大学教授

張 志雲 氏

「晚清海関年度貿易報表計算方式解析：以粵海関為例(1860-1911)」

中山大学特聘副研究員

侯 彦伯 氏

(中央アジア研究班「非漢字諸語出土古文獻の研究」グループによる講演会)

2019年11月10日(日)

“Serindia and Turfan: Notes on editing and cataloguing Old Uyghur texts of the

Serindia Collection in Sankt Peterburg”〔英語・通訳なし〕

東洋文庫研究員

P. ツイーメ 氏

(現代イスラーム研究班と東京大学東洋文化研究所の共催による講演会)

2019年12月12日 (木)

“A Historical Reading of the Ottoman-Turkish Open-Door Policy Towards Immigrants and Refugees”〔英語・通訳なし〕

TOBB ETÜ, Associate Professor

Fuat DÜNDAR 氏

(総合アジア圏域研究班「地図研究グループ」による研究報告会)

2020年2月12日 (水)

「利瑪竇世界地図研究 (マテオリッチ世界地図研究)」〔中国語・通訳なし〕

寧波大学教授

龔 纓晏 氏

(4) 東洋文庫談話会 (東洋文庫研究会)

専門分野の若手研究者による成果報告会として設定している。2019年度は3月の開催を検討していたが、新型コロナウイルスの感染防止のため、開催を延期した。

(5) ミュージアムによる公開講座

東洋学の一般への普及を目的に、企画展に合わせて、以下のミュージアムによる公開講座を開催した(以下、項目別に開催日順で記載)。ワークショップ・イベントについては、pp.179～180を参照。

【公開講座】

インドの叡智展 (会期：2019年1月30日～5月19日)

2019年4月7日 (日)

「ガンディー、平和を紡ぐ人」

立教大学教授

竹中 千春 氏

2019年4月28日 (日)

「インド思想研究と東洋文庫」

東洋文庫研究員
筑波大学名誉教授

川崎 信定 氏
以上

漢字展—4000年の旅（会期：2019年5月29日～9月23日）
2019年6月23日（日）

「漢籍と文庫—東洋文庫を中心として—」

慶應義塾大学教授

高橋 智 氏

2019年7月21日（日）

「『大漢和』の時代—昭和の大出版は如何にして成ったか」

元大修館書店編集部

池澤 正晃 氏
以上

東洋文庫の北斎展（会期：2019年10月3日～2020年1月13日）

2019年11月4日（月・祝日）

「葛飾北斎とその時代」

北斎館館長

安村 敏信 氏

2019年11月10日（日）

「H O K U S A I に魅せられたフランス—明治時代、パリに渡った作品を中心—to」

フランス国立極東学院学院長

クリストフ・マルケ 氏

2019年11月17日（日）

「北斎の東海道物について」

東洋文庫研究員

大和文華館館長

あべのハルカス美術館館長

浅野 秀剛 氏

2019年12月1日（日）

「狂歌人たちの遊び—華麗な私家版の世界—」

法政大学教授

小林ふみ子 氏

以上

(6) 各種研究会・講演会開催

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会数	29	27	33	33	17	26	31	39	26	22	16	13	312
参加人数	202	189	360	269	102	214	247	482	226	255	123	54	2,723

(7) 研究情報の普及

研究情報を普及するため、機関リポジトリ「ERNEST」(<https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/>)。「1. アジア基礎資料研究」p.46に既出)、TB OPAC システム(<http://tbopac.toyo-bunko.or.jp/>)を管理・運営した。

2019年度 TB OPAC 利用統計

年 月	訪問者数	1日平均	検索数	1日平均
2019年4月	530	18	38,887	1,297
5月	544	18	30,748	992
6月	583	20	25,768	859
7月	1,029	34	47,030	1,518
8月	1,025	34	40,275	1,300
9月	1,058	36	41,517	1,384
10月	1,080	35	54,168	1,806
11月	1,047	35	39,639	1,322
12月	1,097	36	43,900	1,464
2020年1月	1,097	35	27,373	913
2月	984	32	29,452	1,016
3月	1,074	35	28,189	973
合計	11,148	368	446,946	14,844

※30分以内に同一 IP から訪問があった場合は1名としてカウントされる。

B. データベース公開

2019年4月1日～2020年3月31日までの期間における、東洋文庫の図書・

資料のデータ（日本語・英語）に対するオンライン検索アクセス状況については、Ⅱ 図書事業のグラフ（p.40）に示す通りである。

C. 研究者の交流および便宜供与のサービス

〈長期受入〉

(1) 外国人研究員の受入

フランソワ・ラショー（フランス国立極東学院東京支部長）

「近世日本の美術史・宗教（蒐集家と文人のネットワーク、黄檗文化等）」

「近世期の東アジアの交流史（日本・中国・ロシア・西欧）」

（2017年3月15日～2021年3月31日）

呉 真（中国人民大学中文系副教授）

「日本祭祀芸能研究」

（2019年7月5日～9月6日）

[受入担当：田仲 一成]

張 鵬飛（広東省警察大学院文学部写作研究室主任）

「《水経注》金石文献整理、“六朝石刻匯校集注”東魏西魏北周北齊卷」

（2019年11月24日～2020年11月24日）

[受入担当：窪添 慶文]

(2) 外来研究員の受入

水羽 信男（広島大学大学院総合科学研究科教授）

「中国近代のリベラリズム思潮の展開」

（2019年4月1日～9月30日）

[受入担当：久保 亨]

(3) 2019年度日本学術振興会特別研究員 PD・RPD の受入

なし

(4) 2019年度嘱託研究員の採用

相原 佳之〔継続〕

研究課題「中国明清時代環境史」に取り組みつつ、総合アジア圏域研究班に所属し、東洋文庫諸活動の継承・発展のため研究データベースの構築等に従事した。

太田 啓子〔継続〕

研究課題「アラビア半島・紅海文化圏の歴史」に取り組みつつ、総合アジア圏域研究班に所属し、東洋文庫諸活動の継承・発展のため国際シンポジウム等を通じた国際交流事業に従事した。

小澤 一郎〔継続〕

研究課題「近現代西アジア軍事社会史」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため欧文刊行物の編集・校閲に従事した。

中村 威也〔継続〕

研究課題「中国古代地域社会／非漢族研究、中国史科学、コディコロジー」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため和文刊行物の編集・校閲に従事し、かつその豊富な学術刊行物編集経験を東洋文庫の内外に対して普及させることに努めた。

(5) 2019年度奨励研究員の受入

関 智英〔継続〕

科学研究費基盤研究(C)「近代日中関係の対外宣伝と相互理解をめぐる摩擦と模索—『順天時報』の分析を通して」(研究代表者：青山治世亜細亜大学准教授)の研究分担者として参画した。

中塚 亮〔継続〕

研究課題「明代小説『封神演義』の研究」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため図書事業に参画した。

多々良圭介〔継続〕

研究課題「清代文書資料を中心とした諸文献の紙質をめぐる研究」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため研究事業、とくに紙質調査に参画した。

※いずれも2019年度斯波研究奨励金を受給して研究活動を行った。

〈外国人研究者への便宜供与〉

各国より東洋文庫を訪問する外国人研究者に対し、調査研究上必要とされる便宜供与を行った。

China

- 王 珮 [北京大学医学人文学院哲学与社会科学系教授] (他1名)
高 京齋 [中国地方志指導小組弁公室党組書記] (他5名)
董 秀玉 [東アジア出版人会議最高諮問委員、生活・読書・新知三聯書店前社長・編集長] (他7名)
高 翔 [中国社会科学院中国歴史研究院院長] (他6名)
呉 元豊 [中国第一歴史檔案館満文部元主任] (他1名)
李 秉奎 [北京大学医学人文学院哲学与社会科学系副教授]
高 飛 [蘇州科技大学歴史系博士課程]
于 薇 [中山大学歴史系副教授]
王 文隆 [南開大学副教授]

France

- Cecile SAKAI [日仏会館フランス事務所所長]
Jacques MORET [フランス政府監査団・仏文部科学省職員] (他2名)

Hong Kong

- 郭 鵬飛 [香港城市大学中文及歴史学系教授]
李 家駒 [聯合出版(集団)有限公司副総裁] (他1名)

Korea

- 韓 喆熙 [東アジア出版人会議会長、トルベゲ(石枕)社代表] (他9名)
方 炳善 [高麗大学校考古美術史学科教授] (他23名)

Mongol

- S. ENKHBAATAR [National Central Archives of Mongolia, Director, General]
(他2名)

Taiwan

- 王 俊昌 [国立台湾海洋大学副教授]
林 載爵 [聯経出版事業公司発行人] (他2名)
陳 耀煌 [中央研究院近代史研究所研究員]
李 仁淵 [中央研究院歴史語言研究所助理研究員]

Turkey

- Fuat DÜNDAR [TOBB ETÜ, Associate Professor]
Yakoob AHMED [Istanbul University, Lecturer]

USA

- Ann BLAIR [Harvard University, Carl H. Pforzheimer University Professor]
HSIUNG Hansun [Durham University, Assistant Professor]
Devin FITZGERALD [UCLA Library Special Collections, Curator of Rare Books and History of Printing]

Vietnam

- NAM Nguyen [Fulbright University Vietnam, Professor]

以上

D. 国際交流

フランス国立極東学院および中央研究院の歴史語言研究所・近代史研究所(台湾)、ハーバード・エンチン研究所(アメリカ)、アレキサンドリア図書館(エジプト)、イラン議会図書館、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(SOAS)(イギリス)、ベトナム社会科学院漢喃研究所、マックス・プランク研究所(ドイツ)、国際テュルク・アカデミー(カザフスタン)、吉林師範大学満学研究院(中国)との学術交流を進め、資料・情報の交換と研究者の相互訪問を継続的に実施した。

なかでもハーバード大学アジア研究図書資料館であるハーバード・エンチン研究所とは、2010年10月に交流協定を結び、資料交流・人材交流のみに止まらず、共同研究ならびにそれらを通じた若手人材育成を共同で行う取り組みを開始しており、それらを一層推進した。2019年度は、2020年1月18・19

日に国際シンポジウム“Books as Texts and as Objects: The Production, Circulation, and Collection of Knowledge in Asia and Europe”を共催した。

世界各地からアジア基礎資料研究に取り組む外国人研究者を招聘して、総合アジア圏域研究国際シンポジウム“Structural Changes in the Modern Middle East: Revolution, Constitution, Parliament”（2019年12月14日開催）等を通じた国際学術交流を推進した。その窓口若手研究者を携わらせることで、最新の研究動向の把握や国際的な人脈形成等を支援し、国際的に活躍可能な人材の育成に取り組んだ。

4. 研究員等の研究業績

期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

略号：①…雑誌論文 ②…図書 ③…学会発表

〈 〉…共著・共編・共訳・共同発表者名

會谷 佳光

①「『大正新脩大藏經』の初版・再刊・普及版の刊行をめぐって」（『東洋文庫書報』、第51号、27～54頁、（公財）東洋文庫、2020年3月）。

①「『大正新脩大藏經』の底本と校本：卷末「略符」・『大正新脩大藏經勘同目録』・脚注の分析を通して」（『東洋文庫リポジトリ ERNEST 科学研究費補助金 研究成果』、2019年度、1～49頁、（公財）東洋文庫、2020年3月、[科学研究費補助金 基盤研究 (C)「『大正新脩大藏經』編纂の実態に関する書誌学的研究：増上寺報恩藏本を通して」、課題番号：18K00073、研究代表者：會谷佳光、付録書影14種、<http://doi.org/10.24739/00007257>]

相原 佳之

①「嘉慶四（1799）年七月上諭の訳注および考察（1）：清朝嘉慶維新研究序説」（〈豊岡康史・村上正和・柳静我・李侑儒〉、『地域学論集：鳥取大学地域学部紀要』、第16巻第1号、109～117頁、鳥取大学地域学部、2019年9月）。

①「嘉慶四（1799）年六月上諭の訳注及び考察：清朝嘉慶維新研究序説」（〈豊岡康史・村上正和・柳静我・李侑儒〉、『環日本海研究年報』、第25号、48～83頁、新潟大学大学院現代社会文化研究科環日本海研究室、2020年3

月).

②『見証：一位農民的新中国70年』（〈羅雪昌・杜正貞・佐藤仁史・陳明華・宮原佳昭〉，浙江大学出版社（杭州），2019年12月，230頁）。

青山 治世

①「海外移民：「天朝棄民」から華人保護へ」，「台湾出兵事件：高まる日本への猜疑と警戒」，「領事設置と華人保護：対日関係と華工虐待への対応のなかで」（岡本隆司・箱田恵子編著『ハンドブック近代中国外交史：明清交替から満洲事変まで』，66～67頁，88～89頁，94～95頁，ミネルヴァ書房，2019年4月）。

①「「日本の衝撃」と清の対外関係の模索と変容：一八七〇～八〇年代を中心に」（『東アジア近代史』，第23号，85～95頁，東アジア近代史学会，2019年6月）。

①「シンポジウム「東アジアの一統志」参加記」（『歴史学研究月報』，No. 719，4～6頁，歴史学研究会，2019年11月）。

③「多元共存社会のあり方を考える教材開発：清の東部ユーラシア統治を通して」（第30回日本公民教育学会全国研究大会，〈三浦朋子〉，於：九州大学伊都キャンパス，2019年6月23日）。

③「多元共存社会のあり方を考える高校「歴史総合」の教材開発」（全国社会科教育学会第68回全国研究大会，〈三浦朋子・今津敏晃〉，於：島根大学，2019年11月9日）。

秋葉 淳

①““Girls Are Also People of the Holy Qur’an”: Girls’ Schools and Female Teachers in Pre-Tanzimat Istanbul”, *Hawwa: Journal of Women of the Middle East and the Islamic World*, Volume 17: Issue 1, pp. 21–54, Leiden: Brill, Apr. 2019.

③「オスマン帝国史における捕虜と虜囚記（16–18世紀）」（日本中東学会第35回年次大会，於：秋田大学手形キャンパス，2019年5月12日）。

③“The Governor’s Divan and the Sharia Court: Administration of Justice in the Ottoman Provinces during the Eighteenth Century”, Lecture at Department of History, Bilkent University, Bilkent University, Ankara, 31 Oct. 2019.

③“Missing Husbands, Abandoned Wives: Judicial Practices in Eighteenth-Century Ottoman Anatolia”（第13回近代中央ユーラシア比較法制度史研究会，於：京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター羽田記念

館，2019年11月16日）。

浅田 進史

- ①「利権獲得競争：中国における帝国主義の絶頂と限界」（岡本隆司・箱田恵子編著『ハンドブック近代中国外交史：明清交替から満洲事変まで』，122～123頁，ミネルヴァ書房，2019年4月）。
- ①「植民地責任論からみた1919年：民族自決と戦争責任」（『大原社会問題研究所雑誌』，728号，49～66頁，法政大学大原社会問題研究所，2019年6月）。

浅野 秀剛

- ①「三都の浮世絵版画」（吉田伸之編『シリーズ三都：江戸巻』，259～284頁，東京大学出版会，2019年6月）。
- ①「絵入折手本：レインコレクションをめぐって」，「ボストン美術館蔵，北斎筆，未刊読本挿絵「大日本将軍記初輯」について」（山下則子編『在外絵入り本：研究と目録』，3～18頁，117～127頁，三弥井書店，2019年10月）。
- ①「仙台祭絵の研究」（『仙台市博物館調査研究報告』，第40号，1～48頁，仙台市博物館，2020年3月）。
- ③「北斎の東海道物について」（東洋文庫講演会，於：（公財）東洋文庫，2019年11月17日）。
- ③「中国の拓版画と日本の拓版画」（海の見える杜美術館中国版画研究会，於：海の見える杜美術館（広島県廿日市市），2020年2月1日）。

阿部 尚史

- ①「サファヴィー朝滅亡後のシェイフ・サフィー＝アッディーン廟：アルダビール文書のなかの18，19世紀勅令・命令書」（『アジア・アフリカ言語文化研究』，第99号，133～168頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2020年3月）。
- ②『イスラーム法と家産：19世紀イラン在地社会における家・相続・女性』（中央公論新社，2020年2月，368頁）。
- ③“Urban Household Structure in 19th Century Iran: The Case of Tabriz”，Ninth European Conference of Iranian Studies (ECIS 9), Freie Universität Berlin, 11 Sept. 2019.

荒川 正晴

- ① 「シルクロードの交易と商人」(永原陽子編『人々がつなぐ世界史』, 15～43頁, ミネルヴァ書房, 2019年8月).
- ② “The Kao-ch’ang Kingdom’s Rule of Turfan and Its Sogdian Settlement in the Sixth Century”, 64th International Conference of Eastern Studies, The Toho Gakkai, Japan Education Center, Tokyo, 18 May 2019.
- ③ 「「死後の世界」と東西文化の交流：日本の冥界観はどこから来たのか？」(Handai-Asahi 中之島塾, 於：大阪大学中之島センター, 2019年6月16日, [大阪大学・朝日カルチャーセンター共催]).

飯島 明子

- ① 「スコタイと関連の歴史上の町」(信田敏宏他編『東南アジア文化事典』, 594～595頁, 丸善出版, 2019年10月).
- ② “The Xieng Khaeng Manuscripts: An Introduction to the Indigenous Manuscripts in the Mission Pavie Papers”, the 6th International Conference of Lao Studies, Cornell University, Ithaca, New York, U.S.A., 13–15 June 2019.
- ③ “Narratives and Meta-Narratives of Lawa-Tai (Thai) Relations: An Analysis of the Historical Vicissitudes of a Hill-Plain Relationship”, the 10th EuroSEAS (European Association for Southeast Asian Studies) Conference, Humboldt-Universität zu Berlin, Germany, 10–13 Sept. 2019.

飯島 武次

- ① 「李学勤先生を追悼する」(『東方学』, 第138輯, 139～141頁, 東方学会, 2019年7月).
- ② 書評「西江清高著『西周王朝の形成と関中平野』」(『史学雑誌』, 第128編第11号, 69～76頁, 史学会, 2019年11月).
- ③ 「侯家莊西北岡大墓の造営順序と墓主」(日本中国考古学会関東部会第196回例会, 於：駒澤大学, 2019年4月13日).

飯島 涉

- ① 「歴史疫学 (historical epidemiology) という課題：風土病の資料を「つくる」」(『歴史学研究』, No. 994 (2020年3月号), 24～30頁, 歴史学研究会, 2020年3月).

③“Anti-filariasis Connections: Cooperative Program to Control Filariasis between Korea and Japan”, The Joint-Research Meeting on the Urban Health, Kyunghee University, Seoul, Korea, 11 Oct. 2019.

③“Who were the Authors of the Medical Reports: Medicine and Public Health Networks by the Chinese Maritime Customs in the Late Nineteenth Century East Asia”, The Fifth Biennial Conference of East Asian Environmental History, National Cheng Kung University, Tainan, Taiwan, 26 Oct. 2019.

池田 美佐子

③“Comments on Tomonori Sato’s paper and Yakooob Ahmed’s paper”, The Eighth International Symposium of Inter-Asia Research Networks: “Structural Changes in the Modern Middle East: Revolution, Constitution, Parliament”, Toyo Bunko, 14 Dec. 2019.

池田 雄一

- ①「漢簡が伝える中国古代の裁判」（『東洋学報』、第101巻第4号、96～98頁、（公財）東洋文庫、2020年3月、[2019年度後期東洋学講座講演要旨]）。
- ③「漢簡が伝える中国古代の裁判」（（公財）東洋文庫2019年度後期東洋学講座、於：（公財）東洋文庫、2019年11月20日）。

石川 寛

- ①「12～13世紀カルナータカの地域勢力：グッタの事例を中心に」（『東洋学研究』、第57号、83～103頁、東洋大学東洋学研究所、2020年3月）。

石川 重雄

- ①「淮河中流域歴史調査報告：宋代古墓を中心として（蚌埠・鳳陽・合肥篇）」（佐々木愛・大澤正昭・戸田裕司・小川快之・小島浩之、『社会文化論集：島根大学法文学部紀要。社会文化学科編』、第16号、1～26頁、島根大学法文学部社会文化学科、2020年2月）。

磯貝 健一

- ①「遺産の共有：19世紀後半から20世紀初頭中央アジアの家族と家産継承」（『西南アジア研究』、No. 89、87～116頁、西南アジア研究会、2019年9月）。
- ③「16世紀後半中央アジアのマドラサ・カリキュラム」（第82回羽田記念館

定例講演会，於：京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター羽田記念館，2019年7月13日）。

③「ロシア帝国統治期（1865-1917）の中央アジア・シャリーア法廷台帳について」（グローバルな視点でみるユーラシア大陸：第5回清朝と内陸アジア国際学術研究会，於：京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター羽田記念館，2019年8月3日）。

③「ロシア帝国領中央アジアのシャリーア法廷判決台帳：その意義と史料としての特性」（法制史学会東京部会第277回例会，於：東京大学東洋文化研究所，2019年10月26日）。

井上 和人

①「日本列島古代中央集権国家の構築と王宮・都城」（『歴史・民族・考古学論攷（I）』，1～23頁，辻尾榮市氏古稀記念論攷発行会，2019年6月）。

今西 祐一郎

①「『伊勢物語』はいつ『伊勢物語』になったか」（『中古文学』，第104号，3～8頁，中古文学会，2019年11月）。

①「駒澤大学仏教文学研究所公開講演会録：人が骸骨になるまで」（『駒澤大学仏教文学研究』，23号，21～43頁，駒澤大学仏教文学研究所，2020年2月）。

②『源氏物語（六）柏木－幻（岩波文庫黄15-15）』（〈柳井滋，他4名〉，岩波書店，2019年，514頁）。

②『源氏物語（七）匂兵部卿－総角（岩波文庫黄15-16）』（〈柳井滋，他8名〉，岩波書店，2020年，636頁）。

宇山 智彦

①「近代帝国間体系のなかのロシア：ユーラシア国際秩序の変革に果たした役割」（秋田茂編『グローバル化の世界史（MINERVA世界史叢書2）』，211～240頁，ミネルヴァ書房，2019年4月）。

①「カザフスタンのナザルバエフ「院政」：旧ソ連諸国における権力継承の新モデル？」（『ロシアNIS調査月報』，2019年6月号，43～56頁，ロシアNIS貿易会，2019年5月）。

①「カザフ知識人とイスラーム：遊牧民社会の近代化の方向性をめぐって」（野田仁・小松久男編『近代中央ユーラシアの眺望』，97～116頁，山川出版

社，2019年10月）。

①“Идея и реальность казахского автономизма в годы Гражданской войны в России: самостоятельность и зависимость народов в квази-имперском пространстве”, *Гражданская война на востоке России (ноябрь 1917 – декабрь 1922 г.): Сборник материалов Всероссийской научной конференции с международным участием*, pp. 376–387, Новосибирск: Изд-во СО РАН, 2019.

①“Why in Central Asia, Why in 1916? The Revolt as an Interface of the Russian Colonial Crisis and the World War”, Aminat Chokobaeva, Cloé Drieu, and Alexander Morrison, eds., *The Central Asian Revolt of 1916: A Collapsing Empire in the Age of War and Revolution*, pp. 27–44, Manchester: Manchester University Press, 2020.

江川 ひかり

①「6 オスマン帝国時代：異文化混淆を自文化とした緩やかな生活の営み」, 「コラム3 メフメト・パシャ・ソコロヴィチ：400年先を見た国際人」(柴宜弘・山崎信一編『ボスニア・ヘルツェゴヴィナを知るための60章』, 44～50頁, 51～53頁, 明石書店, 2019年6月)。

①史料紹介「オスマン近代演劇ポスターを読み解く（第1回）「中国革命（Çin İhtilali）」（1912）」(『明大アジア史論集』, 第24号, 45～62頁, 明治大学東洋史談話会, 2020年3月)。

②『近現代ユーラシアにおける遊牧社会の変容にみる新生活原理の構築』(明治大学文学部, 2019年, 100頁, [挑戦的萌芽研究 平成28年度～平成30年度研究成果報告書, 課題番号：16K13279, 研究代表者：江川ひかり])。

江南 和幸

①「紙は時代の目撃者：紙の分析が語る知の文明の歴史—私立大学研究ブランディング事業：実践女子大学「源氏物語研究の学際的・国際的拠点の形成」に寄せて—」(『年報』, 第39号, 1～30頁, 実践女子大学文芸資料研究所, 2020年3月28日)。

③“Analysis of Colours Used for Picture Books «Nara-Ehon» of Early Premodern Era of Japan”, International Conference «Art of Restoration» 2019, The State Hermitage Museum, St. Petersburg, 15 May 2019, [Invited Speaker. Abstract in English Version, p. 73].

大川 謙作

- ②“Latent Modernization in Traditional Tibet: An Examination of the Institution of Zhing-skal in Mal gro gung dkar region”, the 15th Seminar of the International Association for Tibetan Studies, INALCO, Paris, France, 8 July 2019.
- ③Round Table Talk at “Challenge and Award in the Process of Translating Bilingual Writer Pema Tsenden’s Short Stories Panel”, the 15th Seminar of the International Association for Tibetan Studies, INALCO, Paris, France, 9 July 2019.
- ③Guest Speech at “Tibetan Studies in Japan Workshop”, the special event attached to the 15th Seminar of the International Association for Tibetan Studies, Collège de France, Paris, France, 12 July 2019.
- ③ “Substitutive Ethnography, Literature, and Social History: Reflections from Modern Tibetan Studies” (国立台湾大学人類学系学術演講, 於: 国立台湾大学人類学系 (台北市), 2019年12月28日).

大河原 知樹

- ②『オスマン民法典(メジェツレ)の研究: 質編・預託物編』(〈堀井聡江・シャリーアと近代研究会〉, 東北大学大学院国際文化研究科大河原研究室, 2020年3月, iii+47頁).
- ③「「カーディー裁判」: そのイメージと現実」(日本中東学会第35回年次大会, 於: 秋田大学手形キャンパス, 2019年5月12日).
- ③「中東系の住民とNPO, モスクの活動」(第35回日本ドイツ学会大会フォーラム報告, 於: 法政大学, 2019年6月30日).
- ③「16世紀のオスマン帝国の婚姻許可状」(第12回近代中央ユーラシア比較法制度史研究会, 於: 京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター羽田記念館, 2019年7月6日).
- ③「ドイツにおける社会統合の理想と現実: 旧東ドイツ・ハレ市の調査を中心に」(2019年度前期日本イスラム協会公開講演会「移民・難民からみる中東と欧州: ドイツの事例から」, 於: 東京大学本郷キャンパス, 2019年10月5日).

大里 浩秋

- ①「宗方小太郎日記補足, 明治27年6月30日~12月」(『人文学研究所報』, No. 62, 69~79頁, 神奈川大学人文学研究所, 2019年9月).
- ①「湖南と石川伍一」(『湖南』, 第40号, 14~26頁, 内藤湖南先生顕彰会,

2020年3月).

②『東アジアにおける租界研究：その成立と展開（神奈川県立大学非文字資料研究叢書3）』（内田青蔵・孫安石，東方書店，2020年，464頁）.

③「日中関係史と中国人留学生研究の意味」（第70回国際円卓会議『日中関係史研究の新たな潮流：摩擦・受容』，於：神奈川県立大学横浜キャンパス，2019年11月16日，[共催：中国人留学生史研究会・科学研究費補助金 基盤研究（B）「教育の交流と東アジア国際関係：中国人留学生の派遣と交流」，課題番号：17H02686，研究代表者：孫安石]）.

③「中国に置かれた租界について」（第12回外国人居留地研究会2019全国大会 第2回横浜大会，於：神奈川県立大学，2019年12月7日，[主催：横浜外国人居留地研究会・外国人居留地研究会全国会議]）.

大澤 顯浩

①「葛飾北斎『唐土名所之絵』と中国地図の受容」（陳捷編『医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界』，216～242頁，勉誠出版，2020年2月）.

③“Landscape-style Maps in Traditional Chinese Local Government”，the 29th International Cartographic Conference, Tokyo International Exchange Center, 15 July 2019.

大澤 肇

①「第15章 教育」（川島真・中村元哉編著『中華民国史研究の動向：中国と日本の中国近代史理解』，269～288頁，晃洋書房，2019年4月）.

③「日本人は中国の教育をどう見てきたのか：民国期を中心に」（日中関係若手研究者フォーラム，於：復旦大学（上海市），2019年10月12日）.

大澤 正昭

①「『補農書』（含『沈氏農書』）試釈：現地調査を踏まえて（三・完）」（村上陽子・大川裕子・酒井駿多，『上智史学』，第64号，35～77頁，上智大学史学会，2019年11月）.

①「明代日用類書研究論文・著作目録稿」（杉浦廣子，中国政法大学法律古籍整理研究所編『中国古代法律文献研究』，第13輯，560～593頁，社会科学文献出版社（北京），2019年12月，[中文版]）.

①「淮河中流域歴史調査報告：宋代古墓を中心として（蚌埠・鳳陽・合肥篇）」（佐々木愛・石川重雄・戸田裕司・小川快之・小島浩之），『社会文化

論集：島根大学法文学部紀要『社会文化学科編』，第16号，1～26頁，島根大学法文学部社会文化学科，2020年2月）。

①「浙江省南部歴史調査報告（麗水・温州篇）：宋代古墓を中心として」（佐々木愛・兼田信一郎・石川重雄・戸田裕司），『東京大学経済学部資料室年報』，第10号，48～63頁，東京大学経済学部資料室，2020年3月）。

③「中国農書をどう読むか：農書の有効性と限界」（東洋大学アジア文化研究所公開シンポジウム「中国史研究と史料利用の現況：漢籍・石刻・檔案」，於：東洋大学白山校舎，2019年11月23日，[要旨：「中国農書をどう読むか：その有効性と限界」，千葉正史主編，竹内洋介・速水大編『中国史研究と史料利用の現況：漢籍・石刻・檔案』，7～19頁，東洋大学アジア文化研究所，2020年1月]）。

太田 幸男

①「秦漢時代の法律文書」（『東洋学報』，第101巻第4号，94～96頁，（公財）東洋文庫，2020年3月，[2019年度後期東洋学講座講演要旨]）。

③「秦漢時代の法律文書」（（公財）東洋文庫2019年度後期東洋学講座，於：（公財）東洋文庫，2019年11月13日）。

岡崎 礼奈

②『漢字展：4000年の旅』（（公財）東洋文庫，2019年，32頁，[項目執筆：「日本における漢字文化」，「知っているようで知らない，漢字にまつわる雑学」，2，5，22～25，29～31]）。

②『東洋文庫の北斎展』（（公財）東洋文庫，2019年，32頁，[項目執筆：「HOKUSAI人気の源流をたどる」，「東洋文庫所蔵の優品，珍品でたどる北斎の画業70年①：デビューまもない「春朗」時代」，「東洋文庫所蔵の優品，珍品でたどる北斎の画業70年④：絵手本と錦絵の名作誕生の時代」，「東洋文庫所蔵の優品，珍品でたどる北斎の画業70年⑤：画狂老人の境地へ：絵の極意を求め続けた晩年」，1，6，12，22，23]）。

②『大清帝国展』（（公財）東洋文庫，2020年，32頁，[項目執筆：「コラム：イエズス会士たちの活躍」，「清のガバナンス」，「清をめぐる国際関係の変化」，7～9，14～18，20，21，26]）。

岡野 誠

①（高明士訳）「敦煌、吐魯番所発現的唐代法制文献」（池田温），馬小紅

総主編、趙晶主編『法律文化研究』、第13輯：敦煌、吐魯番漢文法律文献專題，3～53頁，社会科学文献出版社（北京），2019年11月）。

①（趙晶・劉思皓共訳）「新介紹的吐魯番、敦煌本《唐律》《律疏》殘片：以旅順博物館以及中国国家図書館所蔵資料為中心」（馬小紅総主編，趙晶主編『法律文化研究』、第13輯：敦煌、吐魯番漢文法律文献專題，114～150頁，社会科学文献出版社（北京），2019年11月）。

①「日唐律における「格」と「捨」（『法史学研究会会報』、第23号（小林宏先生米寿記念号），168～178頁，法史学研究会，2020年3月）。

①「唐令復原方法に関する一考察：唐獄官令第22条を中心として」（陳俊強主編『中国歴史文化新論：高明士教授八秩嵩寿文集』、115～134頁，元華文創（竹北），2020年3月）。

岡本 隆司

①「近代東アジアの「主権」を再検討する：藩属と中国」（『歴史学研究』、No. 989（2019年増刊号），186～196頁，歴史学研究会，2019年10月）。

②『腐敗と格差の中国史（NHK出版新書583）』（NHK出版，2019年，240頁）。

②『世界史とつなげて学ぶ中国全史』（東洋経済新報社，2019年，264頁）。

②『君主号の世界史（新潮新書832）』（新潮社，2019年，266頁）。

②『東アジアの論理：日中韓の歴史から解き明かす（中公新書2586）』（中央公論新社，2020年，256頁）。

小川 快之

①「中国語の流行歌とその教材としての可能性について」（『ワセダ・レビュー』、第52号，139～157頁，早大文学研究学会，2020年2月）。

①「淮河中流域歴史調査報告：宋代古墓を中心として（蚌埠・鳳陽・合肥篇）」（佐々木愛・大澤正昭・石川重雄・戸田裕司・小島浩之，『社会文化論集：島根大学法文学部紀要. 社会文化学科編』、第16号，1～26頁，島根大学法文学部社会文化学科，2020年2月，[担当八：包拯墓，包拯家族墓，包公祠]）。

①「東アジアの宮廷女官をテーマとした日本史・東洋史合同授業の教育的効果について」（仁藤智子，『国士館史学』、第24号，35～62頁，国士館大学日本史学会，2020年3月）。

③「流行歌から考える中国語の世界：近現代の流行歌とその背景」（常葉大

学外国語学部公開講演会，於：常葉大学静岡草薙キャンパス，2020年1月9日）。

③「木宮泰彦『日華文化交流史』を活用した異文化理解教育の可能性について：江戸時代における中国文化の影響を中心に」（常葉大学学内共同研究「『日華文化交流史』とその時代：木宮泰彦の研究成果を常葉大学の授業で活用する試み（代表：若松大祐）」座談会，於：常葉大学静岡草薙キャンパス，2020年1月9日）。

奥村 哲

③「中国基層社会史研究の成果と課題：1950年代の研究の深化のために」（「1950年代，中国共産党権力の社会への浸透とその矛盾に関する共同研究」2019年度第1回科研研究会，於：上智大学，2019年7月14日，[科学研究費補助金 基盤研究（B）「1950年代，中国共産党権力の社会への浸透とその矛盾に関する共同研究」，課題番号：19H01315，研究代表者：山本真，要旨：国際ワークショップ「1950年代，中国共産党権力の社会への浸透」，前掲科研『初年度成果報告書』，1～17頁，2020年4月10日]）。

尾崎 文昭

①「木山英雄『『野草』論』を読む（上）」（『颯風』，第58号，1～24頁，颯風の会，2019年8月）。

①「中嶋長文さんの周作人「弁解」論に異議あり」（『颯風』，第58号，25～36頁，颯風の会，2019年8月）。

①「卞之琳の詩を読んでみる」（『九葉読詩会』，第5号，118～132頁，九葉読詩会，2020年3月）。

③「東京大学中文系与魯迅研究会の中文伝統」（北京大学人文社会科学研究院講座，於：北京大学静園二院208会議室，2019年9月12日）。

③「魯迅経過生存危機而復蘇的過程邏輯：解讀木山英雄的《野草》論」（清華大学人文与社会科学高等研究所2019秋季学期“東亜研究工房”之一，於：清華大学人文社科図書館東南4層颯風会議室，2019年9月14日）。

小澤 一郎

①「2018年の歴史学界：回顧と展望（西アジア・北アフリカ：近現代）」（『史学雑誌』，第128編第5号，305～309頁，史学会，2019年5月）。

①「19世紀末イランの兵員徴用と社会：イラン・イスラーム議会図書館所

蔵『歩兵徴用簿』の検討から」(『オリエント』, 第62巻第1号, 13～32頁, 日本オリエント学会, 2019年9月).

③「近代イランにおける軍事改革思想：マルコム・ハーンを事例として」(上智大学史学会第69回大会, 於：上智大学, 2019年11月17日).

小沼 孝博

①「遊牧民とオアシスの民, そして交易：モグール・ウルスからジュンガルへ」(野田仁・小松久男編『近代中央ユーラシアの眺望』, 14～31頁, 山川出版社, 2019年10月).

①彙報「第五六回野尻湖クルルタイ」(『東洋学報』, 第101巻第3号, 31～39頁, (公財)東洋文庫, 2019年12月).

①「タシュケント滞在記」(『アジア流域文化研究』, 第11号, 76～99頁, 東北学院大学アジア流域文化研究所, 2020年3月).

③「ミッチェル図書館所蔵「モリソン文書」と新疆関連史料」(第48回(2019年度)三菱財団人文科学研究助成「モリソン・コレクションの学際的・総合的研究：近代東アジア史と「アジア文庫」形成の資料的分析」第1回研究会, 於：(公財)東洋文庫, 2019年11月).

小野寺 史郎

①「戦後日本の中国史研究における「近代」」(山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史編『われわれはどんな「世界」を生きているのか：来るべき人文学のために』, 223～242頁, ナカニシヤ出版, 2019年4月).

①「戦後日本の中国近現代史研究におけるナショナリズム論」(『歴史学研究』, No. 985 (2019年7月号), 36～44頁, 歴史学研究会, 2019年7月).

①「清末民初のミリタリズム」(『中国研究月報』, 第73巻11号(861号), 1～14頁, 中国研究所, 2019年11月).

①「中華人民共和国成立初期の「記念節日資料」中の毛沢東略伝について」(石川禎浩編『毛沢東に関する人文学的研究』, 157～181頁, 京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター, 2020年2月).

①「清の近代国家化の試み」, 「模索する中華民国」, 「国民政府と日中戦争」, 「中華人民共和国と東部ユーラシア」, 「現代の中国と東部ユーラシア」(佐川英治・杉山清彦編著『中国と東部ユーラシアの歴史』, 199～286頁, 放送大学教育振興会, 2020年3月).

粕谷 元

- ①「1925年のトルコ大国民議会におけるタリーカ活動禁止法案審議」(『イスラム世界』, 91号, 1～27頁, 日本イスラム協会, 2019年6月).

糟谷 憲一

- ①「(私の原点) 朝鮮史研究との出逢い」(『歴史評論』, 2019年8月号(第832), 95～96頁, 歴史科学協議会, 2019年8月).
- ②「(座談会) 大学における歴史研究／教育の現在と未来」(〈高埜利彦・川手圭一・津野田興一・源川真希・小嶋茂稔〉, 『歴史評論』, 2019年9月号(第833), 5～26頁, 歴史科学協議会, 2019年9月).

片桐 一男

- ②『カピタン最後の江戸参府と阿蘭陀宿：歩く, 異文化交流の体現者』(勉誠出版, 2019年, 272頁).
- ③「オランダ語を我がものとして：阿蘭陀通詞の語学と仕事」(「書物にみる海外交流の歴史：本が開いた異国の扉」講演会, 於：静嘉堂文庫美術館, 2019年7月7日).

片山 章雄

- ①「コメンテーターの総括と質疑応答」(〈三谷真澄・白須淨眞・松居竜五〉, 三谷真澄編『大谷光瑞の構想と居住空間』, 239～247頁, 法蔵館, 2020年2月, [大谷光瑞師遷化70年記念国際シンポジウム「大谷光瑞師の構想と居住空間」発表要旨, 於：龍谷大学, 2018年10月6日]).
- ②史料紹介「ユーラシア(ン) Eurasia(n)の語・意味と歴史研究上の使用」(『東海史学』, 第54号, 67～72頁, 東海大学史学会, 2020年3月).

加藤 恵美

- ①書評「『わたしもじだいのいちぶです：川崎桜本ハルモニたちがつづった生活史』(康潤伊ほか編著, 日本評論社, 2019年)」(立教大学平和・コミュニティ研究機構NEWS LETTER, No. 27, 5～6頁, 立教大学平和・コミュニティ研究機構, 2019年8月).
- ③「多文化が共生する地域社会は誰の社会か：川崎市ふれあい館の事例研究」(日本国際政治学会2019年度研究大会, 於：朱鷺メッセ, 2019年10月20日).

金沢 陽

- ③「明代徭役制度与宦官督陶对“空白期”官窯的幾個啓示」(「灼煉重現：十五世紀中期景德鎮瓷器」國際學術研討会，於：上海博物館，2019年6月27日)。
- ③「日本と欧州の間の磁器交流：17～18世紀のいくつかのエピソードについて」(「第4回マカオ国際博覧会」記者発表会ミニ・シンポジウム，於：ホテルニューオータニ，2019年12月19日)。

金丸 裕一

- ①「中日戦争時期有関中国的論述：神職人員眼中的他者鏡像」(司佳・徐亦猛編『近代東亜国際視闕下的基督教教育与文化認同』，92～109頁，復旦大学出版社(上海)，2019年5月)。
- ①「資料 中国における清水安三の記録について」(『立命館経済学』，第68巻第2号，78～111頁，立命館大学経済学会，2019年7月)。
- ①「『支那通』クリスチャンと日中戦争：清水安三の働きをめぐって」(『キリスト教史学』，第73集，189～210頁，キリスト教史学会，2019年7月)。
- ③「浅談日本基督徒對於侵略战争的謝罪問題」(全球化視域下的近代東亜社会轉型國際學術研討会，於：上海大学文学院，2019年11月2日)。

亀谷 学

- ① “Monetary Transactions in the Vellum Contract Documents”, Miura Toru, and Sato Kentaro eds., *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries: Part II* (TBRL22), pp. 139–152, The Toyo Bunko, 2020.
- ③ “Fatimid Coinage and Caliphal Authority”, the International Medieval Congress 2019, Leeds, UK, 4 July 2019.

川合 安

- ①書評「谷川道雄著『谷川道雄中国史論集』上巻」(『唐代史研究』，第22号，182～191頁，唐代史研究会，2019年8月)。
- ③「南朝の州大中正」(2019年度東北史学会大会，於：東北大学，2019年10月6日)。

川崎 信定

- ③ 「インド思想研究と東洋文庫」(東洋文庫講演会, 於: (公財) 東洋文庫, 2019年4月28日).

川島 真

- ② 『中華民国史研究の動向: 中国と日本の中国近代史理解』(〈中村元哉〉, 晃洋書房, 2019年, 440頁).
- ② 『中国の外交戦略と世界秩序: 理念・政策・現地の視線』(〈遠藤貢・高原明生・松田康博〉, 昭和堂, 2020年, 272頁).
- ③ “Re-thinking “Washington System” and Historical Dynamism in East Asia”, Panel I: Comparing “the Versailles-Washington System” and “San Francisco System”: Lessons from the Rise and Fall of International Orders in East Asia, JIIA-Stanford Symposium: “The Past, Present, and Future International Order in East Asia”, Bechtel Conference Center, Encina Hall, Stanford University, 10 May 2019, [co-organized by The Japan Institute for International Affairs (JIIA) and Walter H. Shorenstein Asia Pacific Research Center (APARC) of the Freeman Spogli Institute of International Studies (FSI) at Stanford University].
- ③ 「中国の描く秩序像: 新型国際関係と強化された社会管理, そして脆弱性と権威主義の強靱性」(2019年度日本比較政治学会第22回大会 共通論題「民主主義の脆弱性と権威主義の強靱性」, 於: 筑波大学, 2019年6月30日).

神田 豊隆

- ② *Japan's Cold War Policy and China: Two Perceptions of Order, 1960-1972*, 306p, New York: Routledge, 2019.
- ③ 「日本社会党の外交政策と和解: 村山談話の「社会党らしさ」」(科学研究費・新学術領域研究「和解学の創成: 正義ある和解を求めて」2019年度夏合宿, 於: 早稲田大学本庄セミナーハウス, 2019年8月16~18日, [科学研究費補助金 新学術領域研究(研究領域提案型)「和解学の創成: 正義ある和解を求めて」, 課題番号: 1902, 研究代表者: 浅野豊美]).
- ③ “The Sea of Japan Region in the Longue Durée: Geopolitics, Transnational Networks, and the Future of Regional Cooperation”, International Symposium 2020, “Regional Order in East Asia: Emergence, Development, and Future”, Niigata University Satellite Campus Tokimate, 12 Jan. 2020.

貴志 俊彦

①「太平洋戦争下の食と健康：中国の日本人俘虜は何を食べていたのか」（岩間一弘編著『中国料理と近現代日本：食と嗜好の文化交流史』, 323～337頁, 慶應義塾大学出版会, 2019年12月）.

①“Das Bild von „Aufbau“ und „Entwicklung“ der lokalen Gesellschaft im Spiegel von illustrierten Zeitschriften der Mandschurei”, Günther Distelrath, Hans Dieter Ölschleger, and Shiro Yukawa eds., *Nordostasien in Medien, Politik und Wissenschaft: Geschichte und Geschichtsbild einer umstrittenen Region*, pp. 87–127, Berlin: EB-Verlag, 2019.

①「映画広報人青山唯一が遺したもの：初の大衆映画『東洋平和の道』をめぐる」（『史学研究』, 第305号, 290～316頁, 広島史学研究会, 2020年3月）.

②『描かれたマカオ：ダーウエント・コレクションにみる東西交流の歴史 (Images of Macau: East-West Exchange and the Derwent Collection)』（朱益宜・黄淑薇）, 勉誠出版, 2020年, 238頁）.

②『よみがえる 沖縄 米国施政権下のテレビ映像：琉球列島米国民政府 (USCAR) の時代』（泉水英計・名嘉山リサ）, 不二出版, 2020年, 281頁）.

岸本 美緒

①「米とシルクと歓楽街：17～18世紀の蘇州」（古田和子編著『都市から学ぶアジア経済史』, 1～34頁, 慶應義塾大学東アジア研究所, 2019年5月）.

①「戦後中国史学の達成と課題・総論」（『歴史評論』, 2020年11月号（第837）, 6～18頁, 歴史科学協議会, 2020年1月）.

①「晩明の白銀北流問題」（『中国経済史研究』, 2020年1期, 5～16頁, 中国社会科学院経済研究所, 2020年3月）.

②『1571年：銀の大流通と国家統合（歴史の転換期6）』（山川出版社, 2019年, 304頁）.

③「清代における家族生活と契約」（（公財）東洋文庫2019年度前期東洋学講座, 於：（公財）東洋文庫, 2019年6月19日, [『東洋学報』第101巻第2号, 33～34頁, （公財）東洋文庫, 2020年9月]）.

北川 香子

①「マリカ王女と「ユカントール王子の遺産」：植民地期カンボジアにおける一王族の家族, 家計と子どもの養育について」（『東洋学報』, 第101巻第

1号, 40~68頁, (公財) 東洋文庫, 2019年6月).

① “The Cambodian Secretary-Interpreter Ly Sâm”, Hirosue Masashi ed., *A History of the Social Integration of Visitors, Migrants, and Colonizers in Southeast Asia: Role of Local Collaborators* (TBRL21), pp. 109–128, The Toyo Bunko, 2020.

橘堂 晃一

① 「中国西陲における宋代仏教図像の一受容：高文進様「弥勒菩薩像」を中心に」(『仏教芸術』, 第3号, 37~58頁, 仏教芸術学会, 2019年9月).

金 鳳珍

① 「아베 정권과 일본의 ‘병학적 근대’ (安倍政権と日本の『兵学的近代』)」(『歴史と現実』, 第113号, 3~28頁, 韓国歴史研究会, 2019年9月).

③ 「東アジアの『儒教的近代』と日本の『兵学的近代』」(第15回《東アジア実学》国際フォーラム「近代の暴走と実心実学」, 於：東北大学川内南キャンパス, 2019年12月22日, [要旨：『近代の暴走と実心実学』, 119~134頁, 第15回《東アジア実学》国際フォーラム, 2019年12月]).

工藤 裕子

① “The Spread of Tea from Taiwan and the Chinese Distribution Network in Colonial Java”, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, No. 77, pp. 39–64, The Toyo Bunko, 2019.

① “The Chinese Trading Company in European Law in the Netherlands Indies: A Case Study of the Sugar Merchants in Semarang”, Hirosue Masashi ed., *A History of the Social Integration of Visitors, Migrants, and Colonizers in Southeast Asia: Role of Local Collaborators* (TBRL21), pp. 109–128, The Toyo Bunko, 2020.

③ “Graphic design, Consumer culture, and Chinese in Indonesia”, the 6th International Conference on Chinese Indonesian Studies “Visual Culture of Chinese Diasporas in Asia”, Soegijapranata Catholic University, Semarang, Indonesia, 22 Nov. 2019.

久保 亨

① 「中国近現代経済史をどう捉えるか」(堀和生・萩原充編『“世界の工場”への道：20世紀東アジアの経済発展』, 41~67頁, 京都大学学術出版会,

2019年5月).

- ①「中華民国から中華人民共和国へ：1949年革命の前と後」(『研究中国』, 第9号, 4～11頁, 日本中国友好協会『研究中国』刊行委員会, 2019年10月).
- ①「従戦時到着後：東亜総体戦体制の形成と演変」(袁広泉), 『抗日戦争研究』, 2019年第4期, 4～13頁, 中国社会科学院近代史研究所・中国抗日战争史学会, 2019年12月).
- ③「二十世紀中国農業生産的發展和国際因素」(「全球視野下的中国近現代經濟發展路径、制度与思考」国際學術研討会, 於：上海社会科学院經濟研究所, 2019年8月25日, [主催：上海社会科学院經濟研究所・中国社会科学院經濟研究所『中国經濟史研究』編輯部]).
- ③「戦時から戦後へ：東アジアにおける総力戦体制の形成と変容」(日中国際シンポジウム「東アジアにおける戦時動員の位相：その衝撃と遺産」, 於：早稲田大学早稲田キャンパス8号館, 2019年10月13日).

久保田 淳

- ①「中世和歌と万葉集：藤原定家の三首を中心に」(『現代思想』, 2019年8月臨時増刊号, 17～26頁, 青土社, 2019年7月).
- ①「西行くさぐさの歌」(『西行学』, 第10号, 6～18頁, 西行学会, 2019年8月).
- ①「実朝の自然詠数首について」(渡部泰明編『源実朝：虚実を越えて(アジア遊学241)』, 73～80頁, 勉誠出版, 2019年12月).
- ②『後拾遺和歌集(岩波文庫黄29-1)』(平田喜信), 岩波書店, 2019年, 756頁).
- ②『藤原俊成：中世和歌の先導者』(吉川弘文館, 2019年, 512頁).

熊本 裕

- ①“The Discovery of the South Chinese Manichaean Painting “Hagiography (3)”and its contents”, Yutaka YOSHIDA, *Rivista degli Studi Orientali Nuova Serie*, XCII fasc. 1-2, pp. 209–230, Sapienza Università di Roma Istituto Italiano di Studi Orientali, Oct. 2019.
- ①“More on the injunctive in Khotanese”, Adam Alvah Catt, Ronald I Kim, and Brent Harmon Vine eds., *QAZZU warrai: Anatolian and Indo-European Studies in Honor of Kazuhiko Yoshida*, pp. 213–224, Ann Arbor: Beech Stave Press, 2019.

L. グローブ

① “A brief history of Japanese field research on China”, Thomas David DuBois, and Jan Kiely eds., *Fieldwork in Modern Chinese History: A Research Guide*, pp. 22–34, London and New York: Routledge, 21 Nov. 2019.

① (田中アユ子訳)「戦時期中国の職業女性：「上海婦女」その他の雑誌掲載記事に見る「平等」の追求」(『中国女性史研究』, 第29号, 1～16頁, 中国女性史研究会, 2020年2月).

黒田 卓

③「現代イランの素顔／別天地／カーブスの塔」(東北大学大学院国際文化研究科第80回中東表象研究会, 於: 東北大学川内北キャンパス, 2019年7月17日).

氣賀澤 保規

①「石に刻まれた古文書の世界」(『東洋見聞録』, 第24号, 7～10頁, (公財)東洋文庫, 2019年4月).

①「全文詳解 顔真卿『祭姪文稿』: 解説安史の乱と顔真卿」(『墨』, 258号 (2019年5・6月号), 102～109頁, 芸術新聞社, 2019年5月).

①「全文詳解 顔真卿『祭伯文稿』: 顔真卿とその一族」(『墨』, 259号 (2019年7・8月号), 154～161頁, 芸術新聞社, 2019年7月).

②『濱田徳海旧蔵敦煌文書コレクション目録』((公財)東洋文庫, 2020年, vii+344頁).

③「房山石経唐代《大般若波羅蜜多經》的刻経与“巡礼”(The Carving of the Tang-era Da Bore Boluomiduo Jing and ‘Pilgrimage 巡礼’)], International Conference on the Production, Preservation and Perusal of Buddhist Epigraphy in Central and East Asia, St. Anne’s College, University of Oxford, UK, 21 Aug. 2019.

巖 善平

①「中国農業の成長と構造転換」(堀和生・萩原充編『“世界の工場”への道: 20世紀東アジアの経済発展』, 295～303頁, 京都大学学術出版会, 2019年5月).

① “The changing faces and roles of communist party membership in China: an

empirical analysis based on CHIPS 1988, 1995 and 2002”, *Journal of Contemporary East Asia Studies*, Vol. 8, No. 1, pp. 99–120, Waseda Institute of Contemporary Chinese Studies (WICCS), June 2019, [<https://doi.org/10.1080/24761028.2019.1633987>].

- ① 「中国労働市場における需給動向と賃金事情」(『日中経協ジャーナル』, 2019年7月号 (No. 306), 19～23頁, 日中経済協会, 2019年7月).
- ① 「新たな局面を迎えた中国の農村貧困と経済格差」(『東亜』, No. 628 (2019年10月号), 2～3頁, 霞山会, 2019年10月).
- ① 「中国の社会・経済の今をみて考える」(『東亜』, No. 633 (2020年3月号), 10～19頁, 霞山会, 2020年3月).

小嶋 茂稔

- ① 書評「藤間生大著, 磯前順一・山本昭宏編『希望の歴史学: 藤間生大著作論集』」(『図書新聞』, 第3402号, 3面, 武久出版, 2019年6月8日, [記事題目: 「藤間生大の歴史学を日本近代史学史に位置づける: 彼が歴史学に籠めた熱い情熱が, 本書を介して若い歴史学徒に継承されることを祈る」]).
- ① 「後漢の刺史の兵権行使に関する再検討」(『日本秦漢史研究』, 第20号, 117～142頁, 日本秦漢史学会, 2019年11月).
- ① 「刊行に至る経緯」(歴史科学協議会編『歴史科学の思想と運動 (歴史科学大系第32巻)』, 593～594頁, 大月書店, 2019年12月).
- ① 「[[「共同体」論争]の意義と課題」(『歴史評論』, 2020年1月号 (第837), 32～46頁, 歴史科学協議会, 2020年1月).

小嶋 芳孝

- ① 「渤海日本道と加賀能登」(佐々木虔一・武廣亮平・森田喜久男編『日本古代の輸送と道路』, 267～285頁, 八木書店, 2019年5月).
- ① “An Archaeological Study about the Road Network of Bohai”, *МУЛЬТИДИСЦИПЛИНАРНЫЕ ИССЛЕДОВАНИЯ В АРХЕОЛОГИИ*, 2019 No. 2, pp. 52–61, Institute of History, Archaeology and Ethnography of the Peoples of the Far-East, Far-Eastern Branch of Russian Academy of Sciences, 2019.
- ① 「クラスキノ城跡の検討」(『史友』, 第52号, 231～240頁, 青山学院大学史学会, 2020年3月).
- ① 「ガラス玉研究と北アジア史」(『考古学ジャーナル』, 2020年3月号 (No. 737), 1頁, ニュー・サイエンス社, 2020年3月).

③「從城牆修築過程思考克拉斯基諾城址的歷史」(東北亞古代城址國際研討會, 於: 吉林大学边疆考古研究中心, 2019年9月22日, [要旨: 『東北亞古代城址國際研討會論文集』, 136~146頁, 吉林大学边疆考古研究中心, 2019年9月]).

小寺 敦

- ①「楚からみた晋: 清華簡『子犯子余』を起点として」(『日本秦漢史研究』, 第20号, 1~31頁, 日本秦漢史学会, 2019年11月).
- ①「清華簡『晋文公入於晋』訳注」(『東京大学東洋文化研究所紀要』, 第177冊, 308~340頁, 東京大学東洋文化研究所, 2020年3月).
- ③「關於清華簡《晋文公入於晋》中理想的君主像」(商周国家与社会国際学術研討會, 於: 北京師範大学歴史学院, 2019年10月11日, [要旨: 『商周国家与社会国際学術研討會會議手冊』, pp. 441-454, 北京師範大学歴史学院]).
- ③「中国戦国時代の「非発掘簡」」((公財)東洋文庫2019年度後期東洋学講座, 於: (公財)東洋文庫, 2019年11月6日, [『東洋学報』第101巻第4号, 92~94頁, (公財)東洋文庫, 2020年3月]).
- ③「清華簡『繫年』を中心としてみた楚地域の歴史観」(「東北アジア青銅文化比較研究」国際学術シンポジウム, 於: 岩手大学上田キャンパス, 2019年12月14日, [要旨: 『東北亞青銅文化比較研究国際学術研討會: 論文・提要集』, pp. 129-139, 国立大学法人岩手大学, 河南省文物考古研究院, 北京大学出土文献研究所, 日本中国出土資料学会, 2019年12月]).

小長谷 有紀

- ①「モンゴルにおけるウマと人: 伝統知と自然科学の融合に向けて」(『生物の科学 遺伝』, Vol. 73 No. 3, 244~250頁, エヌ・ティー・エス, 2019年5月).

小浜 正子

- ①「中国の人口政策: 計画出産化の農村幹部と女性」(小島宏・廣嶋清志編『人口政策の比較史: せめぎあう家族と行政』, 275~300頁, 日本経済評論社, 2019年9月).
- ②『一人っ子政策と中国社会』(京都大学学術出版会, 2020年2月, 390頁).

小松 久男

- ① 「一つの文書から何を読み取るか：近現代史の史料について」(『日本中央アジア学会報』, 第15号, 106～107頁, 日本中央アジア学会, 2019年7月, [日本中央アジア学会2018年度年次大会報告要旨, 於: KKR江ノ島ニュー向洋, 2019年3月24日]).
- ① 書評 “Ayida Kubatova, *Kırgızistan’da Ceditçilik Hareketi (1900–1916)*, Aktaran: Ali Ünal, Ankara: Bengü, 2018, 276pp.” (『日本中央アジア学会報』, 第15号, 114～120頁, 日本中央アジア学会, 2019年7月).
- ① 「言説空間のひろがり：アブデュルレシト・イブラヒムの足跡をたどって」(野田仁・小松久男編『近代中央ユーラシアの眺望』, 267～286頁, 山川出版社, 2019年10月).
- ② 『近代中央ユーラシアの眺望』(〈野田仁〉, 山川出版社, 2019年10月, 320頁).

小南 一郎

- ① 「秦の祀天儀礼 下」(『泉屋博古館紀要』, 第35巻, 1～32頁, 泉屋博古館, 2019年12月).
- ① 「目連戯：その特異性」(『中国浙江講唱文藝研究：勸善・免災の機能から考える』 科研費研究成果報告書, 7～13頁, 2020年3月, [科学研究費補助金 基盤研究 (C)「中国浙江講唱文藝研究：勸善・免災の機能から考える」, 課題番号：17K02652, 研究代表者：松家裕子]).

近藤 信彰

- ① “How to Found a New Dynasty: The Early Qajars’ Quest for Legitimacy”, *Journal of Persianate Studies*, vol. 12-2, pp. 261–287, Leiden: Brill, 2020.
- ③ “‘Ilm al-siyaq and Mostowfis in Early Modern Iran”, All-Japan-Exeter Joint Workshop “Knowledge as Power: Production, Control, and Manipulation of Knowledge in Muslim Societies”, the Institute for Advanced Studies on Asia, Tokyo, 27 Apr. 2019.
- ③ 「ガー journal 朝『王室財産・ワクフ財台帳』の再検討」(日本中東学会第35回年次大会, 於: 秋田大学手形キャンパス, 2019年5月12日).
- ③ “A Turko-Mongol Tradition: Bahadur Khan as a title of Sovereigns in West and Central Asia”, Special Lecture (復旦大学史学論壇), Department of History, Fudan University, Shanghai, 21 Oct. 2019, [中文題目: 「突厥抑或蒙古伝統?」:

“拔都汗”作為14-15世紀中亞、西亞通行的統治者頭銜]].

③「イラン式簿記術：サファヴィー朝期の応用例」(九州史学会2019年度大会シンポジウム「「イラン式簿記術」とスィヤークの世界」, 於：九州大学伊都キャンパス, 2019年12月15日).

齋藤 真麻理

①「室町物語と玄宗皇帝絵：『付喪神絵巻』を起点として」(島尾新・宇野瑞木・亀田和子編『和漢のコードと自然表象：十六、七世紀の日本を中心に(アジア遊学246)』, 勉誠出版, 2020年3月).

②天理大学附属天理図書館編『新天理図書館善本叢書26：奈良絵本集4』(〈石川透・金光桂子〉, 八木書店, 2019年, 248頁).

②天理大学附属天理図書館編『新天理図書館善本叢書29：奈良絵本集7』(〈石川透〉, 八木書店, 2019年, 224頁).

②天理大学附属天理図書館編『新天理図書館善本叢書30：奈良絵本集8』(〈石川透〉, 八木書店, 2020年, 338頁).

坂田 美奈子

③「グローバルな視点で考える近現代アイヌの文化変容」(苫小牧市長生大学駒大講座, 於：苫小牧駒澤大学, 2019年8月7日).

③ “How Oral Tradition Works to Reclaim Indigenous History”, International Council on Archives, Indigenous Matters Summit, Tandanya National Aboriginal Cultural Institute, Adelaide, Australia, 25 Oct. 2019.

佐々木 紳

①「オスマン帝国からみた中央ユーラシア：汎イスラーム主義の射程」(野田仁・小松久男編『近代中央ユーラシアの眺望』, 228~247頁, 山川出版社, 2019年10月).

③「近代トルコの改革実践者たち：ミドハト・パシヤとその時代」(NPO法人日本トルコ交流協会第24回講演会, 於：ユヌス・エムレ インステイトゥート東京, 2019年10月26日, [要旨：『NPO法人日本トルコ交流協会ニューズレター』, 第24号, 2~3頁, NPO法人日本トルコ交流協会, 2020年4月]).

佐藤 健太郎

① “Apostilles by Qadi in the Vellum Documents”, Miura Toru, and Sato Kentaro

eds., *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries: Part II* (TBRL22), pp. 126–138, The Toyo Bunko, 2020.

② *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries: Part II* (TBRL22), 〈MIURA Toru〉, x+297p, The Toyo Bunko, 2020.

佐藤 仁史

① 「田野中の近現代江南社会与文化（円卓「重新發現江南：新問題与新進路」）」（『探索与争鳴』，2019年第2期，20～22頁，上海社会科学学会聯合会，2019年2月）。

② 『見証：一位農民的新中国70年』（〈羅雪昌・杜正貞・陳明華・宮原佳昭・相原佳之〉，浙江大学出版社（杭州），2019年，230頁）。

③ 「田野中の近現代江南的社会：以口述历史和地方文献为例」，the Conference “New perspectives on Chinese history: The use of archives from the middle and lower course of the Yangzi River and related regions (16th century–1949)”, École française d’Extrême-Orient (EFEO), 18 Oct. 2019, [英文題目：“Oral Archives and Local Materials in the Lower Yangzi Delta in Modern and Contemporary China”].

③ 「フィールドからみる中国近現代史」（2019年度三田史学会東洋史部会例会，於：慶應義塾大学三田キャンパス，2019年12月18日）。

塩沢 裕仁

① 「出土状況を通してみる漢代漆器の性格と問題点：耳杯を主とする漢代の漆器は明器か否か」（『法政大学文学部紀要』，第79号，67～82頁，法政大学文学部，2019年9月）。

① 「考古資料所見漢代漆器の特徴与相關問題：以耳杯為主的漆器是否為明器」（南京師範大学文物与博物館学系『東亜文明』，第1輯，81～93頁，社会科学文献出版社（北京），2019年12月）。

① （翻訳）安亜偉・葉劍著「考古ボーリング調査（勘探）における洛陽鐘の技術とその応用」（『法政史学』，第93号，186～175頁，法政大学史学会，2020年3月）。

③ 「「太行八径」調査報告」（国際学術シンポジウム「古道・関塞遺址調査に基づく前近代中国主要交通路の研究」，於：京都大学，2019年12月14日）。

設樂 國廣

①“Osmanlı İttihat ve Terakki Cemiyetinin İlk Kuruluşu ve Kurucuları”, *Journal of Turkish Studies (Türklük Bilgisi Araştırmaları)*, Vol. 52, pp. 269–290, Cambridge: Harvard University, Dec. 2019, [Cemal Kafadar, and Gönül Alpay Tekin eds., *Festschrift in Honor of ÖZER ERGENÇ (ÖZER ERGENÇ Armağanı) Part II*].

篠木 由喜

②『漢字展：4000年の旅』（（公財）東洋文庫，2019年，32頁，[項目執筆：「世界の文字から見る「漢字」，「世界の文字マップ」，「漢字の成り立ちと発展」，「漢字の伝播」，7～11]））。

②『東洋文庫の北斎展』（（公財）東洋文庫，2019年，32頁，[項目執筆：「北斎ゆかりの地：住まいと旅」，16, 18, 19, 21, 25, 28～31]））。

②『大清帝国展』（（公財）東洋文庫，2020年，32頁，[項目執筆：「北京をめぐる1000年と清の建国」，「コラム：八旗とは？」，「帝国の栄光Ⅰ：明の滅亡と清の入関（17世紀）」，「帝国の栄光Ⅱ：清の領土拡大（17～18世紀）」，「帝国の栄光Ⅲ：清の文化」，1, 2, 4～6, 10～13, 19]））。

斯波 義信

①「座談会（前編）特殊文庫とはなにか？そのユニークな歴史を繙き，古典籍や文庫への思いを語る。」（〈高橋智・西岡芳文・村木敬子・瀧下彩子〉，『書物学』，第16巻（特集：「特殊文庫をひらく：古典籍がつなぐ過去と未来」），4～15頁，勉誠出版，2019年7月）。

①「座談会（後編）特殊文庫にできること。急激に変化する現代における文庫の未来を考える。」（〈高橋智・西岡芳文・村木敬子・瀧下彩子〉，『書物学』，第16巻（特集：「特殊文庫をひらく：古典籍がつなぐ過去と未来」），53～65頁，勉誠出版，2019年7月）。

③「海外貿易と社会変革」（南島史学会第48回大会，於：（公財）東洋文庫，2019年6月28日）。

③“Why an Archival Center was necessary for the Study of Oriental History in Japan?”, International Symposium, “Books as Texts and as Objects: The Production, Circulation, and Collection of Knowledge in Asia and Europe”, Toyo Bunko, 19 Jan. 2020, [Jointly Sponsored by the Harvard-Yenching Institute and Toyo Bunko].

島田 竜登

- ① 「『長期の18世紀』の世界」(秋田茂編『グローバル化の世界史(MINERVA世界史叢書2)』, 147~170頁, ミネルヴァ書房, 2019年4月).
- ① “South Asian Settlers at Batavia in the Seventeenth and Eighteenth Centuries”, Rila Mukherjee, and Radhika Seshan eds., *Indian Ocean Histories: The Many Worlds of Michael Naylor Pearson*, pp. 124–136, London and New York: Routledge, Aug. 2019.
- ① “Tayowan as a Global Center: Trade and Agricultural Development in Taiwan by the Dutch East India Company during the Seventeenth Century”, Liu Yi-chang, and Ann Heylen eds., *Nanying History, Society and Culture V: Early Tainan Region*, pp. 205–220, Tainan: The International Center of Tainan Area Humanities and Social Science Research, Cultural Affairs Bureau of Tainan City Government, Sept. 2019, [劉益昌・Ann HEYLEN (賀安娟) 編『南瀛歴史、社会与文化V：早期南瀛』, 台南市政府文化局].
- ③ “Nagasaki: A Gateway of Tokugawa Japan to the World Economy”, Between Realism and Reality: Portrayal of Japanese International Relations in the Work of Kawahara Keiga, National Museum of Ethnology, Leiden, The Netherlands, 30 Oct. 2019.
- ③ シンポジウム趣旨説明「『長期の18世紀』と海域アジア：港市と農村の社会変化」(東方学会令和元年度秋季学術大会, 於：日本教育会館, 2019年11月9日).

徐 小潔

- ② 『漢字展：4000年の旅』((公財) 東洋文庫, 2019年, 32頁, [項目執筆：3, 4, 13~15]).
- ③ “A Scientific Analysis of Paper in Toyo Bunko Collection: Exploring a New Research Methods for Oriental Studies”, International Symposium, “Books as Texts and as Objects: The Production, Circulation, and Collection of Knowledge in Asia and Europe”, Toyo Bunko, 18 Jan. 2020, [Jointly Sponsored by the Harvard-Yenching Institute and Toyo Bunko].

邵 迎建

- ① 「一九四六～一九四九年の上海話劇」(高綱博文・木田隆文・堀井弘一郎編『上海の戦後：人びとの模索・越境・記憶 (アジア遊学236)』, 58~69

頁，勉誠出版，2019年8月）。

①（翻訳）常芳菲著「專訪上野千鶴子：到處都有想維護“加害男性”利益的男女」（『新女性』，3，虎嗅網，2020年1月19日）。

②「『狼火は上海に揚る』から『春江遺恨』へ」（西村正男・星野幸代編『移動するメディアとプロパガンダ：日中戦争期から戦後にかけての大衆芸術（アジア遊学247）』，47～65頁，勉誠出版，2020年3月）。

③「“舞女”与国、家：『舞女涙』『花濺涙』『十八春』及其它」（「新時代的女性文学与性別研究」高峰論壇，於：包頭市職工大学，2019年7月11日）。

③「從話劇『清宮怨』到電影『清宮秘史』」（國際學術研討會「戰後中日芸術交渉：繼承与展開」，於：清華大学（北京市），2019年10月6日）。

城山 智子

① “Overseas Chinese Remittances in the Mid-Twentieth Century”, Chi-cheung Choi, Takashi Oishi, and Tomoko Shiroyama eds., *Chinese and Indian Merchants in Modern Asia: Networking Businesses and Formation of Regional Economy*, pp. 72–103, Leiden: Brill, 2019.

② *Chinese and Indian Merchants in Modern Asia: Networking Businesses and Formation of Regional Economy*, 〈Chi-cheung Choi, Takashi Oishi〉, xii+355p, Leiden: Brill, 2019.

③ “Natural Disaster and Food Supply in the Early 20th Century China: The Case of 1931 Yangzi River Flood”, the session, “Coping with Monsoon in Asia from the 19th to the 20th Century: Exploring Environmental History with Meteorological Database and Spatial Analysis” at 3rd World Congress of Environmental History, Universidade Federal de Santa Catarina, Brazil, 22 July 2019.

③ “The Rice Crisis in 1918–1920: View from Hong Kong”, SG Bicentennial in NTU Conference, Nanyang Technological University, Singapore, 19 Oct. 2019.

③ “East Asia in Transition: Views from the George Morrison Pamphlet Collection”, International Symposium, “Books as Texts and as Objects: The Production, Circulation, and Collection of Knowledge in Asia and Europe”, Toyo Bunko, 19 Jan. 2020, [Jointly Sponsored by the Harvard-Yenching Institute and Toyo Bunko].

杉本 史子

① 「海洋空間と情報の幕末史：海図と船艦の十九世紀」（『都市史研究』，6

号, 91~100頁, 都市史学会, 2019年10月).

①「政治社会の動きを描くパノラマ的広域鳥瞰図」(ロバート・キャンベル監修『近世文学史研究 第三卷: 十九世紀の文学: 百年の意味と達成を問う』, 14~23頁, ぺりかん社, 2019年11月).

①「『海洋知の再編と日本社会』ノート: 史料と研究視角」(『東京大学史料編纂所研究紀要』, 第30号, 81~96頁, 東京大学史料編纂所, 2020年3月).

③「19世紀大老文書の史料集刊行と電子索引公開: 大日本維新史料シリーズ『井伊家史料』の人名電子索引公開について」(東京大学史料編纂所国際研究集会「維新史料研究と国際発信」, 於: 東京大学伊藤国際学術研究センター, 2019年12月10日).

③「『近世政治空間論』と今後の課題」(法制史学会東京部会第279回例会シンポジウム「日本近世の法と経済: 杉本史子著『近世政治空間論』を素材として」, 於: 東京大学東洋文化研究所3階大会議室, 2020年2月1日).

杉山 清彦

①「ジュシェンからマンジュへ: 明代のマンチュリアと後金国の興起」(古松崇志・臼杵勲・藤原崇人・武田和哉編『金・女真の歴史とユーラシア東方(アジア遊学233)』, 310~325頁, 勉誠出版, 2019年5月).

①「歴史学の現場からみた「資料の活用」: マカートニーは何と出会ったか」(前川修一・梨子田喬・皆川雅樹編著『歴史教育「再」入門: 歴史総合・日本史探究・世界史探究への“挑戦”』, 20~29頁, 清水書院, 2019年12月).

②『中国と東部ユーラシアの歴史』(〈佐川英治〉, 放送大学教育振興会, 2020年, 300頁, [放送大学教材]).

③「大清帝国の広域支配と移動の諸相: 征服・移駐・移住」(第69回日本西洋史学会大会, 於: 静岡大学静岡キャンパス, 2019年5月19日).

③「武人政権としての大清帝国と日本近世国家」(東京大学ヒューマニティーズセンター(HMC)第11回オープンセミナー, 於: 東京大学伊藤国際学術研究センター3階中教室, 2019年6月14日).

鈴木 恵美

①「中東レポート④エジプト: 評価定まらぬムバラク元大統領の功罪」(『外交』, Vol. 60 (Mar./Apr. 2020), 76~77頁, 外務省, 2020年3月).

鈴木 均

- ①「本格始動のイラン・チャーバハール開発：日本のコミットはなぜ必要か」(『国際開発ジャーナル』, 2019年12月号 (No. 756), 30～33頁, 国際開発ジャーナル社, 2019年12月).
- ①「ガーセム・ソレイマニー暗殺と米国・イラン関係の緊迫化」(『中東レビュー』, 第7号, 20～23頁, 日本貿易振興機構アジア経済研究所, 2020年3月, [<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mercv/list/-char/ja>]).
- ②『オーラル資料編 イラン革命と日系企業 第二冊：パース東芝および商社』(日本貿易振興機構アジア経済研究所, 2020年).
- ③「デモダナイゼーションとサイコナショナリズム再考」(日本中東学会第35回年次大会, 於：秋田大学手形キャンパス, 2019年5月12日).
- ③「近代日本とイラン・アフガニスタンの関係史から」(日本中東学会第25回公開講演会「素顔の中東・イスラーム」, 於：山口市民会館, 2019年11月17日).

鈴木 立子

- ①「元代における収継婚考」(『愛大史学：日本史学・世界史学・地理学』, 第29号, 1～24頁, 愛知大学文学部人文社会学科歴史・地理学コース, 2020年3月).

砂山 幸雄

- ①「(動向) 思想」(中国研究所編『中国年鑑2019』, 205～207頁, 明石書店, 2019年5月).
- ①「見失われた「1989年」：ポスト冷戦期中国の思想文化動向(1989–2012年)」(『思想』, no. 1146 (2019年10月号), 69～92頁, 岩波書店, 2019年9月).

妹尾 達彦

- ①「東亜都城時代」(『日本中国史研究年刊 2011年度』, 159～196頁, 上海古籍出版社, 2019年5月).
- ①「都城与葬地：隋唐長安官人居住地与埋葬地の変遷」(夏炎主編『中古中国的都市与社会：南開中古社会史工作坊系列文集1』, 89～164頁, 中西書局(上海), 2019年9月).
- ①「東アジアの複都制：6～13世紀を中心に」(妹尾達彦編『アフロ・ユー

- ラシア大陸の都市と社会』, 135～237頁, 中央大学出版部, 2020年3月).
- ② (高兵兵・郭雪妮・黄海静訳) 『隋唐長安与東亜比較都城史』 (西北大学出版社 (西安), 2019年6月, 534頁).
- ② 『アフロ・ユーラシア大陸の都市と社会』 (中央大学出版部, 2020年, 728頁).

関 智英

- ① 「汪精衛政権の憲政実施構想：日中戦争と憲政」 (『歴史学研究』, No. 982 (2019年4月号), 1～16頁, 歴史学研究会, 2019年4月).
- ① 「第7章 通史5 (日中戦争2) : 『抗戦時期的淪陷区与偽政権』 (第12巻)」 (川島真・中村元哉編著『中華民国史研究の動向：中国と日本の中国近代史理解』, 129～147頁, 晃洋書房, 2019年4月).
- ① 「対日協力者の戦後：日本亡命者盛毓度と留園」 (高綱博文・木田隆文・堀井弘一郎編『上海の戦後：人びとの模索・越境・記憶 (アジア遊学236)』, 9～22頁, 勉誠出版, 2019年8月).
- ① 「『漢奸』はいかに中華人民共和国を語ったか：韓雲階・趙毓松・胡蘭成」 (『新しい歴史学のために』, 第295号, 20～34頁, 京都民科歴史部会, 2019年10月).
- ② 『対日協力者の政治構想：日中戦争とその前後』 (名古屋大学出版会, 2019年, 616頁).

関尾 史郎

- ② 『三国志の考古学：出土資料からみた三国志と三国時代 (東方選書52)』 (東方書店, 2019年, 340頁).
- ② 『磚画・壁画からみた魏晋時代の河西』 (〈町田隆吉〉, 汲古書院, 2019年, 310頁).
- ② 『河西魏晋・〈五胡〉墓出土図像資料 (磚画・壁画) 目録』 (汲古書院, 2019年, 200頁).
- ② 『後漢・魏晋簡牘の世界』 (〈伊藤敏雄〉, 汲古書院, 2020年, 312頁).

高久 健二

- ① 「三世紀の楽浪・帯方郡と韓・倭」 (石野博信編『魏都・洛陽から倭都・邪馬台国へ：『親魏倭王』の印の旅』, 47～75頁, 雄山閣, 2019年10月).
- ① 「東アジアの中の日本を考える：朝鮮半島」 (『季刊考古学』, 150号, 129

～133頁，雄山閣，2020年2月）。

高田 時雄

- ①「京都大学総合博物館所蔵敦煌遺書簡介」（『仏教文献研究』，第3輯，23～38頁，広西師範大学出版社，2019年12月）。
- ①“Tibetan Dominion over Dunhuang and the Formation of a Tibeto-Chinese Community”，*BuddhistRoad Papers*, 6.1. (Special Issue: Ancient Central Asian Networks), pp. 88–107, Center for Religious Studies (CERES), Ruhr-Universität Bochum, 2019.

高田 幸男

- ①「王清穆『農隱廬日記』(9)」(〈王清穆研究会(代表：高田幸男)編注〉，『近代中国研究彙報』，第42号，79～130頁，(公財)東洋文庫，2020年3月)。
- ②『現代中国の歴史 第2版：兩岸三地100年のあゆみ』(〈久保亨・土田哲夫・井上久士・中村元哉〉，東京大学出版会，2019年，304頁)。
- ③「1930年代中国留日学生与明治大学」(「近代日本の亞洲認識与対華教育活動」学術研討会，於：中山大学(広州市)，2019年8月24日)。
- ③「我的近代江南研究与南大歴史系」(南京大学歴史学院講演会，於：南京大学歴史学院，2019年9月5日)。
- ③「近代中国改革中之江浙教育界」(2019年杭州文史論壇，於：浙江梅地亜賓館(杭州市)，2019年11月16日)。

高遠 拓児

- ①「明代南京の官署志と『南京刑部志』」(『東洋法制史研究会通信』，第33号，1～5頁，東洋法制史研究会，2019年8月)。
- ①「法部右侍郎沈家本と『各省留養不符冊』」(『中央大学アジア史研究』，第44号，29～56頁，白東史学会，2020年3月)。
- ①「刑部左侍郎薛允升と『各省留養不符冊』：清末の当家堂官のことば」(妹尾達彦編『アフロ・ユーラシア大陸の都市と社会』，447～474頁，中央大学出版社，2020年3月)。
- ③「法部右侍郎沈家本と『各省留養不符冊』」(2019年度白東史学会大会，於：中央大学後楽園キャンパス，2019年12月7日，[要旨：『中央大学アジア史研究』，第44号，91～92頁，2020年3月])。

高松 洋一

③「マフムト1世治下(1730-1754)の「アヤソフィヤ図書館」の設立と運営について」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所全所プロジェクト「アジア・アフリカの現代的諸問題の解決に向けた新たな連携研究体制の構築」, 於: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2019年12月12日).

③「『イラン式簿記術』とスィヤークの世界」(2019年度九州史学会大会, 於: 九州大学伊都キャンパスイースト1号館, 2019年12月15日).

高山 博

② *Sicily and the Mediterranean in the Middle Ages (Variorum Collected Studies 1076)*, 414p, New York/ Abingdon: Routledge, 2019.

③ “The Norman Court of Sicily: A Crossroads of Greek, Arabic and Latin Cultures”, Yale Lectures in Medieval Studies, Fall 2019, Yale University, USA, 30 Sept. 2019.

③ “Multilingual Documents of Medieval Sicily and Peasant Studies”, Princeton’s Comparative Diplomats Workshop, Princeton University, 23 Oct. 2019.

③ “Islamic Sicily an Introduction: Was the Norman Court of Sicily ‘the Pleasure Dwellings of the Mohammedan East’?”, The CU Mediterranean Studies Group, University of Colorado, Boulder, USA, 12 Nov. 2019, [A Lecture].

③ “Muslim Peasants in Norman Sicily: Reconsidering Established Categories”, The CU Mediterranean Studies Group, University of Colorado, Boulder, USA, 13 Nov. 2019, [A Research Talk].

瀧下 彩子

①「東洋文庫：現代に生きる「アジア文庫」」(〈岡崎礼奈・篠木由喜〉, 『書物学』, 第16巻(特集:「特殊文庫をひらく: 古典籍がつなぐ過去と未来」), 25~33頁, 勉誠出版, 2019年7月).

①「『漫画を捨てたわけじゃない』: 抗日漫画活動と葉浅予」(『連環画研究』, 第9号, 111~132頁, 北海道大学連環画研究会, 2020年3月).

武内 房司

① “Mouvements religieux populaires chinois à la fin de l’Empire et leurs interactions avec les traditions locales en Asie du Sud-Est”, *Annuaire de l’École pratique*

des hautes études (EPHE), Section des sciences religieuses, Tome 126, pp. 45–50, Paris: EPHE, Sept. 2019.

① 「“宝山奇香”考：中国的千年王国論与越南南部的民間宗教」（曹新宇主編『激辯儒教：近世中国的宗教認同』，208～222頁，中華書局（北京），2019年10月）。

竹越 孝

① “Grammatical Descriptions in Manchu Grammar Books from the Qing Dynasty”, *Histoire Epistémologie Langage*, Volume 41 / No. 1 (2019), pp. 39–55, Les Ulis, France: EDP Sciences, June 2019.

② 『『一百条』系諸本総合対照テキスト（I）』（〈スチンバト〉，好文出版，2020年，526頁）。

田島 俊雄

① 「経済所90年発展回顧和未来展望」（〈封越健・魏衆ほか〉，『経済学動態』，2019年第6期，125頁，中国社会科学院経済研究所，2019年6月，[<http://www.jjxdt.org/Admin/UploadFile/Issue/rvaatrsi.pdf>]

① 「朱紹文研究員（1915–2011年）とその時代：戦時下の日本留学と戦後の中国」（『経済志林』，第87卷第3・4合併号，269～315頁，法政大学経済学部，2020年3月，[https://hosei.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=23176]

多田 狷介

② （翻訳）老村著『騷土：文革初期、黄色い大地の農民群像』（中国書店，2019年，433頁）。

多々良 圭介

③ 「21世紀以来日本の清史研究状況」（第8届世界中国学論壇 分論壇：首届青年漢学家上海論壇「海外中国学發展的新趨勢、新特点」，於：上海國際會議中心，2019年9月10日）。

③ “A Study of Disease Control by Chinese Maritime Customs in Fujian Province”, The Fifth Biennial Conference of East Asian Environmental History (EAEH2019), National Cheng Kung University, Tainan, 26 Oct. 2019.

③ 「Medical Reports データベース化案」（研究データベース会議，於：（公

財) 東洋文庫, 2019年11月21日).

立川 武蔵

②『三人のブツダ』(春秋社, 2019年, 256頁).

田仲 一成

②『明代江南戯曲研究』(汲古書院, 2020年, 756頁, [科学研究費 研究成果公開促進費 学術図書, 課題番号: 19HP5042]).

田中 仁

①「現代中国政治の転換と中共十一期三中全会」(『阪大法学』, 第69巻第3・4号, 393~424頁, 大阪大学法学会, 2019年11月).

①「現代中国政治の転換と華国鋒: 『毛沢東選集』第五巻の資料的考察」(石川禎浩編『毛沢東に関する人文科学的研究』, 369~407頁, 京都大学人文科学研究所, 2020年2月).

①「現代中国政治における「毛沢東思想」の再定義と日中関係: 月刊誌『中国研究』に見る同時代の語り」(瀧口剛編『近現代東アジアの地域秩序と日本』, 369~402頁, 大阪大学出版会, 2020年2月).

①「華国鋒研究の概況と展望」(『史学研究』, 第305号, 317~332頁, 広島史学研究会, 2020年3月).

②*Historical Narratives of East Asia in the 21st Century: Overcoming the Politics of National Identity*, 238p, Routledge, 2020.

田中 比呂志

①「日本人の同時代中国認識: 宇治田直義を中心として」(『南山大学アジア・太平洋研究センター報』, 第14号, 31~32頁, 南山大学アジア・太平洋研究センター, 2019年6月, [南山大学アジア・太平洋研究センターワークショップ主催シンポジウム報告要旨, 於: 南山大学, 2019年2月23日]).

①「近現代中国における国家と個人・地域」(『歴史評論』, 2019年11月号(第835), 70~72頁, 歴史科学協議会, 2019年11月, [歴史科学協議会第53回大会報告要旨]).

①「華北農村訪問調査(8) 付東北農村訪問調査: 2017年9月山西省L県J鎮J村, 吉林省J市Q郷Z村, S市Y県S窩」(『東京学芸大学紀要(人文社会科学系Ⅱ)』, 第71集, 139~144頁, 東京学芸大学, 2020年1月).

①「華中農村訪問調査（Ⅰ）：2018年10月，2019年10月，湖南省」（〈古泉達矢・張晶晶・胡平江〉、『日本海域研究』，第51号，57～63頁，金沢大学環日本海域環境研究センター，2020年3月）。

③「近現代中国における国家と個人・地域」（歴史科学協議会第53回大会「変貌する国家と個人・地域」：第2日目テーマ「国家と個人・地域の歴史的諸相」，於：明治大学駿河台キャンパス，2019年12月1日）。

C. A. ダニエルズ

①“Introduction: The agency of local elites in the transformation of western Yunnan during the Ming dynasty”, 〈Jianxiong Ma〉, Christian Daniels, and Jianxiong Ma eds., *The Transformation of Yunnan in Ming China: From the Dali Kingdom to Imperial Province*, pp. 1–18, London: Routledge, Nov. 2019.

①“Upland Leaders of the Internal Frontier and Ming Governance of Western Yunnan, Fifteenth and Sixteenth Centuries”, Christian Daniels, and Jianxiong Ma eds., *The Transformation of Yunnan in Ming China: From the Dali Kingdom to Imperial Province*, pp. 137–177, London: Routledge, Nov. 2019.

①「雍正七年雲南車里宣慰司管轄山地族群及改土歸流」（『清史論叢』，2019年第2輯（総第38輯），88～117頁，中国社会科学院歴史研究所清史研究室，2019年12月）。

② *The Transformation of Yunnan in Ming China: From the Dali Kingdom to Imperial Province*, 〈Jianxiong Ma〉, 200p, London: Routledge, 2019.

地田 徹朗

①「国境紛争とはなにか」，「ソ連の形成と崩壊」，「世界のボーダースタディーズ・コミュニティ」（現代地政学事典編集委員会編『現代地政学事典』，146～147頁，364～365頁，550～551頁，丸善出版，2020年1月）。

①「カザフスタン・小アラル海地域での牧畜の特性に関する萌芽的調査：遠隔村・アクバストゥ村を中心に」（〈タルガルバイ・コススバエフ〉，今村薫編『中央アジアにおける牧畜社会の動態分析：家畜化から気候変動まで（中央アジア牧畜社会研究叢書1）』，49～62頁，名古屋学院大学総合研究所，2020年3月）。

③“The ecological crisis and resilience: the livestock robustness in Kazakhstan part of the Aral Sea region”, 〈Talgarbay Konysbaev〉, The 16th Biennial Conference of European Society for Central Asian Studies (ESCAS), University of Ex-

eter, Exeter, UK, 28 June 2019, [Paper Presented].

③ “Дальнейшие меры к устойчивому социально-экономическому развитию Аральского района”, Второй международной конференции по проблемам Аральского моря, Зоологический институт Российской Академии Наук, Санкт-Петербург, 18 Nov. 2019.

③ 「環境と地理からみる中央アジア地域研究のあり方」(日本中央アジア学会2019年度年次大会, (オンライン), 2020年3月22日).

P. ツイーム

③ “Serindia and Turfan: Notes on Editing and Cataloguing Old Uygur Texts of the Serindia Collection in Sankt Peterburg” (東洋文庫講演会, 於: (公財) 東洋文庫, 2019年11月10日).

塚原 東吾

① 「過去の災害をどう探るか? : 古気候記録の収集・分析と市民科学の試み」(『立命館生存学研究』, vol. 3 (特集: 「マイノリティ・アーカイブズの構築・研究・発信」), 17~31頁, 立命館大学生存学研究所, 2019年10月).

② (監訳) アーロン・S・モア著 『「大東亜」を建設する: 帝国日本の技術とイデオロギー』(人文書院, 2019年, 400頁, [解説は塚原と藤原辰史との共著]).

② 『アジアの気候再現: 航海日誌・モンスーン・台風をめぐる人文学と気象学のトランスサイエンス: 連続国際ワークショップ資料集(神戸STS叢書シリーズ16)』(〈松本淳・久保田尚之ほか〉, 神戸STS研究会, 2019年, 144頁).

③ ““Polycentric East Asia”: From the Perspectives of Traditional Historiography and “Science and Empires””, 15th International Conference on the History of Science in East Asia (ICHSEA 2019), Jeonbuk National University, Jeonju, Republic of Korea, 19 Aug. 2019, [Plenary Lecture, <http://ichsea2019.org/index.php>, Full text is in the Book of Abstract. pp. 5–12].

③ “Needham’s Japan, Japan’s Needham: Legacy of “Science and Civilization in China””, “Science, Technology, Health, and Society in the Context of Science Culture” sub forum of Beijing Forum 2019, Peking University, 7 Nov. 2019, [<http://www.bjf.pku.edu.cn/>, 中文題目: 「李約瑟『中国科学技术史(中国的科学与文明)』和日本科学史」].

土田 哲夫

- ①「国民外交：国民の外交関与の拡大」（岡本隆司・箱田恵子編著『ハンドブック近代中国外交史：明清交替から満洲事変まで』，180～181頁，ミネルヴァ書房，2019年4月）。
- ①書評「麻田雅文編『ソ連と東アジアの国際政治 1919-1941』」（『アジア研究』，65巻2号，36～39頁，アジア政経学会，2019年4月）。
- ②『近現代中国と世界（中央大学政策文化総合研究所研究叢書27）』（子安加余子），中央大学出版部，2020年，460頁，[執筆担当：「まえがき」，「第6章 近代中国の国民外交団体：中国国際聯盟同志会の事例」]

坪井 祐司

- ①『『カラム』からみたイスラム国家構想』（光成歩・山本博之編『『カラム』の時代 XI：マレー・イスラム世界の女性と近代』，45～53頁，京都大学東南アジア地域研究研究所，2020年）。
- ①「ラッフルズとシンガポール（1）」（『シンガポール』，284，46～51頁，日本シンガポール協会，2020年）。
- ①“The Formation of Malayness in the Urban Space of Colonial Kuala Lumpur”，Hirosue Masashi ed., *A History of the Social Integration of Visitors, Migrants, and Colonizers in Southeast Asia: Role of Local Collaborators* (TBRL21), pp. 193–210, The Toyo Bunko, 2020.
- ②『ラッフルズ：海の東南アジアの世界と「近代」（世界史リブレット人068）』（山川出版社，2019年，112頁）。
- ③“Manchuria, Palestine and Malaya from the perspective of Malay nationalists during the 1930s”，The 11th International Convention of Asia Scholars (ICAS11), Leiden, the Netherlands, 19 July 2019.

鶴間 和幸

- ①「中国古代美術の海外流出調査記（その2）」（『東方学』，第138輯，83～94頁，東方学会，2019年7月）。

鶴見 尚弘

- ①「『義勇兵』になった中学二年生：満蒙開拓団とすごした日々」（『戦争と民衆』，84号，19～23頁，戦時下の小田原地方を記録する会，2020年3月）。

[同会の要請により、古田足日・米田佐代子・西山利佳編『わたしたちのアジア・太平洋戦争2：いのちが紙切れとなった』、童心社、2004年3月の注・解説等をカットし、同社の諒解を得て転載]。

寺田 浩明

- ① 「生業の権利化の視点から」(『史苑』, 第80巻第2号, 36~42頁, 立教大学史学会, 2020年3月)。
- ③ 「比較視野下的伝統法与近代法」(「東亜法継受的歴史与課題」学術研討会, 於: 国立政治大学(台北市), 2019年5月10日)。
- ③ 「伝統中国生業論からみて」(シンポジウム「日本中世の「地下」社会: 藺部寿樹の文書論と春田直紀の生業論から考える」, 於: 立教大学, 2019年6月16日)。

戸倉 英美

- ③ 「「拒まれた女」中国古代篇: 杜伯の故事をめぐって」(六朝学術学会第23回大会, 於: 二松学舎大学, 2019年6月15日, [要旨: http://liuchao.gakkaisv.org/youshi_tai23.html])。
- ③ 「「拒まれた女」中国古代篇: 杜伯の故事をめぐって (2)」(東京大学中国語中国文学研究室同窓会, 於: 東京大学, 2019年10月19日)。

土肥 祐子

- ① 「元代の数学書に記された南海交易品: 『算学啓蒙』、『四元玉鑑』より」(『南島史学』, 第87号, 223~198頁, 南島史学会, 2019年11月, [英文題目: “On the Nanhai Trade Item Written in Mathematical Textbooks during the Yuan Period: From Suanxueqimeng (算学啓蒙) and Siyuanyujian (四元玉鑑)”])。
- ③ 「元代の数学書に記された南海交易品」(南島史学会第48回大会, 於: (公財) 東洋文庫, 2019年6月28日, [東洋文庫・南島史学会共催])。

富澤 芳亜

- ① 書評「加島潤著『社会主義体制下の上海経済: 計画経済と公有化のインパクト』」(『アジア研究』, 65巻2号, 54~57頁, アジア政経学会, 2019年4月)。
- ① 「中国の繊維産業: 技術者養成からの視点」(堀和生・萩原充編『“世界の工場”への道: 20世紀東アジアの経済発展』, 199~223頁, 京都大学学術

出版会，2019年5月）。

①「印棉運華連益会代表者の回顧：佐藤克己氏インタビュー 1981年5月14日 綿花協会（綿業会館）にて」（〈桑原哲也〉、『近代中国研究彙報』，第42号，47～78頁，（公財）東洋文庫，2020年3月）。

③「一九五〇～七〇年代の中国の綿製品輸出について：日本紡績協会の調査から見えるもの」（2019年度広島史学研究会大会東洋史部会，於：広島大学（東広島市），2019年10月27日）。

③「戦時期から計画経済期の中国における紡織技術者の養成」（社会経済史学会中国四国部会2019年度大会，於：島根県労働会館（松江市），2019年11月30日）。

中兼 和津次

①紹介“Letian Zhang, Fuqun Xi, and Yunxiang Yan eds., *Work Journals of Zhou Shengkang, 1961–1982*, Vol. 1 and 2., Leiden: Brill, 2018, xi+1392pp.”（『アジア経済』，第60巻第3号，93～94頁，日本貿易振興機構アジア経済研究所，2019年9月）。

①「毛沢東の経済学，鄧小平の経済学」（『東亜』，No. 628（2019年10月号），10～18頁，霞山会，2019年10月）。

永田 雄三

①「トルコ語のことわざ」（日本ことわざ文化学会編，時田昌瑞・山口政信監修『世界ことわざ比較辞典』，岩波書店，2020年3月）。

中塚 亮

①「地方劇における『封神演義』および聞仲像の展開」（『日本中国学会報』，第71集，121～134頁，日本中国学会，2019年10月）。

①論文評「田村容子『男旦とモダンガール：欧陽予倩《潘金蓮》の白い胸』（『野草』，第103号，160～162頁，中国文芸研究会，2019年10月）。

①「京劇はどのように二〇世紀という新しい時代に出会い，現代化を遂げたのか（書評「田村容子著『男旦（おんながた）とモダンガール：二〇世紀中国における京劇の現代化』中国文庫）」（『東方』，465号，31～35頁，東方書店，2019年11月）。

③「名古屋大学附属図書館青木文庫所蔵戯単」（「戯単，劇場と二十世紀上半葉の東亜演劇」学術研討会，於：九州大学中央図書館，2019年8月28日）。

長縄 宣博

- ① Book Review “Rebecca Ruth Gould. *Writers and Rebels: The Literature of Insurgency in the Caucasus*. New Haven: Yale University Press, 2016. 352 pp.”, *H-Nationalism*, pp. 1–4, H-Net Reviews, Aug. 2019, [<http://www.h-net.org/reviews/showrev.php?id=54323>].
- ① 「帝国の協力者か攪乱者か：ロシア帝国のタタール人の場合」(野田仁・小松久男編『近代中央ユーラシアの眺望』, 287～304頁, 山川出版社, 2019年10月).
- ① “Elusive Piety: Hajj Logistics and Local Politics in Tatarstan, Dagestan, and the Crimea”, *Religion, State & Society*, Vol. 47, No. 3, pp. 307–324, London: Routledge, 2019.
- ③ “Grazhdanskaia voina kak tsivilizatorskaia missiia: Rol’ tatarskikh politrabotnikov Krasnoi armii v Turkestane”, Mezhdunarodnyi kollokvium “Grazhdanskaia voina v Rossii: zhizn’ v epokhu sotsial’nykh eksperimentov i voennykh ispytani, 1917–1922”, European University, St. Petersburg, 12 June 2019.
- ③ “Nazad v budushchee? Puteshestvie v Zakaspiiu i Bukharu v epokhu para i pechati”, Slavic-Eurasian Research Center 2019 Winter International Symposium, “Tsars’ Regions between Literary Imaginations and Geopolitics”, Hokkaido University, 12 Dec. 2019.

中見 立夫

- ① 「石濱純太郎のめざした「東洋学」, その学術活動と収集書：モンゴル学との接点を中心に」(吾妻重二編著『東西学術研究と文化交渉：石濱純太郎没後50年記念国際シンポジウム論文集（関西大学東西学術研究所研究叢刊59）』, 171～188頁, 関西大学出版部, 2019年11月).
- ① “Some Remarks on the VIII Bogdo Jebtsundamba Khutukhtu”, *БОГД ХААН-150: ТҮҮХ, СОЁЛ, ӨВ ОЛОН УЛСЫН ЭРДЭМ ШИНЖИЛГЭЭНИЙ ХУРАЛ*, pp. 40–42, Улаанбаатар, 2019.
- ③ 「关于偽滿洲国出版的布特哈人烏爾恭博的写满漢合璧《薩瑪論》」(吉林師範大学第二次国際満学学術研討会, 於：吉林師範大学長春校区職培楼, 2019年9月5日～8日, [発表要旨：『吉林師範大学第二次国際満学学術研討会論文集』, 188～189頁, 中国・長春, 2019年9月]).
- ③ “Some Remarks on the VIII Bogdo Jebtsundamba Khutukhtu”, International

Conference on “The BOGDO KHAAN-150: History, Culture and Heritage,” under the patronage of the President of Mongolia KHALTMAA BATTULGA, Ulaanbaatar: ”Commander D. SUKHBAATAR” Hall, State Palace, 11 Oct. 2019.

中村 元哉

- ②『中華民国史研究の動向：中国と日本の中国近代史理解』（川島真），晃洋書房，2019年，440頁）。
- ③「国立国会図書館関西館上海新華書店旧蔵書コレクション」（国立国会図書館関西館研究会，於：国立国会図書館関西館，2020年1月10日）。

西 英昭

- ①「中華民国北洋政府期法院訴訟記録について」（『東洋学報』，第101巻第2号，35～36頁，（公財）東洋文庫，2019年9月，[2019年度前期東洋学講座講演要旨]）。
- ①「中華民国初期における中国法制史学展開過程の一断面：教科書の分析を中心に」（『法政研究』，第86巻2号，266～211頁，九州大学法政学会，2019年10月）。
- ①「中華民国北洋政府期の“法理学者”李忻とその三部作」（『法政研究』，第86巻3号，125～147頁，九州大学法政学会，2019年12月）。
- ①「台北における図書館・文献検索情報：入門編・四訂版」（松本卓朗），『法史学研究会会報』，第23号，217～239頁，法史学研究会，2020年3月）。
- ③「中華民国北洋政府期法院訴訟記録について」（（公財）東洋文庫2019年度前期東洋学講座，於：（公財）東洋文庫，2019年7月5日）。

野田 仁

- ① “Development of Central Eurasian Studies in Japan during 2000–2015”, *Asian Research Trends New Series*, No. 14, pp. 31–53, The Toyo Bunko, 2019.
- ②『近代中央ユーラシアの眺望』（小松久男），山川出版社，2019年，320頁）。
- ③ “Various “khans” in an Empire: Difference in the attitudes of the Qing Empire to Torghuts and Kazakhs in the 2nd half of 18C”, The 16th Biennial Conference of the European Society for Central Asian Studies, Exeter, UK, 27 June 2019.
- ③ “Languages for Diplomacy in the Qing Empire: Its relations with Russia regarding Xinjiang”（グローバルな視点でみるユーラシア大陸：第5回清朝と

内陸アジア国際学術研究会，於：京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター羽田記念館，2019年8月4日）。

馬場 英子

③「泰順（中国浙江省温州市）木偶戯「娘娘伝」の陳十四」（比較民俗学会韓日共同学術会議，於：韓国国立民俗博物館，2019年8月23日，[要旨：韓日共同学術会議編『アジアの女神信仰』，103～116頁，（韓国）中央大学韓国文化遺産研究所，2019年]）。

濱本 真実

①「越境者の記録から見る18世紀末～19世紀前半のロシア・新疆貿易」（『西南アジア研究』，No. 89，58～86頁，西南アジア研究会，2019年9月）。

①「第9章 タタール商人の新疆進出」（野田仁・小松久男編『近代中央ユーラシアの眺望』，208～227頁，山川出版社，2019年10月）。

林 俊雄

①「草原考古学とは何か：その現状と課題」（草原考古研究会編『ユーラシアの大草原を掘る：草原考古学への道標（アジア遊学238）』，7～35頁，勉誠出版，2019年9月）。

①「中国史料から見た匈奴の城塞と農耕」（『金大考古』，第77号，102～106頁，金沢大学考古学研究室，2019年12月）。

①「ユーラシア草原の大型墳墓：草原の古墳時代」（国立歴史民俗博物館・松木武彦・福永伸哉・佐々木憲一編『日本の古墳はなぜ巨大なのか：古代モニュメントの比較考古学』，20～53頁，吉川弘文館，2020年2月）。

①「中央アジアにおける土着信仰の復権と大国の思惑：考古学の視点から」（松原正毅編『中央アジアの歴史と現在：草原の叢智（アジア遊学243）』，70～93頁，勉誠出版，2020年2月）。

平勢 隆郎

①「平勢隆郎春秋戦国『年表』与其後出土的文献」（『東洋文化研究所紀要』，第176冊，164～184頁，東京大学東洋文化研究所，2020年2月，[中国語]）。

①「松丸道雄「殷墟卜辞之中的田獵地：商代国家結構研究序章」对後代研究的影響」（『東洋文化研究所紀要』，第176冊，186～192頁，東京大学東洋

文化研究所, 2020年2月, [中国語]).

①「平勢隆郎教授 略歴・著作目録」(『東洋文化研究所紀要』, 第177冊, 3~17頁, 東京大学東洋文化研究所, 2020年3月, [英文題目: “A List of Works by Prof. HIRASE Takao, and His Brief Personal Record”]).

①「東方文化学院(東京研究所)旧蔵戦国貨幣の金相学的再検討」(〈飯塚義之・王宇祥・鈴木舞〉, 『東洋文化研究所紀要』, 第177冊, 92~176頁, 東京大学東洋文化研究所, 2020年3月, [英文題目: “Metallurgical Re-investigation of Ancient Chinese Coins in the Collection of Tokyo Institute for Oriental Culture, now in University of Tokyo”, by IIZUKA Yoshiyuki, HIRASE Takao, WANG Yu-shiang, SUZUKI Mai]).

平野 健一郎

①インタビュー「満洲研究から国際文化関係論へ: 平野健一郎氏訪談録(上)(中)(下)」(〈聞き手: 関智英・村田雄二郎〉, 『中国研究月報』, 第73巻7号, 8号, 9号(857号, 858号, 859号), 14~28頁, 18~34頁, 17~29頁, 中国研究所, 2019年7月, 8月, 9月).

①解題“On the Toyo Bunko Version of *The First Voyage of the English to the Islands of Japan* by John Saris, 1617: An Annotation Attached to the Photocopy of the Book, published for Toyo Bunko by Bensei Shuppan Publishers, Tokyo, 2016” (『東洋文庫書報』, 第51号, 1~25頁, (公財)東洋文庫, 2020年3月).

平野 聡

①「グローバリズムと「中国化」: 新疆ウイグル自治区の危機から考える」(『政治思想研究』, 第19号, 37~62頁, 政治思想学会, 2019年5月).

①「「天下」の残影: 「東アジア」における近代の苦難」(『アステイオン』, 90号(特集: 「国家の再定義: 立憲制130年」), 42~54頁, サントリー文化財団, 2019年5月).

①「(動向・政治) 民族問題」(中国研究所編『中国年鑑2019』, 83~86頁, 明石書店, 2019年5月).

①「韓国の「扱い方」は清朝を手本とせよ: 四百年前の「丙子胡乱」が教えてくれる隣国への現実的対処」(『Voice』, 2019年7月号(通巻499号), 195~201頁, PHP 研究所, 2019年7月).

①「香港で第2の六四天安門事件は起こるか(上)(中)(下)」(『国基研らんだん(国家基本問題研究所公式ホームページ)』, 国家基本問題研究所, 2019

年8月19日, [(上) <https://jinf.jp/feedback/archives/26836>, (中) <https://jinf.jp/feedback/archives/26841>, (下) <https://jinf.jp/feedback/archives/26846>].

弘末 雅士

- ①書評「重松伸司著『マラッカ海峡物語：ペナン島に見る民族共生の歴史』(『なじま』, No. 10, 20頁, 立教大学アジア地域研究所, 2020年3月).
- ①追悼文「山本春樹先生のインドネシア研究とその時代：先生を偲んで」(『南方文化』, 第46輯, 53～58頁, 天理南方文化研究会, 2020年3月).
- ② *A History of the Social Integration of Visitors, Migrants, and Colonizers in Southeast Asia: Role of Local Collaborators* (TBRL21), 232p, The Toyo Bunko, 2020.
- ③コメント(島田竜登「『長期の18世紀』と海域アジア：港市と農村の社会変化」(東方学会令和元年度秋季学術大会, 於：日本教育会館, 2019年11月9日).
- ③「東インド文学とインドネシア民族主義」(公開シンポジウム「アジアの海を渡る人々：18・19世紀の渡海者」, 於：立教大学池袋キャンパス, 2020年2月2日, [科学研究費補助金 基盤研究(A)「渡海者のアイデンティティと領域国家：21世紀海域学の史的展開」, 課題番号：17H00931, 研究代表者：上田信]).

深沢 眞二

- ①「宗因独吟「関は名のみ」百韻注釈」(〈深沢了子〉, 『上方文藝研究』, 16, 1～38頁, 上方文藝研究会, 2019年6月).
- ①「『おくのほそ道』発端考」(『連歌俳諧研究』, 137, 15～29頁, 俳文学会, 2019年9月).
- ①「『風流の』歌仙注釈(下)」(『表現学部紀要』, No. 20, 112～101頁, 和光大学表現学部, 2020年3月).

藤井 省三

- ①(翻訳) 胡波著「象は静かに座っている」(『新潮』, 2019年12月号, 311～320頁, 新潮社, 2019年11月).
- ②(翻訳) 林敏潔著『蕭紅評伝：空青く水清きところで眠りたい』(〈林敏潔〉, 東方書店, 2019年, 320頁).

藤本 幸夫

①「河合文庫概観」(『民族文化研究』, 第83号, 158~170頁, (韓国)高麗大学校民族文化研究院, 2019年5月, [英文題目:“An Overview of Kawai Library”]).

①「朝鮮読書人と書籍入手」(『立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要』, 第13号, 1~18頁, 立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所, 2020年3月, [英文題目:“Readers in Korea: How they Gained Access to Books”]).

古田 和子

②『都市から学ぶアジア経済史』(慶應義塾大学東アジア研究所, 2019年, 456頁).

古屋 昭弘

②『デイリーコンサイス中日・日中辞典 第3版 プレミアム版』(〈杉本達夫・牧田英二〉, 三省堂, 2019年, 1568頁).

弁納 才一

①「華中農村訪問調査報告(2):2018年10月, 湖南省の農村」(『中国研究論叢』, 第19号, 67~80頁, 霞山会, 2019年11月).

①「華東農村訪問調査報告(13):2018年5月・10月, 江蘇省の農村」(『金沢大学経済論集』, 第40巻第1号, 55~72頁, 金沢大学経済学経営学系, 2019年12月).

①「華北農村訪問調査報告(15):2019年9月, 山西省の農村」(『金沢大学経済論集』, 第40巻第2号, 125~154頁, 金沢大学経済学経営学系, 2020年3月).

①「日中全面戦争時期における山東省2ヶ村の経済発展に関する分析:済南市南権府荘と安邱県岬山荘を例として」(『日本海域研究』, 第51号, 19~38頁, 金沢大学環日本海域環境研究センター, 2020年3月).

②『近代中国の食糧事情:食糧の生産・流通・消費と農村経済』(丸善出版, 2019年, 248頁).

寶劍 久俊

①“An Analysis on the Inverse Relationship between Yield and Farm Size in Rural China in the 1930s”, 〈Qun Su〉, Hao Hu, Funing Zhong, and Calum Turvey eds.,

Chinese Agriculture in the 1930s: Investigations into John Lossing Buck's Rediscovered 'Land Utilization in China' Microdata, pp. 171–191, Cham: Palgrave Macmillan, 2019.

① “Public Policy and Long-Term Trends in Inequality in Rural China”, 〈Hiroshi Sato〉, Terry Sicular, Shi Li, Ximing Yue, and Hiroshi Sato eds., *Changing Trends in China's Inequality: Evidence, Analysis, and Prospects*, pp. 169–200, New York: Oxford University Press, 2020.

堀井 聡江

① 「初期イスラーム法学における12イマーム派とスンナ派の学說的相関性：契約締結の場の選択権を中心に」(『オリエント』, 第62巻第2号, 111～121頁, 日本オリエント学会, 2020年3月).

② 『オスマン民法典(メジェッレ)の研究：質編・預託物編』(〈大河原知樹・シャリーアと近代研究会〉, 東北大学大学院国際文化研究科大河原研究室, 2020年3月, iii+47頁).

牧野 元紀

① “Native Priests in Christian Societies in the Northern Regions of Pre-Colonial Vietnam: The Appearance of a Glocal Elite?”, Hirose Masashi ed., *A History of the Social Integration of Visitors, Migrants, and Colonizers in Southeast Asia: Role of Local Collaborators* (TBRL21), pp. 35–73, The Toyo Bunko, 2020.

③ 「近世ベトナムにおけるキリシタンの受容と弾圧」(シンポジウム「近世東アジアにおけるキリシタンの受容と弾圧」, 於：早稲田大学早稲田キャンパス, 2019年6月22日, [主催：キリシタン科研(科学研究費助成事業 科学研究費補助金 基盤研究(B) 一般, 課題番号：17H02392, 「近世日本のキリシタンと異文化交流」)・マレガプロジェクト(人間文化研究機構国文学研究資料館・東京大学史料編纂所・大分県立先哲史料館)]).

松井 太

① “Turfan bölgesindeki Eski Uygur yer adları”, *Türk Dünyası Dil ve Edebiyat Dergisi*, Sayı 47, pp. 149–175, Ankara: Türk Dil Kurumu, Spring 2019.

① 「敦煌石窟中回鶻文題記割記(二)」(『吐魯番学研究』, 2019年第1期, 117～127頁, 新疆吐魯番学研究院, 2019年6月).

① “Oni ‘Decury’ in the Old Uigur Administrative Orders”, *Türk Dilleri Araştır-*

malaria, Vol. 24, No. 1 [2014], pp. 209–224, İstanbul: Mehmet ÖLMEZ, Summer 2019.

①「宮紀子『モンゴル時代の「知」の東西』を読む」(『内陸アジア言語の研究』, 34, 61～84頁, 中央ユーラシア学研究会, 2019年9月).

③“Religious Interactions among the Turkic Uigurs as Seen in the Dunhuang Wall Inscriptions”, HeKKSaGON German-Japanese Conference, Working Group 3: Humanities and Social Sciences “on Transcultural Encounters”, Heidelberg University, Germany, 12 Sept. 2019.

松重 充浩

①「荒木貞夫の口述記録：「シベリア出兵」について」(〈兎内勇津流〉, 『近代中国研究彙報』, 第42号, 1～46頁, (公財)東洋文庫, 2020年3月, [校註部分担当, 27～38頁]).

③「満洲事変之前在大連の日本人社会对蒙古的認識：以大連刊行的日語媒体为中心」(中央研究院近代史研究所學術演講, 於：中央研究院近代史研究所研究大樓一樓會議室, 2019年9月19日).

松永 泰行

①「上からの宗派主義化への抵抗：シーア派宗教国家下におけるクルド系国民とサラフィー主義」(酒井啓子編『現代中東の宗派問題：政治対立の「宗派化」と「新冷戦」』, 227～244頁, 晃洋書房, 2019年4月, [担当部分：第9章]).

松村 史紀

①「強制と自主独立の間：日本共産党「軍事方針」をめぐる国際環境(1949–55)(2)」(『宇都宮大学国際学部研究論集』, 第48号, 103～124頁, 宇都宮大学国際学部, 2019年9月).

①「強制と自主独立の間：日本共産党「軍事方針」をめぐる国際環境(1949–55)(3)」(『宇都宮大学国際学部研究論集』, 第49号, 139～160頁, 宇都宮大学国際学部, 2020年2月).

③「中ソ分業体制の蹉跎(1950年代)：中国の核開発を中心に」(日本国際政治学会2019年度研究大会・分科会 D-3ロシア・東欧, 於：新潟コンベンションセンター, 2019年10月20日).

松本 弘

- ①「イエメンの内戦と宗派」(酒井啓子編『現代中東の宗派問題：政治対立の「宗派化」と「新冷戦」』, 205～226頁, 晃洋書房, 2019年4月)。
- ①「近代アラブにおける選挙の導入」(『歴史と地理：世界史の研究』, 259号, 48～51頁, 山川出版社, 2019年5月)。

丸川 知雄

- ①「イノベーションの首都 深圳：20世紀末～21世紀初頭」(古田和子編著『都市から学ぶアジア経済史』, 379～411頁, 慶應義塾大学出版会, 2019年5月)。
- ①「危機の元凶は中国か? : マグロ, レアアース, サンマの資源危機」(東大社研・玄田有史・飯田高編『危機対応の社会科学 上: 想定外を超えて』, 91～113頁, 東京大学出版会, 2019年11月)。
- ①「アメリカの中国ハイテク産業叩きが無益な理由」(『東亜』, No. 630 (2019年12月号), 20～28頁, 霞山会, 2019年12月)。
- ①「中国の産業政策の展開と「中国製造2025」」, 第57巻第1号, 53～66頁, 比較経済体制学会, 2020年1月)。
- ②(翻訳) 蔡昉著『現代中国経済入門：人口ボーナスから改革ボーナスへ』(〈伊藤亜聖・藤井大輔・三竝康平〉, 東京大学出版会, 2019年, 288頁)。

三浦 徹

- ② *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries: Part II* (TBRL22), 〈SATO Kentaro〉, x+297p, The Toyo Bunko, 2020.

水野 善文

- ②『「南アジア多言語社会における複合文化のなかの文学伝承」科研費研究成果報告書(暫定版)』(〈私家版〉, 2020年, 295+26頁, [科学研究費補助金 基盤研究(B)「南アジア多言語社会における複合文化のなかの文学伝承」, 課題番号: 16H03410, 研究代表者: 水野善文])。

三田 昌彦

- ① “The Formats of Grant Charters and the Stratified Royalty under the Pratihara Rule”, O. Bopparachchi, and S. Ghosh eds., *Early Indian History and Beyond: Essays in Honour of Professor B. D. Chattopadhyaya*, pp. 135–154, Delhi: Primus

Books, 2019.

- ③「書評：小茄子川歩「南アジアにおける都市と農村の起源・性格：環境多様性・地政学的条件にもとづいた集住と社会のあり方」」（2019年度 KINDAS 研究グループ1-A「南アジアの長期発展径路」第1回研究会，於：京都大学，2019年7月7日）。
- ③「南アジアの長期的発展経路に関する覚書」（2019年度 KINDAS 研究グループ1-A「南アジアの長期発展径路」第3回研究会，於：名古屋大学，2020年2月16日）。
- ③「南アジアの長期的発展経路について：前6世紀～後15世紀」（2019年度 KINDAS 研究グループ1-A「南アジアの長期発展径路」第6回研究会，於：京都大学，2020年3月26日）。

三谷 博

- ①“Japan’s Meiji Revolution in Global History: Searching for Some Generalizations out of History”, *Asian Review of World Histories*, Volume 8: Issue 1 (Special Issue: A View from the East, edited by Shigeru Akita), pp.41–57, Leiden: Brill, Feb. 2020, [https://brill.com/view/journals/arwh/8/1/article-p41_4.xml].
- ①『『公議』運動における福井の役割：横井小楠を通じて』（『福井県文書館研究紀要』，第17号，1～17頁，福井県文書館，2020年3月）。
- ②『響き合う東アジア史』（張翔・朴薫），東京大学出版会，2019年，440頁）。
- ②『日本史のなかの「普遍」：比較から考える「明治維新」』（東京大学出版会，2020年，392頁）。
- ②『日本史からの問い：比較革命史への道』（白水社，2020年，252頁）。

峰 毅

- ①「中国の化学工業の発展：肥料工業を事例に」（堀和生・萩原充編『“世界の工場”への道：20世紀東アジアの経済発展』，京都大学学術出版会，2019年5月）。
- ①記録「講演録 21世紀中盤に向けてのアメリカ・中国と日本：五百箇頭眞神戸大学名誉教授講演」（『中国研究月報』，第74巻2号（864号），16～27頁，中国研究所，2020年2月）。
- ③“A historical analysis of the coal liquefaction technology development in China”, the 12th International Conference on the History of Chemistry (ICHC12),

Maastricht, the Netherlands, 30 July 2019.

③「中国の石炭液化技術開発の歴史」(中国経済経営学会2019年度全国大会, 於: 愛知大学名古屋キャンパス, 2019年11月17日).

宮崎 展昌

- ①「チベット語大蔵経データベースの利用および本邦に伝存する漢語大蔵経とその調査の重要性と可能性」(下田正弘・永崎研宣編『デジタル学術空間の作り方: 仏教学から提起する次世代人文学のモデル』, 225~251頁, 文学通信, 2019年11月).
- ①「蔵訳『阿闍世王経』第I章前半部分訳注研究」(『仏教学セミナー』, 第110号, 118~93頁, 大谷大学仏教学会, 2019年12月).
- ①「蔵訳『阿闍世王経』第III章後半部分訳注研究」(『大谷学報』, 第99巻第1号, 37~63頁, 大谷学会, 2019年).
- ①「蔵訳『阿闍世王経』第I章後半部分訳注研究」(『真宗総合研究所研究紀要』, 37号, 154~174頁, 大谷大学真宗総合研究所, 2020年3月).
- ②『大蔵経の歴史: 成り立ちと伝承』(方丈堂出版, 2019年, 304頁).

宮脇 淳子

- ②『世界史のなかの蒙古襲来: モンゴルから見た高麗と日本』(扶桑社, 2019年, iv+271頁).
- ②『中国・韓国の正体: 異民族がつくった歴史の真実 (WAC BUNKO: B-293)』(WAC, 2019年, 216頁).
- ②『皇帝たちの中国史』(徳間書店, 2019年, 335頁).
- ③“Tibetan Buddhism and Nomadic Mongolian Regimes”, the 62nd Annual Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Friedensau, Germany, 20 Aug. 2019.
- ③「昭和12年のモンゴルと徳王」(昭和12年学会第2回研究発表大会, 於: ベルサール神保町, 2019年11月10日).

村井 章介

- ①「古琉球における「女」の領域」(『立正大学人文科学研究所年報』, 別冊第20号, 1~17頁, 立正大学人文科学研究所, 2019年7月).
- ③「種子島から見た中世日本, そして世界」(2019年度東京学芸大学史学会大会, 於: 東京学芸大学, 2019年5月12日).

- ③「15世紀，三浦を通した共存」（2019年韓日国際学術大会兼北島万次先生を偲ぶ会，於：Kensington Hotel Yeouido Seoul, 2019年10月18日）.
- ③「近世初頭，対馬・朝鮮間の《境界文書》群：『江雲隨筆』の魅力を語る」（朝鮮史研究会第56回大会，於：中央大学多摩キャンパス，2019年10月19日）.
- ③「商人の如き所存：南北朝内乱の理念と現実」（愛知学院大学学術講演会，於：愛知学院大学，2019年11月28日）.

村上 衛

- ①書評「篠崎香織『プラナカンの誕生：海峡植民地ペナンの華人と政治参加』」（『東南アジア：歴史と文化』，第48号，117～121頁，東南アジア学会，2019年5月）.
- ①書評「梶谷懐『中国経済講義：統計の信頼性から成長のゆくえまで』」（『現代中国研究』，第43号，89～95頁，中国現代史研究会，2019年7月）.
- ①書評「小川道大著『帝国後のインド：近世的発展のなかの植民地化』」（『史林』，第102巻第6号，86～92頁，史学研究会，2019年11月）.
- ①「洋銀と紋銀：開港直後の廈門における海関銀号問題を中心に」（『東方学報』，第94冊，422～399頁，京都大学人文科学研究所，2019年12月）.
- ①「大躍進と日本人「知中派」：論壇における訪中者・中国研究者」（石川禎浩編『毛沢東に関する人文学的研究』，215～248頁，京都大学人文科学研究所，2020年2月）.

村田 雄二郎

- ①インタビュー「満洲研究から国際文化関係論へ：平野健一郎氏訪談録（上）（中）（下）」（〈関智英〉，『中国研究月報』，第73巻7号，8号，9号（857号，858号，859号），14～28頁，18～34頁，17～29頁，中国研究所，2019年7月，8月，9月）.
- ①「1949年の選択：知識人と中国革命」（『研究中国』，第9号，13～21頁，日本中国友好協会『研究中国』刊行委員会，2019年10月）.
- ③「梁啓超的陰影：対近代中国歴史叙述的一些反思」（国際ワークショップ「中国の文学革命と19-20世紀世界」，於：京都大学，2019年11月16日）.
- ③「陳独秀の言語と革命」（五四運動百周年記念シンポジウム，於：（公財）東洋文庫，2019年11月24日，[主催：中国研究所]）.

毛里 和子

- ① 「一党支配は歴史的使命を終えるのか：建国70年に思う」（『中国研究月報』、第74巻1号（863号）、3～13頁、中国研究所、2020年1月、[2019年度現代中国公開講座「中華人民共和国70年と今後の展望」報告要旨、於：（公財）東洋文庫、2019年11月8日]）。
- ② 「外から見た中国へのアプローチ」（福岡ユネスコ・アジア文化講演会「対外関係から見た中国」、於：エルガーラホール（福岡市）、2019年12月1日）。
- ③ 「論日本の当代中国研究」（「北京大学趙宝煦學術基金」系列講座第十七期、於：北京大学政府管理学院、2019年12月6日、[主催：北京大学政府管理学院・中国政府治理研究中心、要旨：「日本当代中国学研究の新範式」、『中央社会主義学院学報』、2020年第2期、5～10頁、中央社会主義学院、2020年5月、中国語]）。
- ④ 「一個日本研究者の当代中国外交論」（北京大学国際関係学院日本研究中心講演会、北京大学国際関係学院日本研究中心、2019年12月7日、[中国語]）。

本野 英一

- ① 書評「篠永宣孝『中国興業銀行の崩壊と再建：第一次世界大戦後フランスの政治・経済・金融的対抗』（『中国研究月報』、第73巻7号（857号）、29～30頁、中国研究所、2019年7月）。

榎山 明

- ① 「辺境に立つ公文書：四川昭覚県出土《光和四年石表》試探」（角谷常子編『古代東アジアの文字文化と社会』、154～174頁、臨川書店、2019年4月）。
- ② 書評「永田英正著『漢代史研究』（『東洋史研究』、第78巻第2号、158～171頁、東洋史研究会、2019年9月）。
- ③ 書評「もうひとつの三国志：関尾史郎著『三国志の考古学：出土資料からみた三国志と三国時代』（『東方』、464号、34～38頁、東方書店、2019年10月）。

守川 知子

- ① “The Study of West Asian History in Japan: A Historical Review and Recent

Developments”, *ACTA ASIATICA: Bulletin of the Institute of Eastern Culture*, No. 117, pp. 63–74, The Toho Gakkai, Aug. 2019.

①「近世イランの王都の中のキャラバンサライ：『イスファハーンのキャラバンサライ案内』を中心に」（山田重郎編『科研費新学術領域研究 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究 2 研究成果報告2019年度』, 207～221頁, 筑波大学人文社会系西アジア文明研究センター, 2020年3月, [科学研究費補助金 新学術領域研究（研究領域提案型）「都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究」, 課題番号：5001, 研究代表者：山田重郎]）.

③ “Intermediary Agents Between Europe and Iran: Armenian Merchants in the 17th Century”, International Conference on Safavid Studies: Cultural Relations of Iran and Europe in the Safavid Era, University of Isfahan, 28 Apr. 2019.

③ “Abgar Valijanian and his Life as a Jadīd al-Islām: A Shi’ite Armenian in the Late Seventeenth Century”, Ninth European Conference of Iranian Studies (ECIS 9), Freie Universität Berlin, 9 Sept. 2019.

③「シーア派イスラーム社会のイマーム崇敬と聖廟巡礼」（スペイン史学会第41回大会, 於：慶應義塾大学日吉キャンパス, 2019年11月2日）.

森平 雅彦

③「朝鮮時代の内水面魚梁：前・中期の慶尚道を中心に」（2019年度九州史学会大会, 於：九州大学伊都キャンパス, 2019年12月15日）.

森安 孝夫

①「カラバルガスン碑文漢文版の新校訂と訳註」（〈吉田豊〉, 『内陸アジア言語の研究』, 34, 1～59頁, 中央ユーラシア学研究会, 2019年9月）.

② *Corpus of the Old Uighur Letters from the Eastern Silk Road* (Berliner Turfan-texte 46), 287p+17pls, Turnhout (Belgium): Brepols, 2019.

③「トルコ民族とキリスト教」（2019年度シルクロード学研究会, 於：帝京大学文化財研究所（笛吹市）, 2020年1月26日）.

矢島 洋一

①書評「大塚修著『普遍史の変貌：ペルシア語文化圏における形成と展開』（『オリエント』, 第62巻第1号, 50～55頁, 日本オリエント学会, 2019年9月）.

- ① 「至正九年高麗人ラマダーン墓碑銘」(〈青木隆〉, 『中国語中国文化』, 第17号, 283～293頁, 日本大学文学部中国語中国文化学科, 2020年3月).
- ① 「アリー・ベイの手紙」(西谷地晴美・西村さとみ編『大和・紀伊半島へのいざない(奈良女子大学叢書5)』, 259～276頁, 敬文舎, 2020年3月).
- ③ “Diplomatic Correspondence between the Mamluks and the Mongols”, Sixth Conference of the School of Mamlūk Studies, Waseda University, 16 June 2019.
- ③ 「ヒヅァのテュルク語ファトワー文書」(第18回中央アジア古文書研究セミナー, 於: 京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター羽田記念館, 2020年3月8日).

柳澤 明

- ① 「露清関係: 「隣国」関係の形成と構造」(箱田恵子・岡本隆司編著『ハンドブック近代中国外交史: 明清交替から満洲事変まで』, 20～25頁, ミネルヴァ書房, 2019年4月).
- ① “Qing ‘Government Caravans’ in Kiyakhta: The Activities of Bederge Muslims”, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, No. 77, pp. 1–37, The Toyo Bunko, 2019, [ただし, 本論文の内容は, 日本語既発表論文に部分的に増補・改訂を加えたもの].
- ③ 「「内旗」と「外旗」の境界を越えて: 黒龍江の事例から」(東北大学東北アジア研究センター研究会「清帝国におけるモビリティ再考: モンゴルの場合」, 於: 東北大学川内北キャンパス, 2019年7月21日).
- ③ 「十八世紀黒龍江地区中俄貿易之変遷」(吉林師範大学第二次国際満学術学術研究会, 於: 吉林師範大学長春校区, 2019年9月7日).
- ③ 「清代八旗与内属蒙古」(13–20世紀中央欧亚歴史与文化国際学術研究会, 於: 中央民族大学歴史文化学院, 2019年11月23日).

柳谷 あゆみ

- ② (翻訳) サマル・ヤズバク著『無の国の門: 引き裂かれた祖国シリアへの旅』(白水社, 2020年, 294頁, [Bawwabāt ard al-adm の全訳と注記・解説]).
- ③ 「ザンギー朝・アイユーブ朝の成立と抗争: 自己認識と承認要請」(科研基盤(A)「前近代ユーラシア世界における広域諸帝国の総合的研究: 移動する軍事力と政治社会」2019年度第1回研究会, 於: 東京大学, 2019年7月7日, [科学研究費補助金 基盤研究(A)「前近代ユーラシア世界にお

る広域諸帝国の総合的研究：移動する軍事力と政治社会」, 課題番号：19H00535, 研究代表者：杉山清彦)。

②「12世紀イラク以西の政権におけるヒドゥマ：地域性と限界をめぐる」(科学研究費補助金 基盤研究 (A)「前近代ユーラシア世界における広域諸帝国の総合的研究：移動する軍事力と政治社会」2019年度第2回研究会, 於：神戸大学, 2019年12月21日～22日, [科学研究費補助金 基盤研究 (A)「前近代ユーラシア世界における広域諸帝国の総合的研究：移動する軍事力と政治社会」, 課題番号：19H00535, 研究代表者：杉山清彦])。

③「存在と無, 生と死, そして私：サマル・ヤズバク著『無の国の門』」(中東現代文学研究会1月定例研究会(通算第23回例会), 於：京都大学吉田南キャンパス, 2020年1月11日)。

④「カーディー・アルファーデイルの書簡群：その特色と用途」(第26回イスラーム初期史研究会, 2020年3月26日)。

矢吹 晋

①「5G量子覇権：米中冷戦のゆくえ」(21世紀中国総研編『中国情報ハンドブック 2019年版』, 57～95頁, 蒼蒼社, 2019年7月)。

②「周回り遅れの日本5G報道」(『善隣』, No. 507(通巻774), 18～26頁, 国際善隣協会, 2019年9月)。

③「湛山老と大原万平さんの「四つの対話」を読む」(『自由思想』, 155号, 43～50頁, 石橋湛山記念財団, 2019年12月)。

④「新全体主義と「逆立ち全体主義」との狭間で」(石井知章・及川淳子編『六四と一九八九：習近平帝国とどう向き合うのか』, 243～280頁, 白水社, 2019年12月)。

⑤「天皇制と朝河貫一：諸国民の相互理解と和解のために歴史を書く」(朝河貫一学術協会第7回研究会, 於：早稲田大学, 2020年1月11日, [<http://www25.big.or.jp/~yabuki/2020/2020.1.11.%E6%97%A9%E5%A4%A7%E6%9C%9D%E6%B2%B3.%E5%A4%A9%E7%9A%87%E5%88%B6%E3%81%A8.%E6%9C%9D%E6%B2%B3%E5%8F%B2%E5%AD%A6.pdf>])。

山内 民博

①「19世紀末葉朝鮮北東部地域の社会秩序：咸鏡道洪原県の儒士・武士・富民」(『環日本海研究年報』, 第25号, 32～47頁, 新潟大学大学院現代社会文化研究科環日本海研究室, 2020年3月)。

山口 元樹

- ① “Pribumi-Arab Relations in the Indies Al-Islam Congresses: Division and Integration in the Indonesian Islamic Movement”, Hirose Masashi ed., *A History of the Social Integration of Visitors, Migrants, and Colonizers in Southeast Asia: Role of Local Collaborators* (TBRL21), pp. 165–191, The Toyo Bunko, 2020.
- ② 「イスラームの文字・マレーの文字：国民国家独立期インドネシアにおけるジャウィ復活論とマラヤ」（東南アジア学会第261回中部例会，於：愛知県立大学，2020年1月11日）。
- ③ 「オランダ植民地期インドネシアからのエジプト留学：知の獲得とイスラーム運動とのネットワーク」（シンポジウム「アジアの海を渡る人々：18・19世紀の渡海者」，於：立教大学池袋キャンパス，2020年2月2日）。

山本 英史

- ① 「陋俗改革：以近代中国溺女問題为中心」（『南開史学』，2019年1期（総27期），129～148頁，南開大学出版社（天津），2019年6月）。
- ① 「中国歴史公文書読解入門：『中国近世法制史料読解ハンドブック』出版に寄せて」（『東洋学報』，第101巻第2号，31～32頁，（公財）東洋文庫，2019年9月，[2019年度前期東洋学講座講演要旨]）。
- ① 「北京老字号飲食店の興亡：全聚徳を例にして」（岩間一弘編著『中国料理と近現代日本：食と嗜好の文化交流史』，339～355頁，慶應義塾大学出版会，2019年12月）。
- ③ 「中国歴史公文書読解入門：『中国近世法制史料読解ハンドブック』出版に寄せて」（（公財）東洋文庫2019年度前期東洋学講座，於：（公財）東洋文庫，2019年6月10日）。
- ③ 「溺女与教誨：以中日両国の殺嬰対策为中心」（紀念鄭天挺先生誕辰120周年暨第五届明清史國際學術討論会，於：南開大学歴史学院（天津市），2019年9月10日）。

山本 真

- ① 「福建省興化地域社会と結社，キリスト教，阿片：民国初期の黄濂の乱に着目して」（『東洋史研究』，第78巻第1号，105～146頁，東洋史研究会，2019年6月）。

湯浅 剛

- ①「ユーラシアに向けた中国のアプローチ：その地政学的背景とポスト・ソ連諸国の対処」（『国際安全保障』，第47巻第1号，15～31頁，国際安全保障学会，2019年6月）。
- ①「クリミア併合とヨーロッパ安全保障」（広瀬佳一編『現代ヨーロッパの安全保障：ポスト2014：パワーバランスの構図を読む』，97～118頁，ミネルヴァ書房，2019年11月）。

吉澤 誠一郎

- ①「近代日本の中国城市指南及其印象：以北京、天津為例」（巫仁恕主編『城市指南与近代中国城市研究』，319～353頁，民国歴史文化学社，2019年6月）。
- ③「旅大回収運動（一九二三年）再考」（史学会第117回大会東洋史部会，於：東京大学本郷キャンパス，2019年11月10日）。

吉田 建一郎

- ①「第5章 通史3（南京国民政府期）：『南京国民政府十年建設』（第6巻）」（川島真・中村元哉編著『中華民国史研究の動向：中国と日本の中国近代史理解』，92～108頁，晃洋書房，2019年4月）。
- ①「第17章 華僑：『華僑与国家建設』（第14巻）」（川島真・中村元哉編著『中華民国史研究の動向：中国と日本の中国近代史理解』，310～324頁，晃洋書房，2019年4月）。

吉田 豊

- ① “Sogdian version of the Bugut Inscription revisited”, *Journal Asiatique*, 307/1, pp. 97–108, Société Asiatique, Apr. 2019.
- ①「カラバルガスン碑文に見えるウイグルと大食関係」（『西南アジア研究』，No. 89，34～57頁，西南アジア研究会，2019年9月）。
- ① “The Discovery of the South Chinese Manichaean Painting “Hagiography (3)” and its contents”, 〈Hiroshi KUMAMOTO〉, *Rivista degli Studi Orientali Nuova Serie*, XCII fasc. 1-2, pp. 209–230, Sapienza Università di Roma Istituto Italiano di Studi Orientali, Oct. 2019.
- ①「9世紀東アジアの中世イラン語碑文2件：西安出土のパフラビー語・漢文墓誌とカラバルガスン碑文の翻訳と研究」（『京都大学文学部研究紀

要], 第59号, 97~269頁, 京都大学大学院文学研究科・文学部, 2020年3月).

① “Studies of the Karabalgasun Inscription: Edition of the Sogdian Version”, *Modern Asian Studies Review* / 新たなアジア研究に向けて, Vol. 11, pp. 1-140, The Toyo Bunko, Mar. 2020.

吉水 清孝

③ 「ミーマーンサーの王権論とその偏向：Rājasūya の祭主資格について」(京都大学人文科学研究所共同研究「ブラフマニズムとヒンドゥイズム：南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」2019年度定例研究会, 於：京都大学人文科学研究所, 2020年1月10日).

③ 「ミーマーンサーの王権論とその偏向：Rājasūya の祭主資格について」(京都大学人文科学研究所共同研究「ブラフマニズムとヒンドゥイズム：南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」第7回シンポジウム「古代・中世インドの社会と宗教：「聖典」の諸相」, 於：京都大学芝蘭会館, 2020年2月23日).

吉水 千鶴子

① “Updating Prāsaṅgika and prasaṅga” (『印度学仏教学研究』, 第68巻第3号, 87~93頁, 日本印度学仏教学会, 2020年3月).

③ 「帰謬派と帰謬論証」(日本印度学仏教学会第70回学術大会, 於：佛教大学, 2019年9月8日).

③ “Śāntarakṣita and Kamalaśīla versus Candrakīrti/ Pa tshab Nyi ma grags”, 5th International Workshop on Madhyamaka Studies, Ryukoku University, 24 Nov. 2019.

吉村 武典

③ “Sabils in Cairo”, International Workshop: “Network and Urban Landscape in Historical Perspective: Focusing on Urban Structure”, Library of Alexandria, Egypt, 26 Aug. 2019.

六反田 豊

③ 「河世鳳「過去10年来の韓国学界における海洋史研究」に対する討論」(第19回日韓歴史家会議「海洋／海域と歴史」, 於：西江大学校(ソウル特

別市), 2019年11月9日).

渡辺 紘良

②『『三台万用正宗』卷22算法門訳注稿』((公財)東洋文庫研究部ホームページ, (公財)東洋文庫, 2019年4月, 95頁, [<http://id.nii.ac.jp/1629/00006739/>]).